ユーザーガイド

H6D

H6D ユーザーガイド 2018-05-02 v1.8

HASSELBLAD
CREATE TO INSPIRE

目次

1 はじめに 8
1.1 本マニュアルバージョン1.8で追加された説明 9
1.2 システム要件 9
1.3 一般的な技術仕様 10
1.4 H6D-50c 11
技術仕様 11
1.5 H6D-100c 12
技術仕様 12
1.6 H6D-400c MS 13
技術仕様 13

2 安全のために 14
2.1 警告 15
2.2 注意 15
2.3 廃棄 16
2.4 FCC 17
2.5 ISED 17

3 概要 18
3.1 H6D双方向ディスプレイ 19
3.2 主要カメラ部品 20
3.3 部品、コンポーネント、ボタンおよびコントロール 21
3.4 グリップボタンおよびコントロール 24
3.5 カメラ本体のボタンおよびコントロール 25
3.6 センサーユニット 26
3.7 ビューファインダー 27
3.8 レンズ 28
3.9 表示情報 29
3.10 背面ディスプレイおよびコントロール 30
3.11 グリップディスプレイ 31
3.12 ビューファインダーディスプレイ 32
ビューファインダーディスプレイの例 32
3.13 割り当て可能なボタンオプション 34
3.14 ショートカット 35
3.15 Phocusの概要 36
3.16 バッテリーおよびバッテリーグリップ 37
3.17 バッテリー充電器 38
バッテリーを充電する 38
充電式バッテリーグリップの仕様 39
バッテリー駆動時間とバッテリー警告 40
3.18 温度警告 40
3.19 電源オフ&タイムアウトモード 41

3.20 ビューファインダーの取り外しおよび取り付け 42
3.21 視度補正 43
3.22 ラバーアイカップ 43
3.23 アクセサリーの接続 44
3.24 PCフラッシュコネクター 44
3.25 保護ベースプレート 45
保護ペースプレートの取り外し 45
保護ベースプレートの取り付け 45
3.26 メモリーカード 46
メモリーカードを挿入するには 47
メモリーカードを取り外すには 48
メモリーカードのフォーマット 49
フォーマットボタン 49
背面ディスプレイ経由でメモリーカードをフォーマットする 49
3.27 ストラップを取り付ける 50
3.28 ストラップを外す 51
3.29 レンズを交換する 52
レンズを装着する 52
レンズを取り外す 52

4 準備する 53
4.1 梱包内容の確認 54
4.2 日付および時刻の設定 55
4.3 言語の設定 56
4.4 パソコンに接続 57
4.5 カメラインターバルの設定例 58
4.6 ディスプレイの明るさの設定 59
4.7 ドライブモードを設定 60

5 使用する 61
5.1 メニュー内の移動 62
センサーユニットのメニューおよび設定の概要 62
タッチスクリーンの移動 62
ボタンナビゲーション 62
5.2 メインメニュー 63
メインメニュー画面にお気に入りの機能を追加する 63
メインメニュー画面からお気に入りを削除する 63
コントロール画面を表示 64
コントロール画面の説明 65
5.3 カメラ設定メニュー 69
5.4 カメラの露出設定 70
段階設定（露出ステップ） 71
露出補正/クイックアジャスト 72
フラッシュ調光補正 72

ISOおよびホワイトバランス 73
測光設定 74
シャッター機能設定 75
マニュアル露出モード 76
自動露出モード 77
自動露光ーPモードとPvモード 78
AE-Lボタン 79
測光方式 80
5.5 トゥルーエクスポージャーの説明 81
ホワイトバランス設定ープリセットおよびマニュアル 82
フラッシュ設定 83
フラッシュ/ストロボの設定 84
内蔵フラッシュ 85
単体のフラッシュユニット接続 86
単体のフラッシュユニットのフラッシュ測光 87
露出ロック 88
AEロック/クイックアジャスト 89
ミラー設定 90
5.6 カメラ画像設定 91
5.7 カメラのクオリティ設定 93
5.8 カメラフォーカス設定 94
フォーカシング距離の計算 95
ストップダウン/被写界深度プレビュー 95
赤外線フォーカス設定 96
フォーカスアシスト 97
マニュアルフォーカス 98
オートフォーカスモードでのマニュアルオーバーライド 98
オート/マニュアルフォーカス設定 98
オートフォーカス 99
マニュアルモードでのオートフォーカスチェック 99
シングルショットフォーカス 100
コンティニアスフォーカス 100
5.9 トゥルーフォーカス 101
トゥルーフォーカスと絶対位置ロック 102
トゥルーフォーカスとカメラの取扱い 103
フォーカスチェック 103
5.10 カメラのトゥルーフォーカス方法 104
トゥルーフォーカスボタンによる起動 104
シャッターボタンによる起動 105
5.11 ホワイトバランスツール 106
5.12 セルフタイマー 107
5.13 インターバル設定 108
5.14 カメラブラケット設定 109
ブラケティング機能 109

5.15 ライブビュー設定 110
ライブビュー 111
ライブビューでのズーム 112
ライブビューでのフォーカス 112
フォーカスピーキングを用いたライブビューでのフォーカス 113
HDMI外部モニターを用いたライブビュー 114
ライブビューをHTS 1.5xチルト/シフトアダプターと併用 115
5.16 カスタム機能 116
5.17 カメラ設定 117
5.18 カメラ本体設定 118
5.19 動画設定メニュー クオリティ 119
動画クオリティ設定 119
5.20 動画設定メニュー ライブビュー 120
ライブビュー設定 120
5.21 動画記録 121
5.22 一般設定 メニュー 122
一般設定 Wi-Fi 123
5.23 一般設定 ディスプレイ 124
5.24 一般設定 ストレージ 125
CFastおよびSDカードをフォーマット 126
フォーマットボタン 126
背面ディスプレイでメモリーカードをフォーマットする 126
画像および動画の保存先 127
サウンド 128
5.25 一般設定 日付と時刻 129
5.26 一般設定 電源オフとタイムアウト 130
ディスプレイオフモードを設定 131
パワーオフ 131
USB電源 131
5.27 一般設定 水準器 132
水準器のキャリブレート 133
5.28 一般設定 HTS 134
5.29 プロファイル 135
5.30 一般設定 言語 136
5.31 一般設定 サービス 137
5.32 一般設定 更新をチェック 138
H6Dファームウェアの更新手順 138
5.33 一般設定 情報 139
5.34 グリップディスプレイナビゲーション 140
グリップディスプレイのボタンおよびコントロール 140
グリップでシャッターおよび絞りを調整するには 141
グリップディスプレイナビゲーション 142
5.35 ビューファインダーディスプレイナビゲーション 145
標準的なビューファインダーディスプレイ 145

ビューファインダーディスプレイナビゲーションの概要 146
ビューファインダーディスプレイの例 147
5.36 ビューファインダーの取り外し/取り付け 150
ビューファインダーを取り外す 150
ビューファインダーを取り付ける 150
視度補正 151
フォーカシングスクリーンの交換 152
5.37 プレビュー、ヒストグラム、再生 153
プレビューモード 153
標準プレビュー 154
9分割モード 154
ヒストグラムの種類 155
統合ヒストグラムモード 155
輝度ヒストグラムモード 155
色別ヒストグラムRGBモード 155
標準モード 155
統合ヒストグラムモードー露出 156
再生 157
ズームインおよびズームアウト 158
再生するカードを選ぶ 159
新しいフォルダーの作成 160
5.38 マルチショットー4ショット、6ショット 161
5.39 Phocus 162
Phocusの特長 162
Phocus Mobile 162
PhocusとHasselbladの撮影ファイル 163
5.40 レンズ 164
レンズの取り外し 164
レンズの取り付け 165
レンズキャップの取り外し 166
レンズキャップの取り付け 166
レンズシェードの取り外し 167
レンズシェードの取り付け 167
フィルター 168
フォーカス距離を設定するには 169
5.41 バッテリー 170
バッテリーを充電する 170
バッテリーステータスをチェック 171
5.42 ベースプレート 172
ベースプレートの取り外し 172
ベースプレートの取り付け 172
5.43 カメラの保管 173

6 ビューカメラの接続 174
6.1 ビューカメラの操作 175
電源供給 175
フラッシュ同調モード 176
ピンホールモード 177
動画 178
7 アクセサリー 179
7.1 アクセサリー接続図 180
7.2 HCレンズ群 181
7.3 オプションのHCレンズアクセサリー 182
HTS 1.5 182
H 13、26、52接写リング 182
コンバーターH 1.7X 182
マクロコンバーターH 182
7.4 オプションのアクセサリー 183
CFレンズアダプター 183
HVMウエストレベルビューファインダー 183
プロシェードV/H 60 - 95 183
プロシェードアダプター 183
トライポッドカップリングH 183
フラッシュアダプターSCA 3902 184
UVスカイフィルター 184
偏光フィルター 184
クイックプレート付きサポートストラップH 184
カメラストラップH 184
フォーカシングスクリーン 184
レリーズコードH 185
HVM補正レンズホルダー 185
HVD 90x/HV 90x & 90x-IIビューファインダー 185
アングルファインダーH 185
7.5 HM 16-32フィルムマガジン 186
8 トラブルシューティング 194
8.1 エラーメッセージ 196
8.2 バッテリーのリセット 196
8.3 センサーユニットの言語を不明の言語から変更する 197
8.4 レンズガラスの清掃 198
埃を除去する 198
染みを除去する 198
8.5 センサーユニットフィルターの清掃 199

HASSELBLAD
AF S
ISO 100
f/ 5.6
125
EV 12.0
+1.0
M
256
True Focus
AE-L

1.1 本マニュアルバージョン1.8で追加された説明

本マニュアルに記載されている新機能には、ファームウェアバージョン**1.21.0**以降が必要です。

- **音声通知**
  さまざまな状況に応じた音声信号128ページを参照してください。
- **ホワイトバランスツール**
  スポイトツールを使用して、撮影した画像からニュートラルなエリアを選択し、ホワイトバランスを設定します。106ページを参照してください。
- **プロファイル**
  すべてのカメラ設定を保存し呼び出すことができるプロファイルを7つ用意しました。135ページを参照してください。
- **テザー接続したカメラからの画像インポート**
  テザー接続したカメラのメモリーカードからPCへ画像をインポートします。
- **設定をすべてリセット**
  プロファイルを含めたすべての設定をリセットする新しいオプションです。137ページを参照してください。
- **シャットダウンメッセージ**
  カメラがシャットダウンする際、ディスプレイにメッセージが表示されます。
- **ズーム表示**
  [True Focus] ボタンを長押しすると、100%に拡大されます。[AE-L]ボタンを長押しすると、全体表示に戻ります。158ページを参照してください。
- **HDMIパン**
  HDMIモニターが接続されている場合は、背面画面のタッチパッドを使用してズーム画像を移動できます。114ページを参照してください。

1.2 システム要件

RAW画像の保存や編集には、一定性能のコンピュータが必要になります。大きな画像は、十分なメモリー、高度なグラフィックス機能、最新のオペレーティングシステムを持つ高性能なコンピュータを必要とします。

カメラから画像を速く読み取るためにUSB3.0コネクターを備えたコンピュータを推奨します。

1.3　一般的な技術仕様

カメラタイプ	オートフォーカス、自動露出、交換可能なビューファインダーとレンズを備えた中判デジタル一眼レフカメラ。
構造	一体型ステンレススチール筐体。ダイキャストアルミニウム内部構造。三脚ネジ穴（1/4および3/8インチ）および迅速な取り付けができるクイックカップリングトライポッドプレート。
ディスプレイ	3インチTFTタイプ、24ビットカラー、92万画素、タッチ機能：完全対応
ライブビュー	高フレームレートを搭載したカメラ、ホストコンピュータ、iOSデバイス
Wi-Fi	802.11 a、ac、b、g、n（aおよびacは地域によって異なります）。
レンズ	ハッセルブラッドHC/HCDレンズは、電子制御されたシャッターと絞りを備えています。オートフォーカスまたはマニュアルフォーカス（インスタントマニュアルフォーカスオーバーライドを備えています）。すべてのHC/HCDレンズは、デジタル撮影に必要な条件を満たします。レンズシェードは、輸送時には反対に取り付け可能です。
ビューファインダー	眼鏡を着用する場合でも100%の視野角を提供する、90°レフレックスビューファインダー、内蔵マルチモード露出計。H6D-50cでは3.1倍の拡大率、H6D-100cでは2.7倍の拡大率。ガイドナンバー12の内蔵フィルインフラッシュ。オートフラッシュ用ホットシュー（Metz SCA3002システム/SCA3902アダプター）。すべての関連情報を表示するドットマトリックスディスプレイ。-5～+3.5Dの視度調整を搭載。交換可能。
フォーカシング	オートフォーカスおよびマニュアルフォーカス。マニュアルモード時の電子フォーカスエイド。インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド。パッシブ型中央クロスタイプの位相検出センサーを使用したオートフォーカス。AF計測範囲EV1～19（ISO100）。
シャッター	電子制御レンズシャッター（最高速度1/2000）（H6Dのみ、他のHシステムカメラでは1/1000）。すべての速度でフラッシュ同調。
フラッシュコントロール	TTL中央重点システム。内蔵フラッシュ、またはSCA3902アダプターを使用してSCA3002（Metz）システム互換のさまざまなフラッシュで使用できます。ISO範囲16～6400。フラッシュの出力は、定常光とは独立して補助目的で調整（-3～+3EV）できます。すべてのシャッタースピードで同期。
露出測光	90°レフレックスビューファインダーを使用したマルチモード露出測光。測光オプション：スポット（直径7.5mm）、中央重点、センタースポット。f/2.8およびISO100の測光範囲：スポット：EV2～21、中央重点：EV1～21、センタースポット：EV1～21。
オートブラケティング	1/3、1/2、または1EVステップの間隔で、設定した枚数（2、3、5、7、9）でブラケット撮影します。
インターバルタイマー	撮影枚数は2枚から制限なしまで、間隔は1秒から1時間まで。
ディスプレイ	カメラは、明確で簡単に理解できる情報をユーザーに提供する、2つのドットマトリックスディスプレイを備えています。そのうちの1つはグリップ上にあり、もう1つは90°ビューファインダーにあります。センサーユニットには、高解像度フルタッチ3インチTFTディスプレイがあります。
フォーカシングスクリーン	高輝度球面アキュートマットタイプD、センサーフォーマットマーキング付き。グリッドマークタイプもオプションで提供しています。
カスタマイズ	H6Dの多くの機能は、内蔵のメニューシステムを通して、ユーザーのスタイルや状況に合わせてカスタマイズできます。4つのプログラム可能ボタンを備えます。すべてのカメラ設定を、7つのカスタムプロファイルに保存できます。
音声通知	内部スピーカーより行います。
ユーザーインターフェイス	スワイプ、スクロール、ズームのためのピンチ/スプレッドなどのフルタッチユーザーインターフェイス。ボタンとコントロールホイール付きのカメラグリップ。カメラ機能と設定の多くは、テザー接続されたパソコンまたはWi-Fi接続のiPhone/iPadから制御できます。
電源供給	充電式リチウムイオンバッテリー（7.2V DC/3200mAh）、外部電源用ソケット。USBホストは電源の一部を供給できます。カメラ用のバッテリーが必要です。

1.4 H6D-50C

技術仕様

センサータイプ	CMOS、5000万画素（8272 × 6200ピクセル、5.3 × 5.3μm）
センサーサイズ	43.8 × 32.9mm
画像サイズ	静止画：RAW 3FRの撮影では、平均で108MBです。TIFF 8ビット：154MB、動画：HD（1920 x 1080p）、Hasselblad RAW 2.7k
ファイル形式	静止画：Hasselblad 3FR、1/4サイズ JPEG 動画：H.264 圧縮（25fps）、Hasselblad RAW（25fps）
撮影モード	シングルショット静止画、動画
階調	16ビット、約14 ストップダイナミック レンジ
ISO 感度	ISO100、200、400、800、1600、3200、6400
記録媒体	CFastカード、SDカード（UHS-I）、あるいはMac/PCにテザー接続
カラーマネジメント	ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション、HNCS
保存容量	16GBカードは平均で140枚の画像を保存
ヒストグラムフィードバック	背面ディスプレイとグリップディスプレイ上にあります
IRフィルター	センサー前面にマウント
ソフトウェア	Phocus（Mac用とWindows用）
対応するソフトウェア環境	Macintosh：mac OSバージョン10.9以降、PC：XP/Vista/Windows 7（64ビット）/8/10以降。
ホスト接続タイプ	USB 3.0（5Gbit/s）Type-Cコネクター、Mini HDMI、オーディオ入力/出力
その他の接続	Mini HDMI、オーディオ入力/出力、フラッシュ同調入力/出力、電源入力
ビューカメラとの互換性	フラッシュ同調経由でメカニカルシャッターが制御されます。
フィルム互換性	あり
シャッタースピード範囲	60分～1/2000秒（レンズタイプにより異なります）
フラッシュ同調速度	フラッシュはすべてのシャッタースピードで使用できます。
ビューファインダーのオプション	HVD 90x：90°アイレベルのビューファインダー（視度補正（-5～+3.5D））。3.1倍の拡大率 内蔵フィルフラッシュ（GN. 12 @ ISO100）。Metz™SCA3002システムフラッシュ用ホットシュー HVM：ウエストレベルビューファインダー。3.2倍の拡大率
フォーカシング	パッシブ方式の中央クロスタイプセンサー付きオートフォーカス測光。ウルトラフォーカス・デジタルフィードバック。 インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド。ISO100での測光範囲EV1～19
フラッシュコントロール	TTLオート 中央重点システム。内蔵フラッシュまたはSCA3002（Metz™）互換のフラッシュを使用。 出力は-3～+3EVに調整できます。フラッシュのマニュアル発光では、内蔵露出計が使用可能。
露出測光	スポット、中央重点、センタースポット 測光範囲スポット：EV2～21、中央重点：EV1～21、センタースポット：EV1～21
動作温度	-10～45˚C
寸法	HC80レンズ付きカメラ一式：153 x 131 x 205mm [幅 x 高さ x 奥行]
重量	2105g（HC80レンズ付きカメラ一式、リチウムイオンバッテリーとカード）

1.5 H6D-100C

技術仕様

センサータイプ	CMOS、1億画素（11600 × 8700ピクセル、4.6 × 4.6μm）
センサーサイズ	53.4 × 40.0mm
画像サイズ	静止画：RAW 3FRの撮影では、平均で210MBです。TIFF 8ビット：289MB、動画：HD（1920 x 1080p）、UHD（3840 x 2160p）
ファイル形式	静止画：Hasselblad 3FR、JPEG（1250万画素） 動画：Hasselblad RAW（UHD、25fps）、H.264圧縮（HD、25fps）
撮影モード	シングルショット静止画、動画
階調	16ビット、約15 ストップダイナミック レンジ
ISO 感度	ISO: 64, 100, 200, 400, 800. 1600, 3200, 6400, 12800
記録媒体	CFastカード、SDカード（UHS-I）、あるいはMac/PCにテザー接続
カラーマネジメント	ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション、HNCS
保存容量	16GBカードは平均で72枚の画像を保存
ヒストグラムフィードバック	背面ディスプレイとグリップディスプレイ上にあります
IRフィルター	センサー前面にマウント
ソフトウェア	Phocus（Mac用とWindows用）
対応するソフトウェア環境	Macintosh：mac OSバージョン10.9以降、PC：XP/Vista/Windows 7（64ビット）/8/10以降。
ホスト接続タイプ	USB 3.0（5Gbit/s）Type-Cコネクター、Mini HDMI、オーディオ入力/出力
その他の接続	Mini HDMI、オーディオ入力/出力、フラッシュ同調入力/出力、電源入力
ビューカメラとの互換性	フラッシュ同調経由でメカニカルシャッターが制御されます。
フィルム互換性	あり
シャッタースピード範囲	60分～1/2000秒（レンズタイプにより異なります）
フラッシュ同調速度	フラッシュはすべてのシャッタースピードで使用できます。
ビューファインダーのオプション	HVD 90x II：90°アイレベルビューファインダー（視度補正（-4～+2.5D））。2.7倍の拡大率 内蔵フィルフラッシュ（GN. 12 @ ISO100）。Metz™SCA3002システムフラッシュ用ホットシュー HVM：ウエストレベルビューファインダー。3.2倍の拡大率
フォーカシング	パッシブ方式の中央クロスタイプセンサー付きオートフォーカス測光。ウルトラフォーカス・デジタルフィードバック。 インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド。ISO100での測光範囲EV1～19
フラッシュコントロール	TTLオート 中央重点システム。内蔵フラッシュまたはSCA3002（Metz™）互換のフラッシュを使用。 出力は-3～+3EVに調整できます。フラッシュのマニュアル発光では、内蔵露出計が使用可能。
露出測光	スポット、中央重点、センタースポット 測光範囲スポット：EV2～21、中央重点：EV1～21、センタースポット：EV1～21
動作温度	-10～45˚C
寸法	HC80レンズ付きカメラ一式：153 x 131 x 205mm [幅 x 高さ x 奥行]
重量	2105g（HC80レンズ付きカメラ一式、リチウムイオンバッテリーとカード）

1.6 H6D-400C MS

技術仕様

センサータイプ	CMOS、100MP（11600 × 8700ピクセル、4.6 × 4.6μm）
センサーサイズ	53.4 × 40.0mm
画像サイズ	静止画： シングルショット（1億画素）、3FR撮影：211MB。TIFF 8ビット：300MB。 4ショット（1億画素）、3F撮影：650MB。TIFF 8ビット：300MB。 6ショット（4億画素）、3F撮影：925MB。TIFF 8ビット：1.2GB。TIFF 16ビット：2.4GB。 動画：HD（1920 x 1080p）、UHD（3840 x 2160p）
ファイル形式	静止画：Hasselblad 3FR、JPEG（1250万画素） 動画：Hasselblad RAW（UHD、25fps）、H.264圧縮（HD、25fps）
撮影モード	静止画：シングルショット、4ショット、6ショット、動画
階調	16ビット、約15 ストップダイナミック レンジ
ISO 感度	ISO: 64, 100, 200, 400, 800, 1600, 3200, 6400, 12800
記録媒体	CFastカード、SDカード（UHS-I）、あるいはMac/PCにテザー接続
カラーマネジメント	ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション、HNCS
保存容量	32GBカードは平均144枚のシングルショット画像を保存
ヒストグラムフィードバック	背面ディスプレイとグリップディスプレイ上にあります
IRフィルター	センサー前面にマウント
ソフトウェア	Phocus（Mac用とWindows用）
対応するソフトウェア環境	Macintosh：mac OSバージョン10.9以降、PC：XP/Vista/Windows 7（64ビット）/8/10以降。
ホスト接続タイプ	USB 3.0（5Gbit/s）Type-Cコネクター、Mini HDMI、オーディオ入力/出力
その他の接続	Mini HDMI、オーディオ入力/出力、フラッシュ同調入力/出力、電源入力
ビューカメラとの互換性	フラッシュ同調経由でメカニカルシャッターが制御されます。マルチショット操作には、Rodenstock/SinarのeShutterが必要です。
フィルム互換性	あり
シャッタースピード範囲	60分～1/2000秒（レンズタイプにより異なります）
フラッシュ同調速度	フラッシュはすべてのシャッタースピードで使用できます。
ビューファインダーのオプション	HVD 90x II：90°アイレベルビューファインダー（視度補正（-4～+2.5D））。2.7倍の拡大率 内蔵フィルフラッシュ（GN. 12 @ ISO100）。Metz™ SCA3002システムフラッシュ用ホットシュー HVM：ウエストレベルビューファインダー。3.2倍の拡大率
フォーカシング	パッシブ方式の中央クロスタイプセンサー付きオートフォーカス測光。ウルトラフォーカス・デジタルフィードバック。 インスタントマニュアルフォーカスオーバーライド。ISO100での測光範囲EV1～19
フラッシュコントロール	TTLオート 中央重点システム。内蔵フラッシュまたはSCA3002（Metz™）互換のフラッシュを使用。 出力は-3～+3EVに調整できます。フラッシュのマニュアル発光では、内蔵露出計が使用可能。
露出測光	スポット、中央重点、センタースポット 測光範囲スポット：EV2～21、中央重点：EV1～21、センタースポット：EV1～21
動作温度	-10～45˚C
寸法	HC80レンズ付きカメラ一式：153 x 131 x 205mm [幅 x 高さ x 奥行]
重量	2180g（HC80レンズ付きカメラ一式、リチウムイオンバッテリーとカード）

HASSELBLAD
HASSELBLAD
H6D

2.1 警告

警告!
つまづいたり転倒したりする危険があるため、カメラとパソコンの間にケーブルを置かないでください。人身事故や機材の損傷が生じることがあります。

警告!
予備のバッテリーパックを使用する場合、接点には必ず保護キャップを使用してください。保護されていない場合、接点が短絡し火災の原因となることがあります。人身事故や機材の損傷が生じることがあります。

警告!
バッテリー（バッテリーパックや取り付けられたバッテリー）は、日光や火の元その他の過度の熱に晒さないでください。晒されると、バッテリーが火災の原因となることがあります。人身事故、機材や周辺環境の損傷が生じることがあります。

警告!
ストロボやフラッシュユニットを併用する時は注意してください。人身事故や機材の損傷が防止されます。

2.2 注意

注意!
カメラの使用時は注意してください。カメラは精密機器です。以下の説明はカメラの損傷の防止に役立ちます。

注意!
バッテリーを正しく交換しないと、爆発の危険性があります。同一、または同等のバッテリーのみと交換してください。

注意!
指定されたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの損傷を招くことがあります。

注意!
できるだけかぎり保護カバーを使用してください。保護カバーは、機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
機材を運搬するときは、保護ケースやカメラバッグを使用してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
煙霧や蒸気、湿度、埃から機材を保護してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
低湿低温の状態から高湿の状態に入る場合には、すべての機材をプラスチック袋などで密封してください。機材が新しい温度に馴染むまで待ってから、袋から機材を取り出します。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
頻繁かつ大きな温度変化は避けてください。機材の損傷が生じることがあります。

注意!
カメラや機材は湿気から遠ざけてください。カメラが濡れた場合には、電源から外し、カメラを乾燥させてから使用してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
機材は、乾燥した環境に保管してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
カメラを持ち運びや取り扱いの際は、グリップやストラップを持ってください。カメラの損傷の防止に役立ちます。

注意!
カメラ本体に指を入れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

注意!
ガラス表面に指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

注意!
CMOS/センサーに指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

注意!
センサーユニットを取り外す際には、カメラ開口部に異物が入らないようにしてください。カメラ開口部は非常に精密です。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
センサーユニットを取り外す際には、CMOSセンサー保護フィルターに注意してください。CMOSセンサー保護フィルターは非常に精密です。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
全ての機材は小児の手の届かない場所に保管してください。機材の損傷を防ぎます。

注意!
カメラを掃除する際には、バッテリーを取り外してください。カメラの損傷を防ぎます。

注意!
長期間にわたりカメラを使用しない場合には、バッテリーを取り外してください。機材の損傷を防ぎます。

注意!
センサーユニットを開かないでください。センサーユニットへの損傷を招くことがあります。

注意!
CMOSの前部からガラスIRフィルターを取り外さないでください（埃などの理由で）。機材の損傷が生じることがあります。必ず現地のHasselblad認定サービスセンターにお問い合わせください。

注意!
IRフィルターのガラスを清掃するため缶入り圧縮空気を使用する場合、使用する前に説明書を注意深くお読みください。フィルターの損傷を防ぐのに役立ちます。

2.3 廃棄

この製品は一般廃棄物に分類されます。現地の廃棄規制を確認してください。

2.4 FCC

米連邦通信委員会の干渉に関する声明:
この機材は、FCC規則パート15に従って試験され、クラスBデジタル装置の制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅地での有害な干渉に対する合理的な保護を提供するためです。
この機材は、無線周波数エネルギーを発生、使用して、放射することがあり、指示に従って使用されない場合は無線通信に有害な干渉を発生させる恐れがあります。ただし、特定の使用場所において干渉が生じないという保証はありません。この機材から無線やテレビ受信に有害な干渉が発生する場合(機材をオン/オフすることで確認が可能)には、以下のような措置によって干渉を解決することが奨励されています。

受信アンテナの向きや場所を変える。
機材と受信機の間の距離を離す。
受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続する。
販売店や経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談する。

FCC注意事項:コンプライアンスに責任のある当事者による明示的な承認がなされていない変更や改造があった場合、この機材を操作するユーザーの権限が無効になることがあります。

この装置はFCC規則パート15に適合しています。動作は以下の2つの条件に従います。

この装置が、有害な干渉を引き起こさないこと。
この装置が、好ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れること。

FCC放射線被ばくに関する声明:

この機材は、制御されていない環境について規定されたFCC放射線被ばく制限に適合しています。H6D-50cとH6D-100cについて当局に報告されたSAR最高値は、人体に近接した使用について試験した時、1.6W/kgの制限に対して0.024W/kgでした。

2.5 ISED

無線装置の認可に関するRSS-Gen情報
この装置は、ISEDライセンス免除RSS規格に適合しています。動作は以下の2つの条件に従います。

この装置は、干渉を引き起こさず、かつ、好ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れなければなりません。

Cet appareil est conforme au(x) standard(s) RSS exempt(s) de licence de ISED. Son fonctionnement est sujet aux deux conditions suivantes:

Cet appareil ne doit pas occasionner d'interférence. Cet appareil doit supporter toutes les interférences, y compris celles qui pourraient provoquer un mauvais fonctionnement de cet appareil.

RSS-102 無線通信装置のRF暴露適合。
H6D-50c/H6D-100cは、電波に対する暴露についての安全性要件に適合するように設計されています。使用されている全ての周波数帯域で最大認可出力レベルで送信するH6D-50c/H6D-100cについて、RSS-102に従ったSAR試験が実施されました。試験時のH6D-50c/H6D-100cのSAR最高値は1.6W/kgの限度に対して0.024W/kgでした。
製品の使用については、ユーザーガイドに記載されている説明に従ってください。

Le H6D-50c / H6D-100c a été conçu pour se conformer aux exigences de sécurité en matière d'exposition aux ondes radio. Des tests SAR ont été effectués conformément à la RSS-102 avec le H6D-50c / H6D-100c transmettant à son plus haut niveau de puissance certifié dans toutes les bandes de fréquences utilisées.
La valeur SAR la plus élevée pour la H6D-50c / H6D-100c lors des tests était de 0,024 W / Kg contre une limite de 1.6W/Kg.
Merci de suivre les instructions fournies dans le mode d'emploi pour l'installation et l'utilisation du produit.

HASSELBLAD
H6D

3.1　H6D双方向ディスプレイ

背面ディスプレイ
このディスプレイはタッチセンサー方式で、スマートフォンと同様の方法で操作できます。例えば、スワイプ、選択、ピンチしてズームすることができます。また、カメラグリップのディスプレイやスクロールホイールの下にある5個のソフトボタンを使って移動することもできます。

グリップディスプレイとビューファインダーディスプレイ
グリップディスプレイの近くには、WB、AF、ISO、メニュー/再生、およびプロファイルボタンがあります。ビューファインダーの側にある＋/－ボタンとEXPボタンはグリップで操作する機能です。フロントホイールまたはリアホイールをスクロールすると、設定を変更できます。同じボタンを再び押すと終了して保存できます。

ビューファインダーディスプレイ

背面ディスプレイ

グリップディスプレイ

3.2　主要カメラ部品

3.3 部品、コンポーネント、ボタンおよびコントロール

この章に記載されている部品についてはすべて、各節で詳しく説明しています。

1 フォーカスアシストイルミネーター
2 ミラーアップボタン
3 リモートレリーズポート
4 ストップダウンボタン
5 バッテリーグリップ

1 トゥルーフォーカスボタン
2 カードフォーマットボタン
3 AE-Lボタン
4 カメラストラップホルダー
5 グリップレバー解除ボタン
6 バッテリーグリップロックレバー

1 スピーカー
2 製品番号
3 センサーユニット

1 内蔵フラッシュ
2 ホットシュー
3 内蔵フラッシュレリーズ
4 PC接続ポート
5 レンズ取り外しボタン
6 アクセサリーポートカバー
7 ストラップ取り付け金具
8 センサーユニット取り外しボタン

1 露出モード/測光方式ボタン
2 露出補正ボタン
3 視度補正ダイヤル
4 CFastカード/SDカードスロットカバー
5 ストラップ取り付け金具

1 シャッターボタン
2 フロントホイール
3 ホワイトバランス/ロックボタン
4 AFボタン
5 ISOボタン
6 メニュー/動画ボタン
7 再生/照明ボタン
8 ON/OFFおよびプロファイルボタン
9 ハンドストラップラグ
10 リアホイール

1 **メニューボタン**ーメインメニューを起動します。
メインメニューが既にアクティブの場合は、コントロールスクリーンが表示されます。
2 **ソフトボタン**ー機能はスクリーン情報に応じて異なります。
3 **スターボタン**
4 **ソフトボタン**ー機能はスクリーン情報に応じて異なります。
5 **再生ボタン**ーディスプレイを始動して、前回画像を表示します。画像の確認、閲覧、拡大表示ができます。

3.4　グリップボタンおよびコントロール

注意!
設定によっては複数の機能を持つボタンもあります。

1　シャッターボタン
このボタンには2つのポジションがあります。半押しすると（軽く押すと）、カメラ、オートフォーカス機能、露出計が始動します。押し下げると（強めに押すと）、シャッターが切れます。選択した露出設定とセルフタイマーも起動します。

2　フロントホイール
フロントホイールは、露出設定の変更、グリップメニューの設定へのアクセス、センサーユニットのメニューの移動に使用できます。また、再生画像のオーバーレイ表示の切り替えにも使われます。

3　WB/ロックボタン
このボタンを短く押すと、グリップディスプレイにWBプリセット選択メニューが表示されます。
長押しすると、ボタンロックが始動して、以下のボタンが無効になり、誤って動作しないようにできます。
カメラ本体：トゥルーフォーカス、フォーマット、AE-L、リアホイール、WB、AF、ISO/ドライブモード、メニュー/動画モード、ブラウズ/バックライト、M-UP/セルフタイマー、ストップダウン。
ビューファインダー：露出調整およびEXP。

4　AFボタン
このボタンを押すと、メイン画面から直にオートフォーカス/マニュアルフォーカス選択画面にアクセスできます。詳細は「レンズ」の節を参照してください。

5　ISO/ドライブモードボタン
ISOボタンには2つの機能があります。ISO設定に直接アクセスできます（詳細は「測光・露出コントロール」を参照）。ISOボタンを長く押すと、ドライブモードがシングルと連写で切り替わります。

6　メニュー/動画ボタン
このボタンを押すと、背面ディスプレイが起動します。長く押すと、動画記録モードが起動します。もう一回長く押すと、カメラモードに戻ります。

7　再生モード/グリップディスプレイ照明ボタン
1回クリックすると、再生モードに入ります。もう一度クリックすると、再生モードを終了します。再生モードでは、フロントホイールは画像の移動、リアホイールはオーバーレイ表示の変更に使用します（プレビューモード）。長く押すと、グリップディスプレイが明るくなります。ディスプレイオフモードになるまで、アクティブの状態が保たれます。

ON/OFFおよびプロファイルボタン
ボタンを1秒間押すと、カメラが起動します。H6Dのスタートアップロゴが表示された後、メイン画面が表示されます。数秒（カスタマイズ可能）後に、カメラはディスプレイオフモードに入ります。ボタンを長く押すと、完全にオフになります（ディスプレイオフモードからでも同様）。短く押すと、プロフィールモードが有効になります。135ページを参照してください。

8　リアホイール
リアホイールは、露出設定の変更、グリップメニューの設定へのアクセス、センサーユニットのメニュー操作に使用できます。また、再生画像のオーバーレイ表示の切り替えにも使われます。

注意!
ソフトボタン3～8については、短いクリックと長押しで違いがあります。長押しは、少なくとも1秒です。ソフトボタン4には、長押し機能がありません。

3.5　カメラ本体のボタンおよびコントロール

1　トゥルーフォーカスボタン
初期設定では、このボタンはトゥルーフォーカス（詳細は別項を参照）を起動しますが、モードに応じて、ズームインボタンとして、あるいはセンサーユニットに変更を加える際の選択ボタンとしての働きもします。ボタンに他の機能を割り当てられます。

2　CFastおよびSDカードフォーマットボタン
このボタンは背面ディスプレイにフォーマット画面を表示します。誤って使用されないように窪んでいます。

3　AE-Lボタン
初期設定では、AE-Lが起動し、オート/マニュアル両方の露出モードでの測光値をロックします。また、モードに応じて、再生の際のズームアウトボタンとして、あるいはセンサーユニットに変更を加える際の終了ボタンとしての働きもします。このボタンは他の機能を割り当てられます。詳細については、「測光・露出コントロール/AE-Lボタン」を参照してください。

4　M.UPボタン
このボタンは押すたびに切り替わります。押すとミラーが上がり、もう一度押すと下がります。ボタンを続けて2回早押しすると（間隔は1/2秒以内）、セルフタイマー機能を利用できます。このボタンは他の機能を割り当てられます。

5　リモートレリーズコードポート
リモートレリーズコード（電気式）を取り付けるポートです。ソケットは、括り付けのラバープラグで保護されています。

6　ストップダウンボタン
押すと、選択した絞り値での被写界深度がビューファインダー画面で確認できます。設定値まで絞りが絞り込まれ、押している間は絞り込んだ状態が続きます。ボタンを押したまま絞り値を変更して、変化の度合いを確認できます。このボタンは他の機能を割り当てられます。

注意！
いくつかのボタンは他の機能を割り当て直すことがでます。グリップの後方には3つのコントロールボタンがあります。

注意！
カスタマイズ可能なトゥルーフォーカス、AE-L、M.UPおよびストップダウンなどのボタンは大変便利で、効率の向上に役立ちます。詳細は、別項を参照してください。

3.6　センサーユニット

1　メニュー/（終了）ボタン
このボタンは、メインメニューを表示します。

2　ソフトボタン
このボタンは、再生画面で「画像を削除」するボタンです。画面によってはソフトボタンにもなります。

3　スターボタン
再生画面でこのボタンを使用すると、ズームアウトして9ビューモードにできます。ライブビューでは、50/100%にズームインします（設定によって異なる）

4　ソフトボタン
機能は画面によって異なります。

5　ブラウズボタン
最後に撮影した画像を表示します。画像の確認、閲覧、拡大表示ができます。画像のプレビューを表示します。ズームインすると、プレビューが拡大表示されピントの確認ができます。ズームアウトすると、複数の画像が一度に表示されるようになり、最終的にはフォルダーやメディアが表示されます。

6　CMOSおよびIRフィルター
センサーは内蔵IRフィルターの後ろにあります。フィルターが露出しているときはフィルターの表面に触れたり、傷付けたりしないように常に十分に注意してください。センサーユニットがカメラに取り付けられていないときは、必ず保護カバーを取り付けてください。

7　データバスコネクター
カメラ本体とデジタル通信するためのコネクターです。

8　保持バー
センサーユニットを主に支えるバーです。

9　ストレージメディアカバー
CFastまたはSDカード

10　接続部カバー
外部接続部用のカバーです。

11　オーディオ出力
3.5 mmステレオオーディオ外部出力プラグ用のコネクターです。

12　フラッシュ同調入力
2.5 mmフラッシュ同調プラグ用の入力コネクターです。

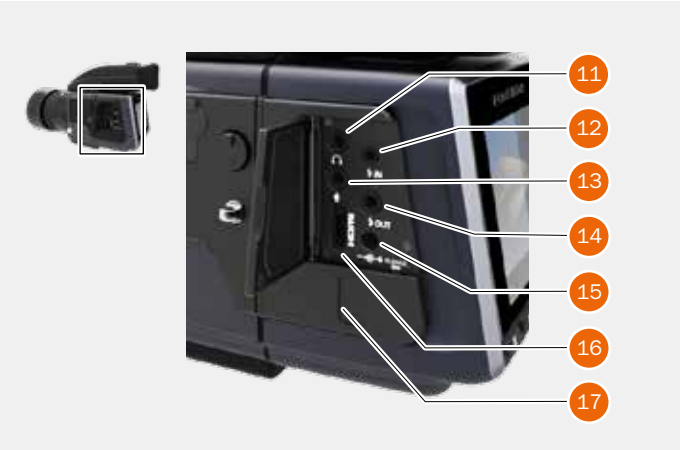
13　音声入力
音声マイク3.5 mmステレオ入力プラグ用のコネクターです。

14　フラッシュ同調出力
3.5 mmフラッシュ同調出力プラグ用のコネクターです。

15　外部電源入力
外部電源入力プラグ用のコネクターです。

16　HDMI
ミニHDMI出力プラグ用のコネクターです。

17　USB 3テザー接続プラグ
USB 3プラグの保護ドアの内側にあるコネクターです。



3.7 ビューファインダー

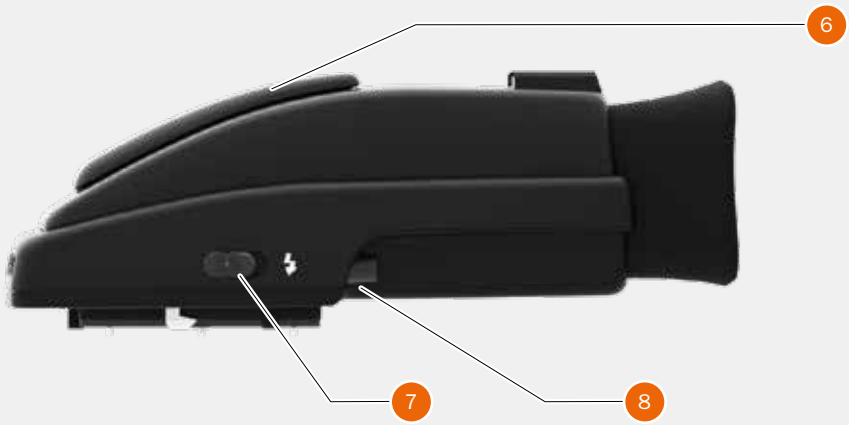
1 ホットシュー
オートフラッシュユニット（SCA 3902アダプター付き）用、またはワイヤレスフラッシュトリガー用の接続部です。

2 ラバーアイカップ
他のモデルにも交換可能です。

3 視度補正ダイヤル
ほとんどのユーザーに適した-5〜+3.5の範囲で視度を補正できます。

4 露出および調光補正ボタン
このボタンを押すと、EV補正画面が表示されます。フラッシュの調光補生は、フロントホイールで行います。露出補正はリアホイールで行います。EV補正値はグリップに表示されます。ビューファインダーディスプレイには、値が0ではない場合は＋か－の符号が表示されます。

5 露出モード/測光方式
EXP（露出）ボタンは、露出モード/測光方式オプション画面を表示します。設定は、フロントとリアのホイールで行い、その設定に従って対応するマークがグリップディスプレイとビューファインダーディスプレイに表示されます。



6 内蔵フラッシュユニット
内蔵フラッシュポップアップボタンをスライドすると開きます。

7 内蔵フラッシュポップアップボタン
このボタンをカメラの後方にスライドすると、内蔵フラッシュが開きます。自動的に起動します。

8 ビューファインダー取り外しボタン
カメラの前方に押すと、ビューファインダーが持ち上がります。マウント保護キャップ。

3.8 レンズ

1 レンズシェード指標
2 マニュアルフォーカスリング
3 焦点距離目盛
4 被写界深度目盛
5 レンズ指標

Hasselbladのホームページから技術データシートをダウンロードできます。

発売中の全レンズと一般情報をまとめたレンズに関する小冊子をダウンロードできます。

3.9 表示情報

ビューファインダー

測光方式
絞り設定
シャッタースピード
露出モード
ショットカウンター
露出補正
フォーカスアシスト
警告表示（三角形）
フラッシュ警告
水準器
ISO
WB
フォーカスモード

グリップ液晶

測光方式
絞り設定
シャッタースピード
露出モード
ショットカウンター
ISO
ホワイトバランス
フラッシュ表示
フォーカスモード
ドライブ
EV
バッテリーステータス
ヒストグラム（オプション）
メモリーカードステータス

Phocus/Phocus Mobile

測光方式
絞り設定
シャッタースピード
露出モード
ISO
ホワイトバランス
フラッシュ表示
フォーカス
ドライブ
EV

背面液晶

ホワイトバランス
フォーカスモード
ISO
バッテリーステータス
絞り
シャッタースピード
EV値
露出補正
露出モード
測光方式
ドライブモード
撮影残量
ストレージメディアステータス

モードによっては、液晶にその他の情報が表示されることもあります。
プレビュー画像、ヒストグラム、ライブビュー、水準器

3.10 背面ディスプレイおよびコントロール

撮影時、背面には最も必要とされる情報が表示され、設定の確認を速やかに行うことができます。ユニットのボタン、グリップのホイール、カメラボタンは、タッチディスプレイとともに、メインメニュー内の移動や設定の変更に使用されます。

このタッチディスプレイは、CFastカードまたはSDカードに保存されたすべての画像を表示できます。画像の再生/ズームをして細部のチェックができます。

撮影時、各種モードを選択して、現在のプレビューに表示する情報の量を変更できます。

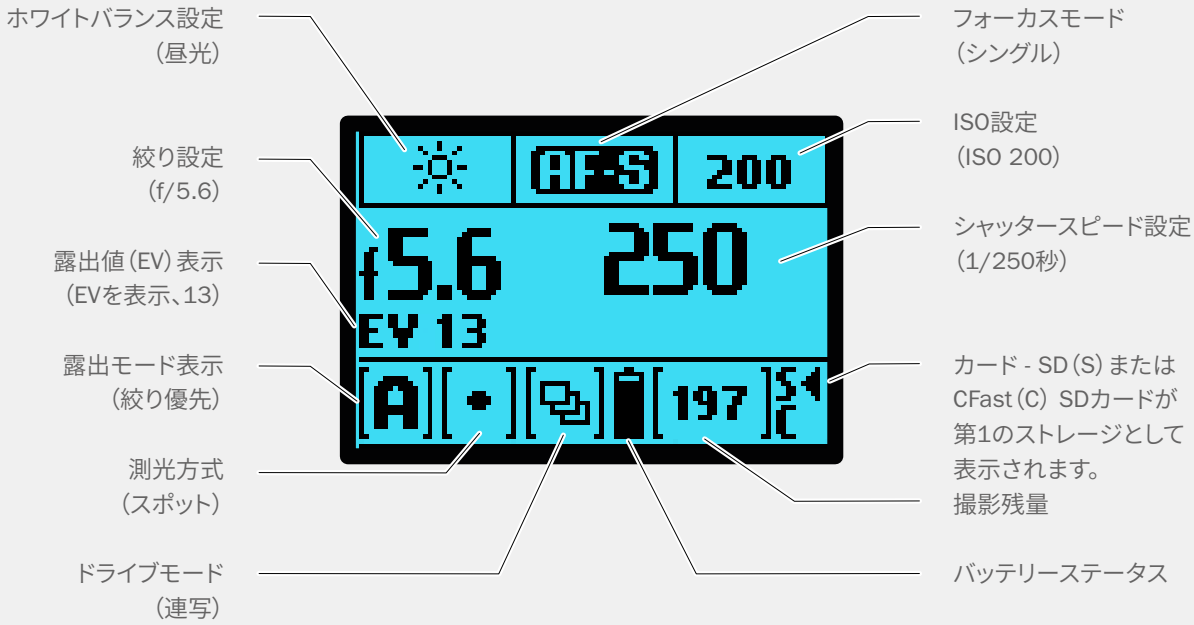
ボタンとホイール
再生画面での移動には、ホイール、トゥルーフォーカス、AE-Lの各ボタンを利用できます。

背面ディスプレイの右下にあるボタン、またはグリップの再生ボタンを押すと、再生画面を起動できます。

コントロール画面
コントロール画面は双方向型です。どの画面からも下にスワイプすると、制御画面が表示されきます。設定をタップして選択すると、設定値の選択が表示され、値を変更できます。コントロール画面では、絞り設定、シャッタースピード、フォーカス設定、ドライブモード、露出モード、ISO、露出補正、ホワイトバランスを変更できます。EV値、バッテリーステータス、ストレージメディアステータス、撮影残量カウンターは、情報の表示専用で、変更はできません。

3.11 グリップディスプレイ

グリップディスプレイの例



設定変更時のグリップディスプレイの例

露出モードの変更：

1 ビューファインダーの「EXP」ボタンをクリックします。

2 設定できる露出モードのある上の列から、フロントホイールを使用して露出モードを選択します。ここでは「Pv」が選択されています。

3 設定できる測光方式のある下の列から、リアホイールを使用して選択します。

4 シャッターボタンを半押しして、選択を確定します。

注意！

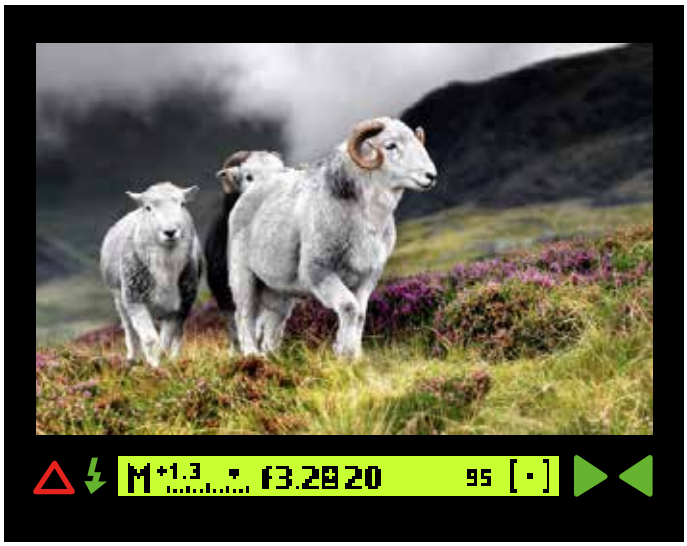
ホイールの説明と方向
矢印は、設定の変更に使用するホイールを示します。

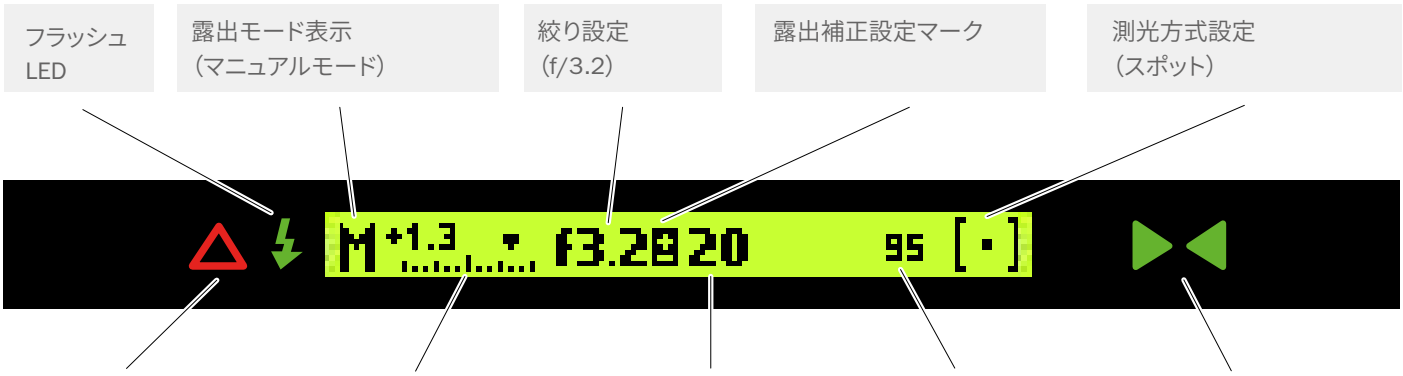
左右の矢印＝フロントホイール。
上下の矢印＝リアホイール。

3.12 ビューファインダーディスプレイ

ビューファインダーディスプレイの例

ビューファインダーディスプレイのユーザーインターフェイス





注意！
このLEDは、カメラまたは設定で起動された時にのみ発光します。

設定とビューファインダーディスプレイ

ISO (ISO 400)

ISO ◂ 200 400 800 ▸

AFモード (AF-S)

AF ◂ AF-S AF-C AF-T MF ▸

WB

WB ◂ M ▸

WB ◂ M ▸ 2500K

露出および測光方式の例

EXP ◂ M A S P Pv ▸

M＝マニュアル
A＝絞り優先
S＝シャッター優先
P＝プログラム
Pv＝可変プログラム

露出補正モード

+0.0 -1.0

[●] 中央部重点
[•] センタースポット
[⊙] スポット

3.13 割り当て可能なボタンオプション

これら4つのグリップボタンには名称が記された機能があらかじめ割り当てられていますが、以下に記載したその他各種の機能を割り当て直すことできます（メインメニュー→カメラの設定→カスタム機能）。

コントロール画面
リアディスプレイにコントロール画面を起動します。

ライブビュースタート
背面ディスプレイでライブビューを開始します。

AEロック
オートモードおよびマニュアルモードで、測光値をロックします。ゾーン測光にも使用されます。

AFドライブ
AF制御を有効にします。

ミラーアップ
振動を最小限に抑えるために、ミラーが上がった状態にロックします。

トゥルーフォーカス
トゥルーフォーカス機能を起動します。

カードを見る（トゥルーフォーカスやAE-Lボタンと同時には使用できません）
画像再生をします。

画像を消去する（トゥルーフォーカスおよびAE-Lボタンと同時に使用することはできません）
現在の画像を削除します。

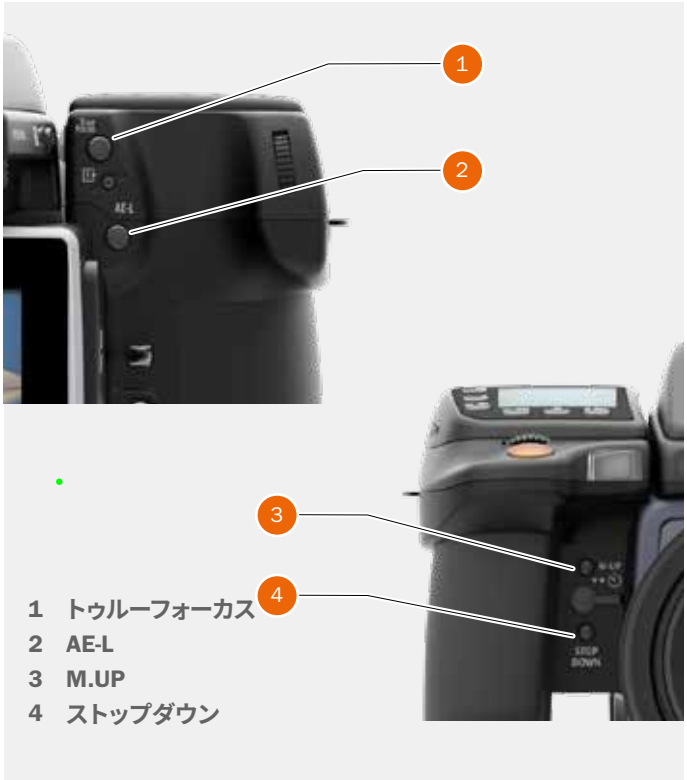
ストップダウン
被写界深度を確認できるように、ストップダウン機能を起動します。

シャッター
シャッターボタンの代わりに使用できます。

LMモード
次の測光方式を選択します。

ヒストグラムを表示する
最新のヒストグラムをグリップディスプレイに表示します。

水準器
リアディスプレイとビューファインダーディスプレイで水準器機能を起動します。



セルフタイマー
セルフタイマーモードを設定します。時間設定したリモートシャッターレリーズ機能を提供すると共に、ミラーの動きのシーケンスを変化させます（振動を減少させるため）。

インターバル
インターバル機能開始画面を起動します。

ブラケティング
ブラケットモードを設定します。この機能は、自動的に一連の撮影をします。1枚は標準露出設定（マニュアルまたはオート）で、それ以外はあらかじめ設定されたEV値をずらして撮影します。

露出オーバー表示 オン/オフ（トゥルーフォーカスやAE-Lボタンと同時には使用できません）
視覚的な露出オーバー警告を有効または無効にします。

フラッシュメジャー
フラッシュ測光露出をします。

B-モード
Bモードを起動します。

T-モード
Tモードを起動します。

割り当てなし
機能はありません。

3.14 ショートカット

1　メニューボタン
設定オプションへのアクセス。センサーユニットのメニューボタンを押します。

2　再生ボタン
画像を再生します。

3　シャッターボタン
カメラの起動。カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。任意の変更をした後、終了（メニューボタン）またはシャッターボタンを押して、新しい設定を保存します。

半押しすると、すべてのメニューを終了して撮影モードに戻ります。

4　フロントホイール
メニュー操作/再生操作 センサーユニットメニューでは水平方向の移動として、再生モードでは再生画像の移動として機能します。

5　メニューボタン
グリップメニューモードのオン/オフを切り替えます。メニューモードでは、ホイールはセンサーユニットのメニュー内の移動に使用されます。メニューモード以外では、絞りとシャッタースピードの制御をします。このボタンを長押しすると、動画モードとカメラモードとを切り替えます。

6　ON/OFFおよびプロファイルボタン
カメラ起動のオン/オフ カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。1回短く押すと、プロファイルモードを起動します。
135ページを参照してください。

7　リアホイール
メニューの移動。メニューモードで、センサーユニットメニューの縦方向の移動として機能します。メニューモード以外では、絞りまたはシャッタースピードの制御をします。

8　True Focusボタン
カメラの起動。カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。
再生画面では、ズームインボタンの働きをします。
メニューモードでは、センサーユニットメニューで値を選択する働きをします。

9　CFastおよびSDカードのフォーマットボタン
現在挿入されているCFastまたはSDカードをフォーマットします（確認が求められます）。

10 AE-Lボタン
カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。
ズームアウトボタン。再生画面では、ズームインボタンの働きをします。
メニューモードでは、値を選択する働きをします。

11 ミラーアップボタン
カメラの起動。カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。

12 STOP DOWNボタン
カメラをディスプレイオフモードから再び起動します。

3.15 PHOCUSの概要

Phocus
Phocusは、撮影処理およびファイル管理のアプリケーションで、主にHasselblad 3Fファイルの取扱いを目的としています。Phocusには、Mac用とWindows用の両方があります。

プロフェッショナルイメージクオリティ
Phocusはハッセルブラッドナチュラルカラーソリューション（HNCS: Hasselblad Natural Colour Solution）をデジタルオート修正（DAC: Digital Auto Correction）と組み合わせて、高品質なデジタル画像を提供します。Phocusを用いると、非常に高い解像度の画像でさえも発生しがちなモアレが、RAWデータ上で自動的に直接除去されます。画像のクオリティには影響を与えず、ポストプロダクション作業の時間節約につながります。数多くのリモート機能を提供するPhocus Remoteカメラコントロールを用いると、効率のいいテザー撮影が行えます。たとえば、リモートフォーカス、ライブビュー、絞り、露出時間のコントロールなどが行なえます。

Phocus Mobile
Phocus Mobileは、iPhone® 、iPad® 、iPod Touch® で利用可能です。Phocusが起動しているパソコンにワイヤレス接続が可能となり、高解像度のRAW、JPEGおよびTIFF画像を遠隔から閲覧できるようになります。これにより、スタジオでのクライアントと協働作業を行う際のソリューションが提供でき、1台のパソコンの周りに集まるのではなく、各自がそれぞれのiOSデバイスで画像を表示できます。また、Phocus Mobileは、テザー接続されたカメラの遠隔操作や遠隔撮影が可能です。多くのパラメータのすべてを1つの仮想カメラディスプレイ上に整理された形で見ながらコントロールすることができます。この機能は、アクセスしにくい場所に設置されたカメラの遠隔操作に非常に便利です。

Phocus Mobileは、Appleアプリストアから無料ダウンロードできます。www.apple.com.

3.16 バッテリーおよびバッテリーグリップ

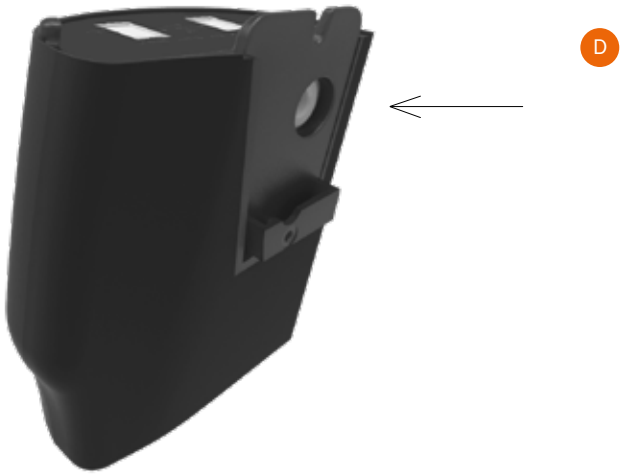
充電式バッテリーグリップ
環境的に承認されたバッテリーグリップLi-ion（3043357）は、H6Dカメラ用の標準電源です。H6Dは、機械的な予備機構を持たないため、あらゆる動作について電源を供給する必要があります。そのため、予備の充電可能バッテリーグリップを用意してことをお勧めします。ほとんどの電池と同様、非常に低い温度で使用すると、問題が発生する可能性があります。このような状況では、予備のバッテリーを例えばポケットに入れておき、体温に保っておいてください。

バッテリーを取り外す
1 バッテリーホルダーボタン（A）を押しながら、同時にバッテリーホルダー保持レバー（B）を停まるまで下に動かして、カメラからバッテリーを取り外します。
2 バッテリーを下向きに引きます（C）。

バッテリーを取り付ける
1 バッテリーをカメラ本体に対して平行になるように保持し、上の2つの突起をスロットに合わせます。
2 バッテリーを元の位置にスライドさせます。
3 バッテリーホルダー保持レバー（B）を手前に回転させ、クリック音がするまで戻します。

バッテリーを保管する
バッテリーをカメラとは別に保管する場合、ショートを防ぐために、バッテリーの電気接点に保護カバーを取り付けるようにします。このカバーは、所定位置にパチンと嵌まり、外す時はロック用クリップを外方向に引いてから上方向に引きます。

バッテリーを充電器に接続する
1 充電器プラグをバッテリーの内側にあるプラグコネクターに接続します（D）。
2 充電器をコンセントに接続します。



注意！
付属の3200mAhバッテリーのみ使用してください。旧型の2900mAhバッテリーを使用することもできますが、容量が限られます。旧型の1850mAhバッテリーは使用しないでください。

詳細は、次のページを参照してください。

3.17 バッテリー充電器

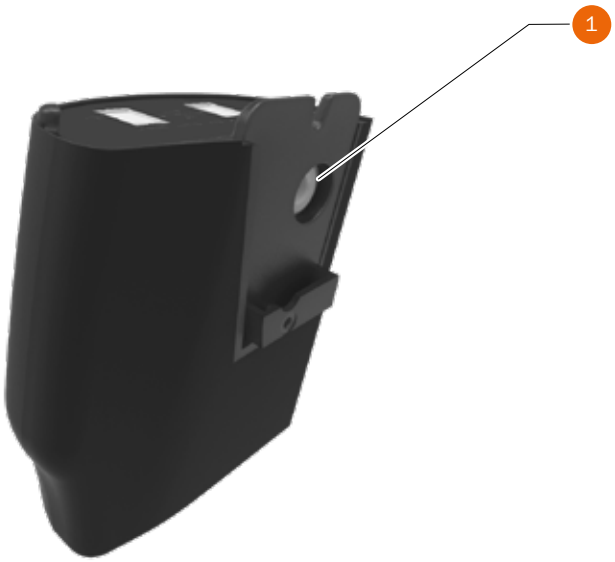
バッテリー充電器には、世界中の国で使用されている多様なタイプのソケットに対応するために、付属品として多数のプラグアタッチメントが用意されています。その他のソケットでは、その国に応じたソケット変換器が必要となります。

選択したプラグを所定位置にスライドさせて取り付けます。取り外しは、逆の手順で行います。

注意!
バッテリー充電器BCH-2（3053572）は、バッテリーグリップLi-ion 3200（3043357）との使用を前提に設計されたものですが、H5D用バッテリーグリップ7.2V Li-Ion 2900（3043356）にも使用できます。

バッテリーを充電する

1 電池をカメラから取り外した状態で、バッテリー充電器の充電プラグをバッテリーグリップのソケットに差し込みます（1）。
2 バッテリー充電器を家庭用コンセント（100-240V/50-60Hz）に差し込みます。



充電中は、充電器のランプが以下の状態を示します。

緑色ライト点灯：スタンバイ（バッテリー未接続）。
黄色ライト点灯：充電中。
緑色ライト点灯：充電完了。

注意!
バッテリーを初めて充電する場合には、満充電されるまでに約6時間かかることがあります。

詳細および注意事項については、次のページを参照してください。

充電式バッテリーグリップの仕様

LI-ION/バッテリー充電器3053572 BCH-2
ー注意事項および一般事項

バッテリーを初めてご使用になる前に、約6時間充電してください。

バッテリーの充電は必ず室温で行うようにしてください。

バッテリーの最大容量に達するには、数回の充放電が必要です。

フル放電を頻繁にしないようにしてください（フル放電すると、バッテリー交換の警告がグリップディスプレイに表示されます）。バッテリーはLi-ion型であるため、実質メモリ効果はなく、頻繁に充電しても容量や性能の低下などの問題は発生しません。そのため、使用の有無にかかわらず、バッテリーを定期的に充電することをお勧めします。

カメラを長期にわたり保管する場合、バッテリーを取り外してください。カメラがオフの状態でもバッテリーが完全に消耗するためです。

バッテリーには内蔵の容量ゲージ機能があり、グリップディスプレイにあるバッテリー交換機能やバッテリーステータス機能に対応しています。ほとんどのLi-ionバッテリーと同様、この能力は、バッテリーの使用度合いに応じて、時々校正することをお勧めします。校正を行うには、「バッテリー交換」警告が表示されるまで、カメラをオンの状態（あるいは使用状態）にして放置します。
その後、6時間充電します。これで、測定の精度が改善されます。

充電器からバッテリーを取り外してすぐに別のバッテリーを取り付ける時には、数秒間待ってから取り付けて、充電器が次の充電に備えて自動的にリセットできるようにしてください。

充電中にバッテリーが温かくなるのは、通常の仕様です。

温度が非常に高い場合や低い場合、多少のバッテリー性能の低下がみられることがあります。この場合、適切な措置をとってください。

長期間にわたりバッテリーを使用しない時には、室温で、約30%～40%充電された状態で保管するのが最適です。

バッテリーの有効寿命は、充放電約400サイクルです。

バッテリーグリップをカメラに正しく接続してください。

使用しない時は、保護カバーは付けたままにします（例えば、ポケット内で鍵と接触しショートが起こると、火災の危険があります）。

バッテリーグリップを液体に浸さないでください。

バッテリーグリップを焼却しないでください。

環境的に認められた方法で再利用または廃棄してください。

屋内でのみ使用してください（湿気に対する保護）。

充電プラグをショートさせないでください。

プラグアタッチメントを交換する以外のいかなる方法でも充電器を改造しないでください。

注意！
ディスプレイオフ/スリープ/パワーオフの設定や、ディスプレイの明るさ設定を変更することで、バッテリー消費を節約できます。

バッテリー駆動時間とバッテリー警告

バッテリー駆動時間は、さまざまな要因に依存するため、正確には予測できません。カメラが、例えば、ディスプレイオフモードやスリープモードにせずに、アクティブの状態で長期間にわたり放置されると、バッテリーはずっと消耗が早くなります。バッテリーの残量が少なくなると、グリップディスプレイとビューファインダー内にマークで表示され、背面ディスプレイにも表示されます。さらに、信号音が鳴ります。バッテリーがほぼ完全に消耗すると、「Replace battery」のメッセージがグリップディスプレイに表示されます。
ライブビューや動画撮影を頻繁に利用すると、バッテリーの消耗は早くなります。

3.18 温度警告

短時間に多くの枚数を撮影すると、カメラのプロセッサーはより多くの熱を発生します。これは、特に周囲の温度も高いときは、画像ファイルにノイズが発生する場合があります。これを防ぐため、温度上昇時は、センサーユニットに警告アイコンが表示されます。
60°Cになると、センサーユニットが一時的にシャットダウンして、ユニットの温度を下げることを求める警告ダイアログが表示されます。ライブビューや動画撮影を頻繁に使用すると、センサーユニットの温度は早く上昇します。

高温警告

3.19 電源オフ&タイムアウトモード

メインメニュー→一般設定→電源オフ&タイムアウト

H6Dカメラは、バッテリー節約のため、一定時間後にセンサーユニット表示が自動的にオフになるように設定できます。

ディスプレイオフまたはパワーオフ設定を変更

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 電源オフ&タイムアウトアイコンを押します。
4 変更するタイムアウト値をタップします。

右にスワイプするか、メニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

電源オフ&タイムアウトのメニュー

ディスプレイオフ
ディスプレイオフ設定を選択します。
－3秒
－5秒
－10秒
－20秒
－30秒
－60秒
－使用しない

パワーオフ
ディスプレイ電源オフ設定を選択します。
－5分
－10分
－30分
－使用しない

USBから電源供給
オンまたはオフを選択します。カメラがUSBホストデバイスから電源供給を受けることができるようになります。

3.20 ビューファインダーの取り外しおよび取り付け

ビューファインダーの取り外し方法

1 ビューファインダーをしっかりと保持します。
2 ビューファインダー解除ボタンを押します(A)。
3 ビューファインダーの後部をカメラ本体から離れる方向に持ち上げます。

ビューファインダーの取り付け方法

1 ビューファインダーをわずかに傾けて保持し、カメラの上に載せます。
2 前方の位置決めピンがカメラ本体のビューファインダースクリーン開口部の前端にある窪み内の所定位置になるまで、ビューファインダーをスライドさせます。
3 ビューファインダーの後部を、クリック音がして所定位置になるまでしっかりと下向きに押します。
4 ビューファインダーの両側が正しく収まり、所定位置にしっかりと装着されてロックされていることを確認してください。

警告!

正しく装着されていないと、断続的に誤作動が発生する恐れがあります。ビューファインダーとカメラ本体の間のデータバスインターフェイスがしっかりと接続されていない場合があるためです。

注意!

ビューファインダーだけでカメラを持ち上げたり、持ったりしないでください。

3.21 視度補正

ほとんどの視度に対して、調整するのに視度補正レンズは必要ありません。視度補正範囲は－5～＋3.5Dです。眼鏡着用者は、眼鏡を着用する場合とそうでない場合で、迅速かつ正確に設定を変更できます。

1 カメラを左手で保持します。
2 カメラを空あるいは類似したなだらかなトーンの領域に向けます。
3 ビューファインダー画面のマークがシャープに見えるようになるまで調整補正ダイヤル（A）を回します。

注意！
通常時に遠方を見るのに眼鏡を着用していて、カメラ使用時にも着用する場合、眼鏡を外さずに上記手順を行ってください。反対に、カメラ使用時に眼鏡を外す場合には、眼鏡を着用せずに上記手順を繰り返してください。

3.22 ラバーアイカップ

H6Dには2つのラバーアイカップがあります。カメラに付属するアイカップは、撮影時に眼鏡を使用しない場合に適しています。

短い2つ目のアイカップは、目をビューファインダーから離して撮影する場合や、眼鏡を着用する場合です。

アイカップはHasselblad認定サービスセンターで変更できます。

3.23 アクセサリーの接続

2個のアクセサリー保持用ねじ山（M5）と、カメラ本体の左側にデータバスコネクターがあり、カバー（A）の下に保護されています。

データバスコネクターカバーの取り外し方法

1 まず左側端（A）を少し持ち上げてカバーを取り外します。
2 カバーを左（B）にスライドさせます。
3 カバーの前端（A）を先に持ち上げます。
4 カバーを取り外します。
5 データバスケーブルを取り付けます。

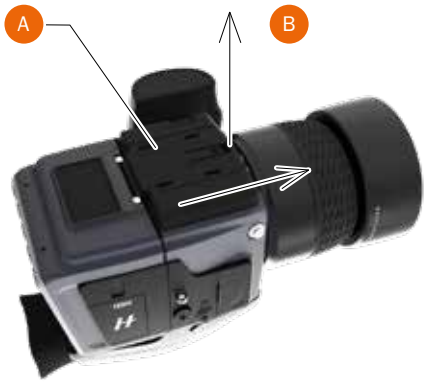
3.24 PCフラッシュコネクター

非TTLフラッシュ同調用のPCコネクター（3）は、本体の左側にあります。ラバープラグで保護されています。

3.25 保護ベースプレート

保護ペースプレートの取り外し

1 保護ベースプレート(A)を取り外すには、プレートをレンズの方に押しつけながら、固定具(B)を持ち上げます。



保護ベースプレートの取り付け

1 保護ベースプレート(A)を元通りに取り付けるには、カメラの最下部上で固定具が所定位置にパチンと嵌まるまでスライドさせます。

3.26 メモリーカード

H6Dカメラで使用できるメモリーカードには2種類あります。

1 CFastカード
2 SDカード(UHS-I)

CFastカードやSDカードを使用した場合、H6Dは単独で使える状態になります。追加のワイヤーやコネクターを取り付ける必要はありません。

推奨されるタイプは、UDMA/4/60Mbs(400x)以上です。

H6Dは16GB SDXC SDカード付きで出荷されており、これは約75〜150枚の容量(モデルによって異なる)があります。

注意!
カードは、初めて使用する前に必ずカメラでフォーマットしてください!

グリップディスプレイのメモリーカードステータス

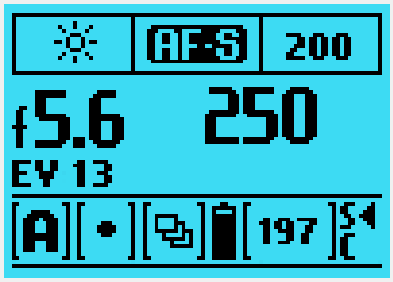
CFastカード

C	挿入済み、非アクティブ。
C<	挿入済み、アクティブ。
C[0]	フル。
C!	カードエラー。
マークなし	カード未挿入。

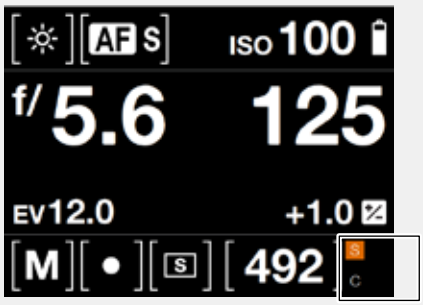
SDカード

S	挿入済み、非アクティブ。
S<	挿入済み、アクティブ。
S[0]	フル。
S!	カードエラー。
ロックマーク	カードが書き込み保護。
マークなし	カード未挿入。

グリップディスプレイビュー



センサーユニットディスプレイのコントロール画面



現在動作確認しているカード

CFastカード

San Disk Extreme PRO CFast 2.0
Lexar Professional 3400x CFast 2.0
Wise CFAST 2.0 Green
Wise CFAST 2.0 Blue*

*カードのステッカーの右上に「H」の文字のある新しいブルーカードのみに対応。

SDカード

SanDisk Extreme PRO 95MB/s (SDHC-I)
SanDisk Extreme PRO 300MB/s (SDHC UHS-II)
Lexar Professional 2000x (SDXC UHS-II)
Delkin SD1900X

(UHS-IIカード、UHS-I speed、80 MB/s)

メモリーカードを挿入するには

CFastカードを挿入する

1 センサーユニットのCFastカードカバー（A）を、窪みに親指を入れて、スロットカバーを後方にスライドさせて開きます。カバーの後に、CFastカード用のスロット（B）と小型SDカード用のスロット（C）があります。
2 CFastカードのコネクターの穴がスロットの方向に向くようにCFastカードを持ちます。このとき、カメラの背面ディスプレイを正面に見る場合、カードのブランドラベルが読める向きにします。
3 CFastカードをスロットにゆっくりと押し込みます。抵抗がある場合、カードを逆向きか裏返しに持っている可能性があります。カードが一番奥付近まで楽に挿入できる場合は、正しく挿入しています。
4 カードをさらに2ミリほど押して所定位置に収まるようにします。
5 スロットカバー（A）を閉じてから、前方にスライドしてロックします。

SDカードを挿入する

1 カードスロットのドアが開いたら、SDカードスロット（C）にSDカードを挿入します。
2 スロットカバーを閉じてから、前方にスライドしてロックします。

メモリーカードを取り外すには

CFastカードを取り外す

1 センサーユニット(A)のメモリーカードスロットカバーを開きます。
2 CFastカード(B)を少し押し込んでから放します。
3 カードが数ミリメートルほど押し出されます。
4 カードを掴んでセンサーユニットから引き出します。
5 スロットカバードアを閉じます。

SDカードを取り外す

1 センサーユニット(A)のメモリーカードスロットカバーを開きます。
2 SDカードを少し押し込んでから放します。SDカードがSDカードスロットから出てきます。
3 カードを掴んでセンサーユニットから引き出します。
4 スロットカバードアを閉じます。

注意!
準備完了ランプ(D)が点滅しているときは、センサーユニットからCFastカードやSDカードを取り外さないでください。準備完了ランプ(D)は、センサーユニットの右下角に表示されます。

この状態で取り出すと、カードにあるすべてのファイルが破壊(結果的に喪失)することがあり、新しくフォーマットし直す必要がある場合もあります。

メモリーカードのフォーマット

メインメニュー→一般設定→ストレージ

カメラは、正しくフォーマットされたストレージメディアにのみ読み書きができます。新しいカードは、フォーマットされていない場合があります。また、カメラが読み込めないフォーマットになっているため、読み込めるように変換したい場合があるかもしれません。どちらの場合も、H6D用にセンサーユニット内でCFastカードやSDカードを再フォーマットしなければなりません。

カードのフォーマットには2つの方法があります。グリップにあるフォーマットボタン（こちらが早く操作可能）か、センサーユニットメニューを使用します。

フォーマットボタン

カメラグリップのフォーマットボタン（A）を押します。誤って使用されないように意図的に窪みが設けられているため、ボールペンなどを使用してください。また、親指の先端で強く押してボタンをクリックすることもできます。確認のためのポップアップ画面がセンサーユニットに表示されます。

背面ディスプレイ経由でメモリーカードをフォーマットする

メインメニュー→一般設定→ストレージ

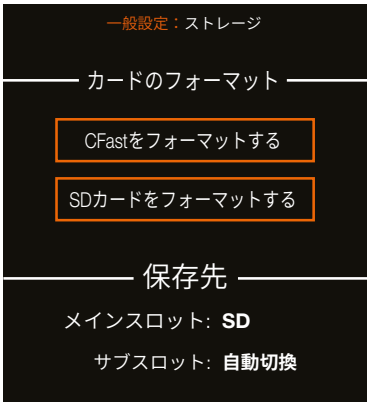
1 メニューを押します。
2 「一般設定」に移動します。
3 「ストレージ」を選択します。
4 「カードのフォーマット」に移動します。
5 「CFastをフォーマットする」または「SDカードをフォーマットする」に移動します。
6 「フォーマット」（ディスプレイボタン）を押して確認します。

注!
H6DにはUDMA/タイプ4/60MB（または400x）以降のカードのみ推奨します。

注意!
初めて使用する前に、必ず、CFastおよびSDメモリーカードをセンサーユニット側でフォーマットすることをお勧めします。

注意!
フォーマットを頻繁に使用する場合は、メインメニューにお気に入りの機能として追加することができます。

ストレージメニュー



3.27 ストラップを取り付ける

1 ストラップの安全帯を引き出し、フックを解除します。
2 フックをストラップラグに取り付けます。
3 安全帯をスライドさせて戻し、フックが小さい突出取り付け金具の間のロック位置に留まるようにします。

誤って外れることのないよう、カラーは意図的にきつくはめ込まれているため、はめ込む際に多少力を要する場合があります。

3.28 ストラップを外す

1　安全帯を引き出します。
2　解除されたフックをストラップラグから外します。

3.29 レンズを交換する

レンズを装着する

1 レンズ取り外しボタン(A)を押し、カメラ本体からフロント保護キャップ(B)を取り外します。
2 レンズの赤いマーク(C)がカメラ本体の赤いマーク(D)と揃うように、レンズを回転させます。
3 レンズをカメラ本体(E)に取り付け、レンズを時計回りにロック位置まで回します。
4 カメラを使用または移動する前に、レンズがカメラ本体にロックされていることが確認します。

レンズを取り外す

1 片方の手でレンズを持ち、カメラ本体(E)を動かないように保持します。
2 レンズ取り外しボタンを押します。
3 レンズを反時計回りに回します。
4 レンズをカメラから分離します。
5 カメラ本体にフロント保護キャップ(B)を取り付けます。
6 損傷防止のために、取り外したレンズにレンズキャップを取り付けます。
7 レンズは、両方のレンズキャップを取り付け、レンズフード(F)をレンズの前面ではなく逆向きにレンズに被せるように取り付けて保管します。

HVD 90x
EXP
AE-L
HASSELBLAD
H
50

4.1　梱包内容の確認

梱包内容の確認

1　すべての付属品を取り出します。
2　添付の包装に記載されている品目がすべて揃っていることを確認します。
3　全ての品目に損傷がないか点検します。
4　不足していたり損傷している品目がある場合は、その品目の製品番号を書き留めます。すべて問題がない場合は、手順6に進みます。
5　Hasselblad販売店または販売業者に連絡し、不足/損傷の製品番号を伝えます。
6　購入の領収書や保証書を安全な場所に保管してください。

梱包内容

ユーザーガイドとPhocusソフトウェアの入ったUSBスティック

ビューファインダー
バッテリーグリップ
センサーユニット
センサーユニットの保護キャップ

カメラボディ
カメラボディの保護キャップ

レンズ（購入している場合）
レンズフード
レンズキャップ×2

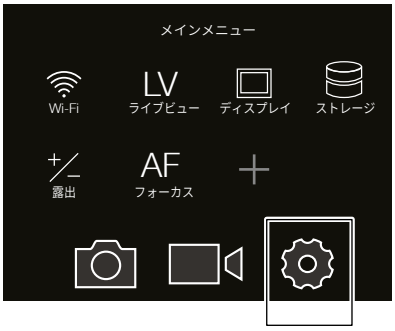
バッテリー
バッテリーソケット保護キャップ
バッテリー充電器、コネクターおよびケーブル

SDカード1枚
USB 3ケーブル
ストラップ

4.2　日付および時刻の設定

メインメニュー→一般設定→日付と時刻

メインメニュー



一般設定アイコン

一般設定メニュー

日付と時刻メニュー

日付および時刻の設定

1　背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2　一般設定メニューが表示されます。
3　日付と時刻アイコンを押します。
4　日付または時刻を選択します。
5　日付および時刻の値を設定します。

右にスワイプするか、メニュー/EXITボタンを押し、メインメニューに戻ります。

日付と時刻メニュー設定

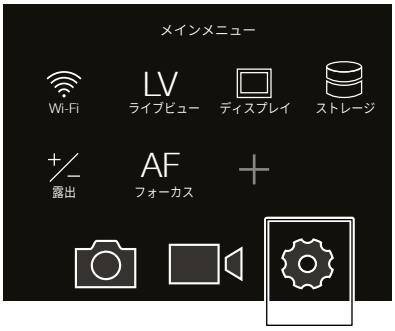
日付
ポップアップメニューを使用して年・月・日を変更して日付を設定します。

時間
ポップアップメニューを使用して時間と分を変更して時刻を設定します。

4.3　言語の設定

メインメニュー→一般設定→言語

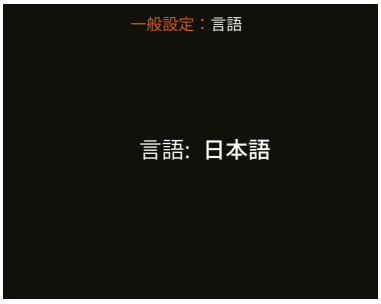
メインメニュー



一般設定アイコン

一般設定メニュー

言語メニュー



言語メニュー設定

使用可能言語:

英語
スペイン語
フランス語
ドイツ語
イタリア語
スウェーデン語
ロシア語
中国語
日本語
韓国語

言語の変更方法

1　背面ディスプレイでメニューボタンを押します。
2　「一般設定」に移動します。
3　言語に移動します。
4　言語を選択します。
5　ポップアップの外側をクリックしてポップアップメニューを閉じます。

注意!
センサーユニットが理解できない言語に設定されている場合は(レンタルカメラなど)、197ページの「トラブルシューティング」の章を参照してください。

4.4 パソコンに接続

1 USB 3ケーブルをパソコンのUSBポートに接続します。
2 USB 3ケーブルをカメラのUSBポートに接続します。

注意!
パソコンに接続した場合は、次が適用されます。

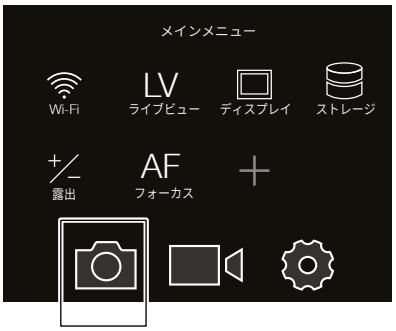
- 保存メディアと場所は、Phocusから制御されます。
- ISO、絞りおよび露出時間などの露出設定は、Phocusから、またはカメラから制御できます。また、ライブ動画、遠隔フォーカス制御などの追加ツールも利用できます。詳細は、Phocusユーザーマニュアルを参照してください。

注意!
カメラをパソコンに接続すると、センサーユニットのボタンは機能しません。

Phocusから撮影を始めると、パソコンは信号をセンサーユニットに送信し、シャッター（および使用していればストロボ/フラッシュ）を切ります。次にカメラは、撮影画像をUSB接続を経由してパソコンに送信し、そこでパソコン画面に表示され、パソコンのハードディスクで現在選択されているフォルダー内に16ビット3Fファイルとして保存されます。

4.5 カメラインターバルの設定例

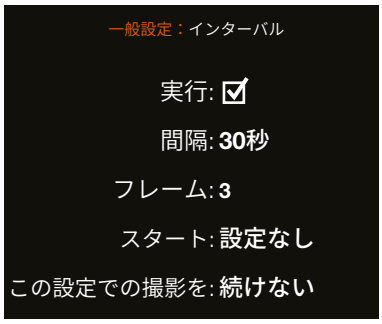
メインメニュー



カメラ設定アイコン

カメラ設定メニュー

インターバル設定メニュー



メインメニュー→カメラ設定→インターバル

1 背面ディスプレイのカメラアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 インターバルメニューを選択します。

右にスワイプして、メニュー/EXITボタンを押し、メインメニューに戻ります。

インターバルメニュー

実行
オンまたはオフ。

間隔
露出間の時間を分と秒で選択します。

フレーム
フレーム数を選択します。

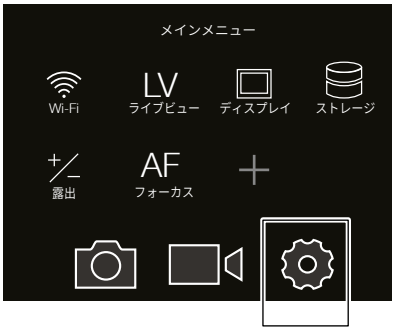
スタート
撮影開始までの遅延時間を選択します。

この設定での撮影を
終了時動作の設定。

4.6 ディスプレイの明るさの設定

メインメニュー→一般設定→ディスプレイ

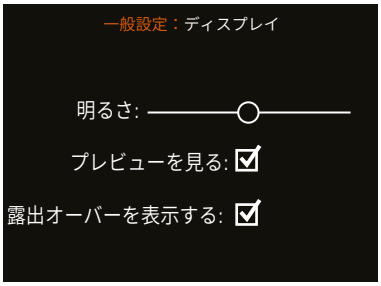
メインメニュー



一般設定アイコン

一般設定メニュー

ディスプレイメニュー



ディスプレイの明るさを設定

1 背面ディスプレイの設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 ディスプレイを選択します。

右にスワイプして、メニュー/EXITボタンを押し、メインメニューに戻ります。

ディスプレイメニュー設定

明るさ
左右にスライドさせて明るさを変更します。

プレビューを見る
オンまたはオフを選択します。オンにすると、毎回の露出後に、キャプチャーのプレビューが表示されます。

露出オーバーを表示する
露出オーバーの領域をハイライト表示します。

4.7　ドライブモードを設定

ドライブモードには、シングルドライブモードと連写ドライブモードの2つがあります。

ISOボタン(A)を長く押すと、シングルドライブモードと連写ドライブモードが切り替わります。コントロール画面からも設定できます。

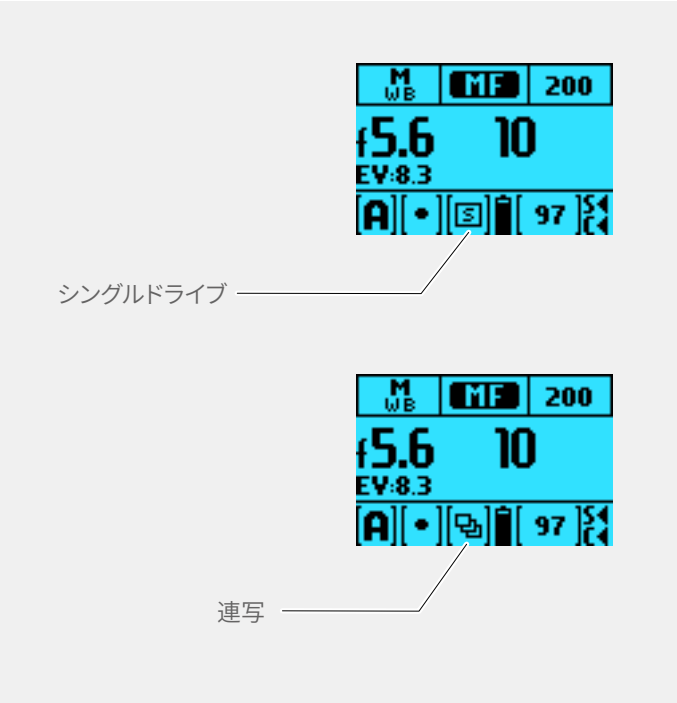
シングルドライブモード
シングルドライブモードでは、シャッターボタンを押すと1回撮影が行われます。

次の撮影を行うには、まずシャッターボタンを放してから、シャッターボタンを再び押す必要があります。

連写モード
連写モードでは、カメラは自動的に撮影します。カメラは、シャッターボタンを押し下げている間、連続撮影を行います。

注意!
速度は、機材に応じて画像を保存するのにかかる時間に依存します。

注意!
ドライブモードも背面ディスプレイのコントロール画面から変更できます。



HASSELBLAD
HASSELBLAD
Ø67mm
2.8/80

5.1　メニュー内の移動

センサーユニットのメニューおよび設定の概要

センサーユニットメニューは、タッチ方式の画面でメニューやアイコンを押すことにより直接コントロールできます。上下、左右方向にスクロールできます。画面のメニューではボタンやホイールを使用して移動することもできます。

タッチスクリーンの移動

移動やコントロールには以下のジェスチャーを使用できます。

アクション	機能
右にスワイプ	戻る/画像を右に移動します。
左にスワイプ	画像を左に移動します。再生画面のみ。
下にスワイプ	スクロール/コントロール画面を表示します。
上にスワイプ	スクロール/コントロール画面を非表示にします。
タップ/プレス（押す）	アクション/ボタン/設定を選択します。
ダブルタップ	50%または100%にズームインします。もう一度ダブルタップすると、全体表示にズームアウトします。

機能	アクション
選択	1本指でタップ/プレスします。
コントロール画面を表示	画面の上から下にスワイプします。
コントロール画面を非表示	上にスワイプします。
戻る	右にスワイプします。
ズームイン	スプレッドします（2本の指を離す）。
ズームアウト	ピンチします（2本の指を近づける）。

ボタンナビゲーション

センサーユニットのボタンやグリップのホイール使用すると、メニューのさまざまな階層を移動できます。

ボタン画面機能

1　メニューボタン	メインメニューに戻る
2　ソフトボタン	上
3　スターボタン	選択
4　ソフトボタン	下
5　再生ボタン	再生画面に移動

5.2　メインメニュー

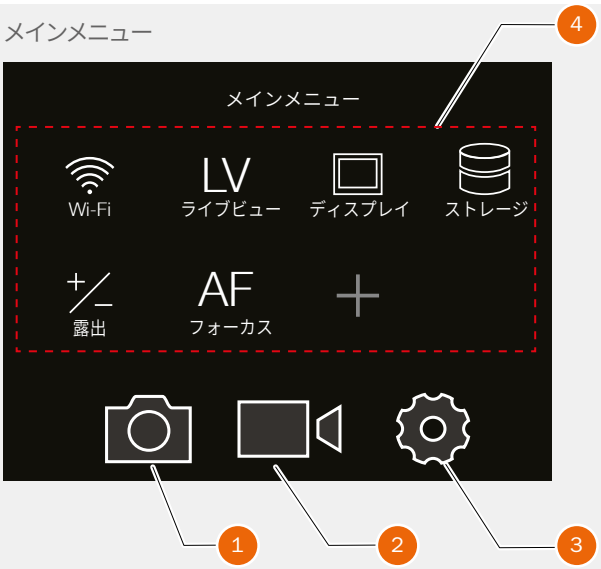
メインメニューには2つの部分で構成されます。

下部にはメインメニュー3項目が一列に並んでいます。

1　カメラ設定
2　動画設定
3　一般設定

上の部分（4）には、お気に入り設定ショートカットが表示されます。ショートカットを追加して、よく使用する機能にメインメニューから直接アクセスできるようになり、それにより使い勝手が改善します。ショートカットは削除したり、他のお気に入りの設定と置き換えることもできます。

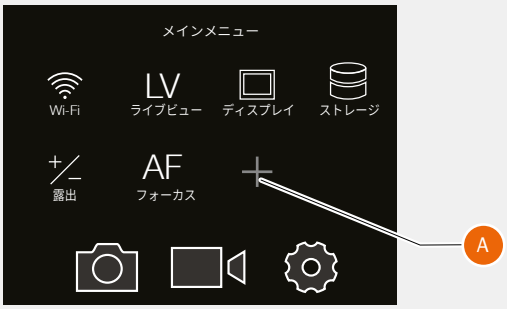
メインメニュー



メインメニュー画面にお気に入りの機能を追加する

1　メインメニューで、＋アイコン（A）を選択して、お気に入りの機能を追加します。
2　ポップアップメニュー（B）にある機能をどれか選択します。この場合は、「クオリティ」が選択されています。

お気に入りを追加

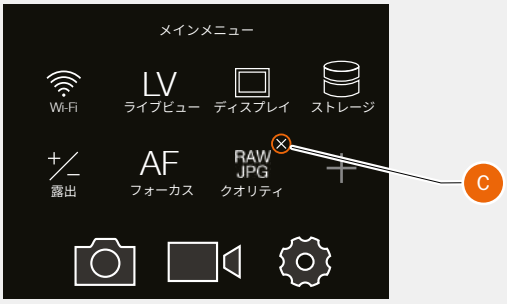


メインメニュー画面からお気に入りを削除する

1　メインメニューから機能を削除するには、選択した機能アイコンを丸で囲まれた×（C）が表示されるまで押し続けます。
2　オレンジの丸（C）の×を押して、「クオリティ」機能を削除します。

お気に入りを追加ポップアップメニュー

お気に入りを削除



コントロール画面を表示

1 どの画面からも下にスワイプすると、コントロール画面が表示されきます。背面ディスプレイ上部の上端近くから下にスワイプします。

2 コントロール画面はカメラの現在の設定を表示します。コントロール画面は双方向式で、任意の設定を選択して素早く調整できます。

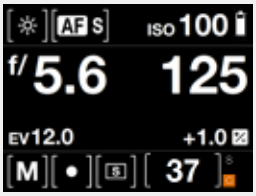
3 上にスワイプして制御画面を非表示にし、メインメニューを表示します。

4 メインメニューが表示されます。

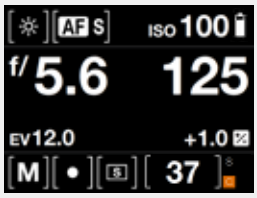
設定できる項目については、以下のページを参照してください。

1 下にスワイプ

2 コントロール画面



3 上にスワイプ

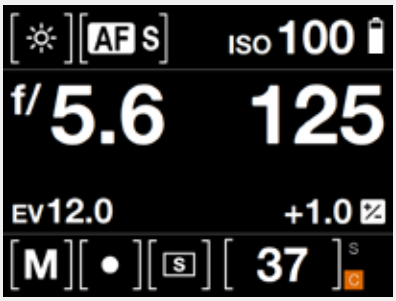


4 メインメニュー

コントロール画面の説明

コントロール画面は設定を即座に調整できる方法です。目的の機能をタップ/選択し、コントロール画面で設定を直接変更します。

コントロール画面

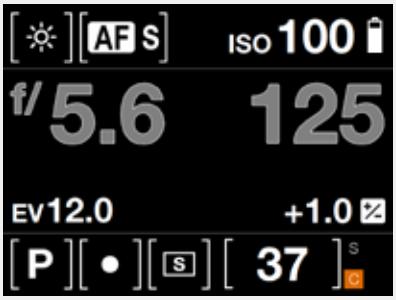


コントロール画面でロックされた値

PモードとPvモード
PまたはPvを選択すると、絞り(5.6)とシャッタースピード(125)は自動であり、グレー表示されて、これらの設定が変更できないことを示します。

コントロール画面

Pモード



Aモード
絞り優先(A)では、絞り値を変更することができますが、シャッタースピード値は自動であり、グレー表示されます。

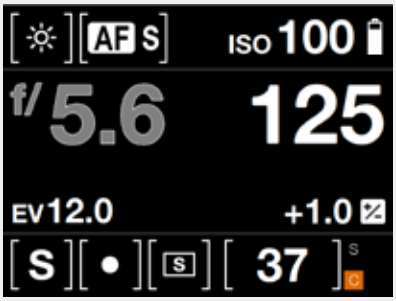
コントロール画面

Aモード

Sモード
シャッター優先(S)では、シャッタースピード値を変更することができますが、絞り値は自動であり、グレー表示されます。

コントロール画面

Sモード



コントロール画面での設定

ホワイトバランス
－曇天
－日陰
－昼光
－タングステン
－蛍光灯
－フラッシュ
－マニュアル

フォーカスモード
－MF　マニュアルフォーカス
－AF-S　シングルフォーカス。
－AF-C　コンティニュアスフォーカス。
－AF-T　トゥルーフォーカス。

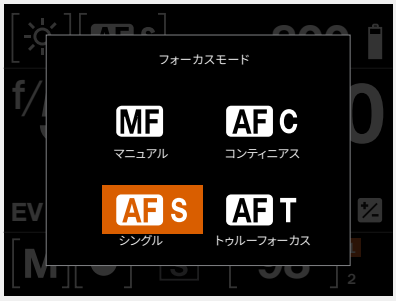
ISO
－ISO値を選択します。

絞り
－絞り値を選択します。

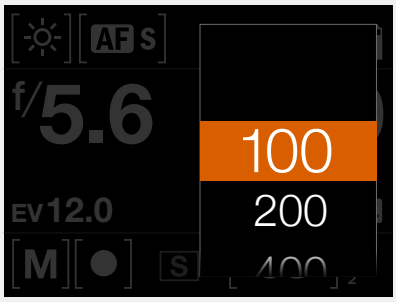
この選択は、次ページに続きます。

ホワイトバランス

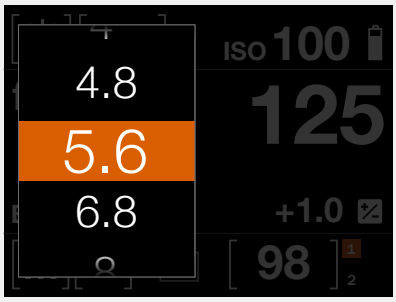
AFフォーカス



ISO



絞り



コントロール画面での設定

シャッタースピード
ーシャッタースピードを選択します。

露出変更
右(+)または左(ー)にスライドさせてフラッシュの調光を調整します。
右(+)または左(ー)にスライドさせて露出を調整します。

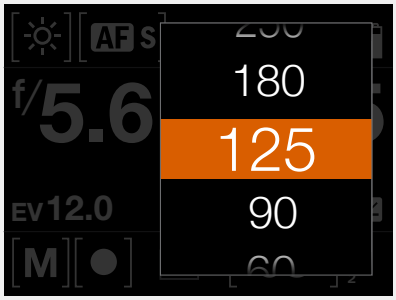
注意!
+/ーアイコンまたはフラッシュアイコンをダブルタップすると、値は0になります。

露出モード
ーM マニュアル
ーA 絞り優先
ーS シャッター優先
ーP プログラム
ーPv 可変プログラム
ーV 動画

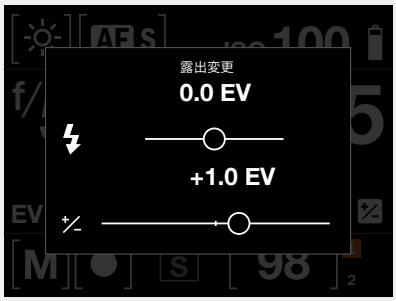
測光モード
ー中央重点
ースポット
ーセンタースポット

この選択は、次ページに続きます。

シャッタースピード

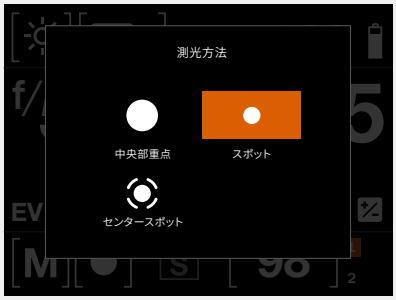


露出変更



露出モード

測光方式



コントロール画面での設定

ドライブモード
－シングルドライブモード。
－連写ドライブモード。

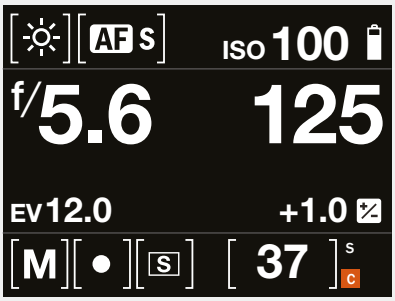
撮影残数
－撮影可能残数を表示。

メモリーカード
－SはSDカード。
－CはCFastカード。

ドライブモード

撮影残数

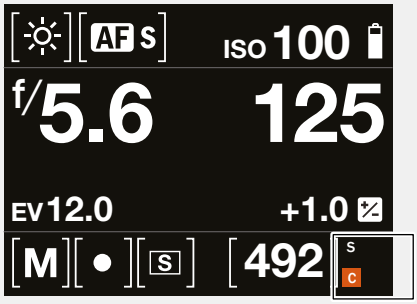
右下の37は、CFastカードで撮影できる残り枚数が37枚であることを示します。



メモリーカード

S－SDカード。

C－CFastカード。



5.3 カメラ設定メニュー

メインメニュー

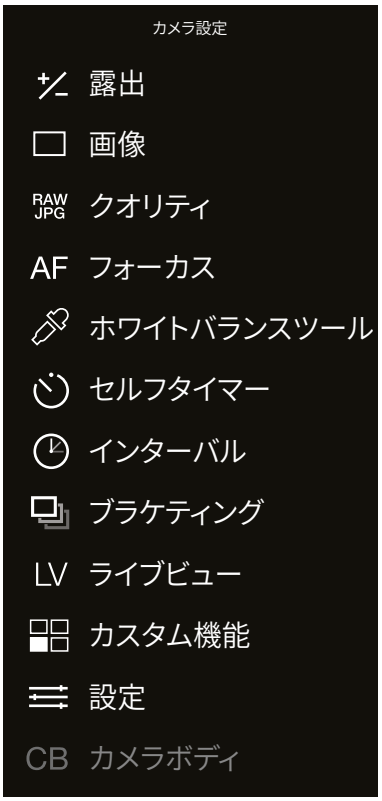
カメラアイコン

メインメニュー→カメラ設定

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



5.4　カメラの露出設定

メインメニュー→カメラ設定→露出

1　背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2　カメラの設定メニューが表示されます。
3　露出メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

露出メニュー

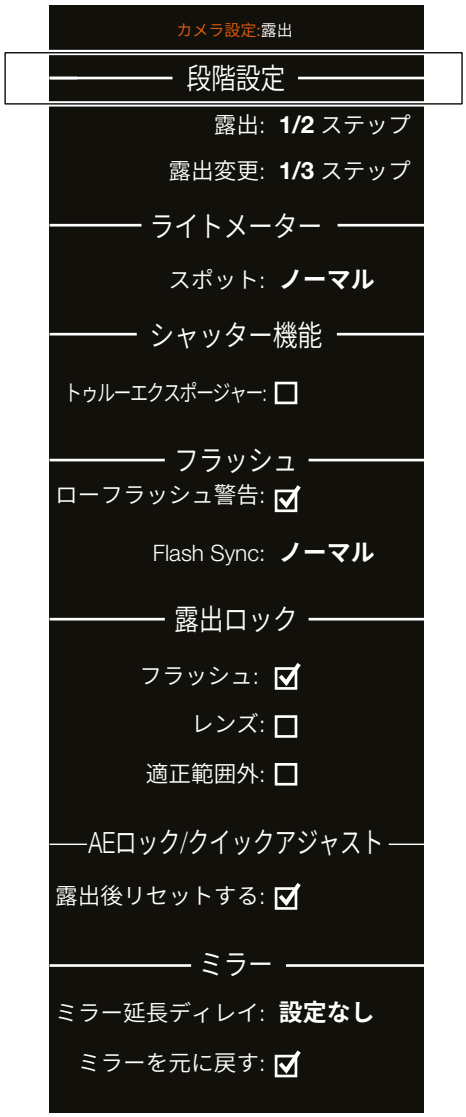
段階設定（露出ステップ）

メインメニュー→カメラ設定→露出→段階設定

1　背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2　カメラの設定メニューが表示されます。
3　露出メニューを押します。
4　段階設定を選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

露出設定メニュー



露出段階設定の設定

段階設定の設定を選択します。

露出

1
1/2
1/3

露出変更

1
1/2
1/3

露出補正/クイックアジャスト

マニュアル/オートのどちらのモードでも、露出補正機能は－5～＋5 EVで、1/3, 1/2または1 EVのステップで設定でき、ビューファインダーの目盛の上に表示され、グリップディスプレイでは±マークとして表示されます。

露出補正は、2つの部分に分けることができます。

1 **固定調整**
ビューファインダー（A）で＋/－ボタンを押します。
リアホイールを回して、選んだ量の補正を選択します。

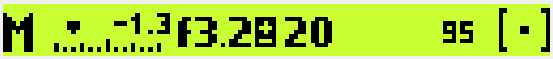
2 **クイック補正**
任意の自動露出モード（A、S、P、Pv）で、リアホイールを回してクイック調整を追加します。露出メニューでは、次回の露出にのみ使用するか、その後のすべての露出で使用するかを制御できます。

固定補正とクイック補正を合わせた量が、ビューファインダーに、－か＋の符号付きのEV値として、またマイナスからプラスの目盛の上のマーカーとして表示されます。

初期設定は1/3のEV補正ステップであり、設定は撮影後にすぐにクリアされます。

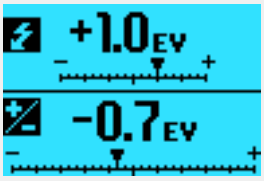
フラッシュ調光補正

1 カメラを起動し、ビューファインダーの＋/－ボタンを押します。
2 フロントホイール（A）を回して、要求される3 EVから－3 EVまでの補正値を設定します。



ビューファインダーディスプレイビュー
露出補正EV －1.3

グリップディスプレイビュー
フラッシュ露出
カメラ露出



ビューファインダーディスプレイビュー
露出補正EV －1.3

フラッシュ露出　　カメラ露出

ISOおよびホワイトバランス

ISOおよびホワイトバランスは、グリップか、背面ディスプレイか、またはPhocusを使用（テザー接続時）してのいずれかで設定されます。

- グリップでは、WB（B）とISOボタン（C）からホワイトバランスおよびISOの設定にすぐにアクセスできます。フロントホイール（A）やリアホイール（D）を使用して変更します。これらは、グリップディスプレイ、背面ディスプレイ、ビューファインダーに表示されます。
- 背面ディスプレイの場合は、設定はタッチディスプレイ上で、またはディスプレイの下にあるソフトボタンを使用して変更できます。
- Phocusでは、カメラの設定を制御するための専用のツールがあります。

設定は、自動的かつ同時にグリップから背面ディスプレイに転送されます。同じく、背面ディスプレイでのすべての変更も、自動的にグリップディスプレイに転送されます。

注意！
シャッターボタンを半押しして設定が保存された時点で、変更は背面にのみ表示されます。

測光設定

メインメニュー→カメラ設定→露出

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出設定メニューを押します。
4 ライトメーターを選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

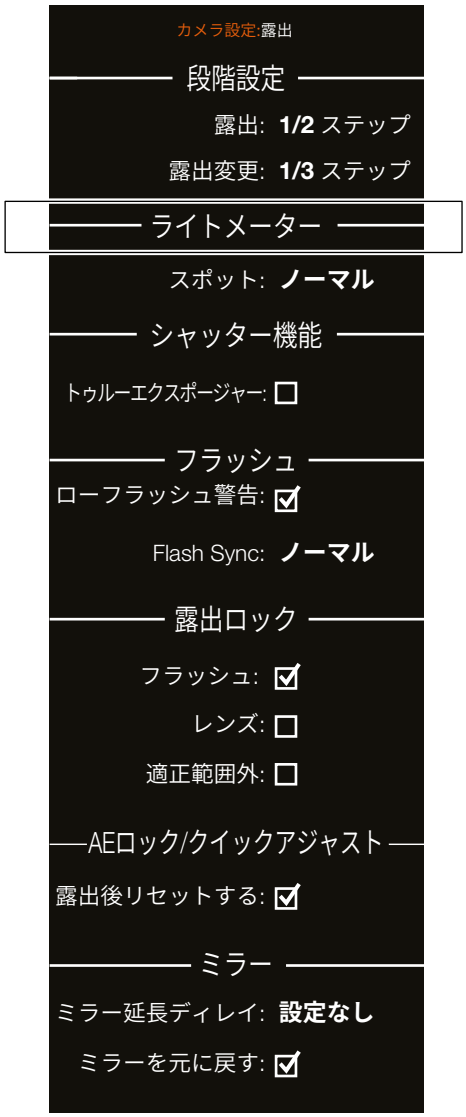
スポットモード設定
スポット測光モードが選択されている場合のカメラの動作を制御します。

スポット
ノーマル
ゾーン

シャッター機能設定
絞りとの関係で速いシャッタースピードの調整にトゥルーエクスポージャー機能を使用するかどうかを制御します。詳細は、81ページを参照してください。

トゥルーエクスポージャー
オン
オフ

露出設定メニュー



シャッター機能設定

メインメニュー→カメラ設定→露出

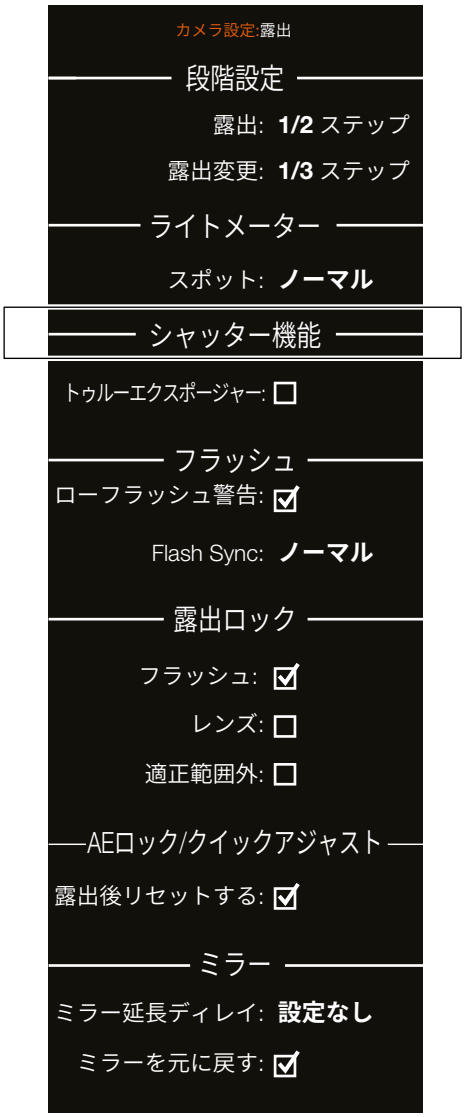
1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出設定メニューを押します。
4 シャッター機能を選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

シャッター機能設定
絞りとの関係で速いシャッタースピードの調整にトゥルーエクスポージャー機能を使用するかどうかを制御します。詳細は、81ページを参照してください。

トゥルーエクスポージャー
オン
オフ

露出設定メニュー



マニュアル露出モード

露出モードを変更するには、下にスワイプしてコントロール画面を表示するか、ビューファインダーのEXPボタンを押します。

マニュアルモードでは、ユーザーがシャッタースピードと絞りの設定を完全に制御します。このモードでは、シャッタースピードや絞りの設定を、フロントホイールやリヤホイールを回して手動で選択します。

標準露出設定は、露出目盛の上のポインターが（ビューファインダーディスプレイの）中央指標の上に位置する時に得られます。

この標準設定からの偏差は、

- ポインターが中央指標上以外の場所にあることで表示されます。
- 目盛の上の数値は、EVでの調整値を表します。

ディスプレイの目盛の上に＋1.3が表示されれば、1.3 EV露出オーバーです。逆に－2が表示されれば、2 EV露出アンダーであることを示します。マニュアルモードで、グリップやビューファインダーの＋/－マークが表示されるのは、露出補正設定が変更されたことを意味します。露出補正については、最後の項を参照してください。

実際の絞り設定とシャッタースピードは、露出目盛の右に従来の方法で表示されます。（注意：1ステップ、1/2ステップ、1/3ステップも表示されます（段階設定を参照）。例えば、f/8とf/11の間の設定は、1/2ステップが選択されている場合、f/9.5として表示されます。）

露出モード
グリップディスプレイ。

露出モード
背面ディスプレイ。

ビューファインダーディスプレイのビジュアルユーザーインターフェイス

自動露出モード

露出モードを変更するには、下にスワイプしてコントロール画面を表示するか、ビューファインダーのEXPボタンを押します。

オート露出には、シャッター優先と絞り優先の設定を半自動で制御する方法と、完全自動で制御する2つの方法があります。

絞り優先 A
フロントホイールを回して絞りを手動で設定します。シャッタースピードはカメラによって自動的に設定されます。

シャッター優先 S
フロントホイールを回してシャッタースピードを手動で設定します。絞りはカメラによって自動的に設定されます。

プログラム P
このモードでは、絞り/シャッタースピードの組み合わせが、測定されたEVに応じて自動的に設定されます（測光方式は設定通り）。

可変プログラム Pv
このモードはプログラムとよく似ていますが、レンズ焦点距離についての追加パラメーターが自動的に設定される点が異なります。たとえば、長い焦点距離のレンズでは遅いシャッタースピードが自動的に回避されます（次ページの図を参照）。

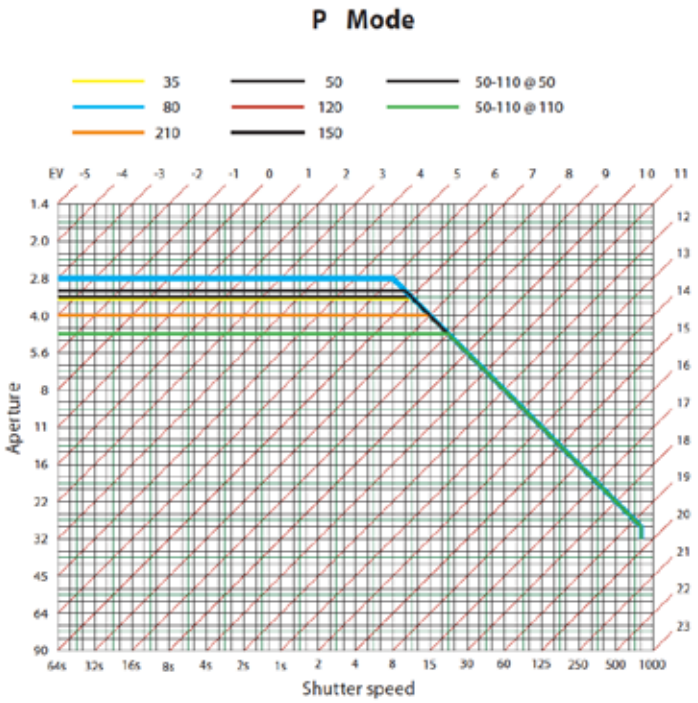
オートモードでは、フロントホイールは、EV値を保ちながら、絞り/シャッタースピードの組み合わせを選んで設定します。リアホイールは、露出補正値を変更します。補正は、グリップディスプレイとビューファインダーディスプレイで＋/－のマークで表示されます。

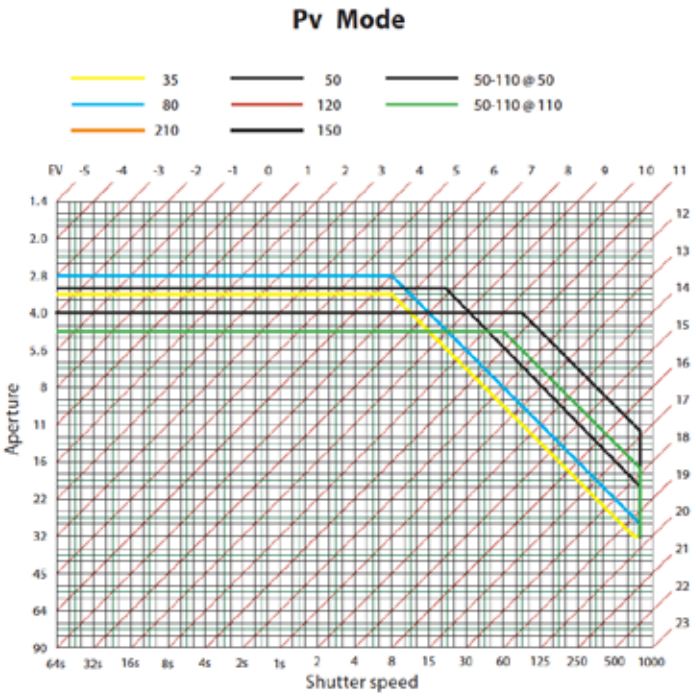
注意！
背面の準備完了ライトが点滅していても、絞りとシャッタースピードの設定はどちらも変更できます。

露出モード
グリップディスプレイ

露出モード
背面ディスプレイ

自動露光－PモードとPVモード





AE-Lボタン

AE-Lボタン（A）には、露出ロックを含むさまざまな操作で利用できる2つの大きな機能があります。また、フラッシュ測光機能用の特別な機能もあります（「フラッシュ」の「AE-L」の節を参照）。AE-Lボタンでは以下が可能です。

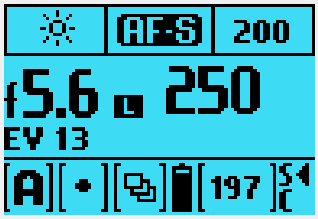
マニュアルモードと自動モードでEV設定をロックする
このボタンを押すと、測光機能がその時点のEV設定にロックされます。グリップディスプレイとビューファインダーディスプレイのシャッタースピードと絞りの表示の間にL（＝ロック状態）マークが表示され、その状態を確認できます。もう一度AE-Lボタンを押すと、ロックが解除されます（トグル機能）。

ロックの設定では、絞りとシャッタースピードが連動するようになります。このように、同じEVを維持しながら、新しい絞り/シャッタースピードの組み合わせを素早く選択できます。たとえば、シャッタースピードが1/125秒で絞りがf/8に設定されていて、ロックされている場合、フロントホイールを動かすことで、たとえば1/30秒・f/16や1/500秒・f/4など、EVが同等の新しい組み合わせを利用できます。

実際には、これは、たとえばオートモードで、測光エリア（スポット設定）を18%グレーと同等の反射率であると判断した被写体のあるエリア上に置き、AE-Lボタンを用いてロックできることを意味します。この後、測光ゾーンをずっと明るいエリアもしくは暗いエリアに置いて写真の構図を変えることができ、この場合でも元の露出設定は維持され、絞りとシャッタースピードの新しい組み合わせを選択できます。

ゾーンシステムの配置ボタンとしての使用
AE-Lボタンにより、スポット測光機能を使用してゾーン配置をすることもできます。AE-Lボタンを押すと、測光エリアが18%グレーとして保存されます（ゾーン5）。スポットエリアがそのシーンの別の部分に置かれると、新しいエリアが保存されたエリアと比較され、その差はビューファインダーに表示される目盛から読み取ることができます。たとえば、風景の場合には、前景を測光し、AE-Lボタンで読取値をロックして（これにより、そのエリアがミッドグレー18%と等価であるものとして再現される）、カメラを岩などに向けて、前景と比較してどの程度暗いかを、目盛から読み取ったEVの差によって確認することもできます。

ゾーン表示と自動モードA、S、P、Pvのいずれかと一緒にスポット測光を選択している場合、ゾーン5とすることに決めたエリアにスポットマーキングを向けて、AE-Lボタンを押します。スポットマーキングを被写体上で動かすと、メーターには、EV偏差ではなく、被写体の異なる部分がビューファインダー内のゾーン値として表示されるようになります。（これには、センサーの範囲を超える部分であることを示すLoおよびHiが含まれます）



グリップディスプレイビュー
ロックマークL。

あるいは、あるエリアを別のゾーンに分類しなおすことにして、被写体の他の部分をチェックすることで、その他のエリアがそのゾーン目盛とどの程度になるかを確認することもできます。これは上述の手順に従い、ビューファインダーディスプレイに目的のゾーン値が表示されるまでリアホイールを回すことにより行います。また、その新しいゾーンでの新しい露出を確認できます。たとえば、ゾーン5で岩を測光して、もっと暗くしたいとします。リアホイールを動かすことで、それをゾーン4に分類しなおすことができます。たとえば、白い雲が新しいゾーン分類の露出範囲に入るかどうかを確認することができます。

また、測光のためのゾーン5の被写体が自由に利用できない場合に、時間と労力を節約する目的で、最初のゾーンの読取値をあらかじめ設定することもできます。たとえば、通常はその砂がゾーン6に分類されることが分かっている砂浜にいる場合などです。AE-Lボタンを押したままで新しいゾーン値を選択し、ゾーン6が表示されるまでフロントホイールを回すことにより、ゾーン配置をあらかじめプログラムできます。すべての新しい配置がゾーン6になります。

測光方式

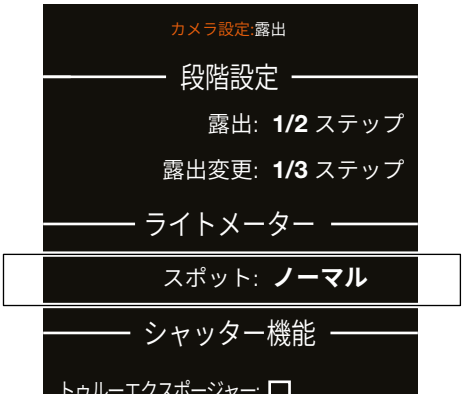
測光方式は、コントロール画面で、またはビューファインダーのEXPボタンを押すことで変更できます。リアホイールを使用してモードを選択します。

使用可能な測光モード
3つの反射式測光モードがあります。
中央重点、センタースポット、スポット測光です。

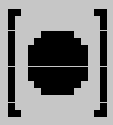
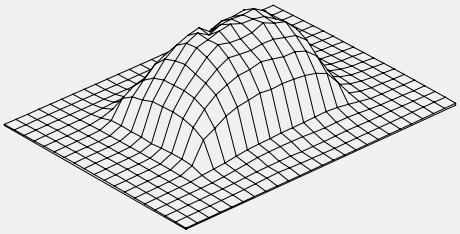
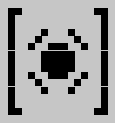
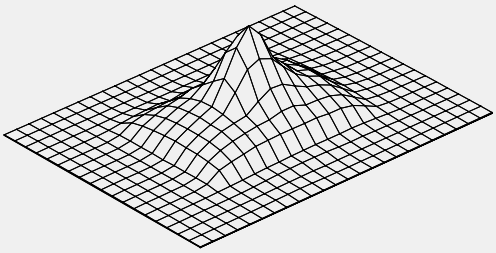
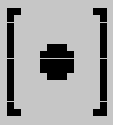
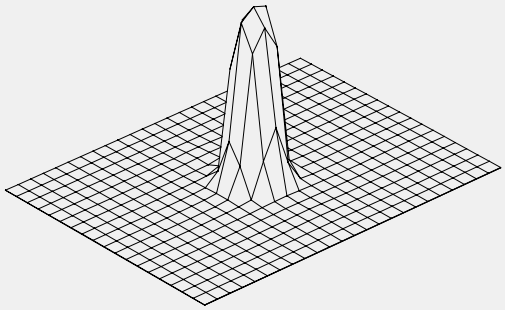
スポットモード
カメラ設定/露出モードでは、スポットモードを次のとおり選択できます。

－ノーマルモード。
－ゾーンモード。(79ページを参照)

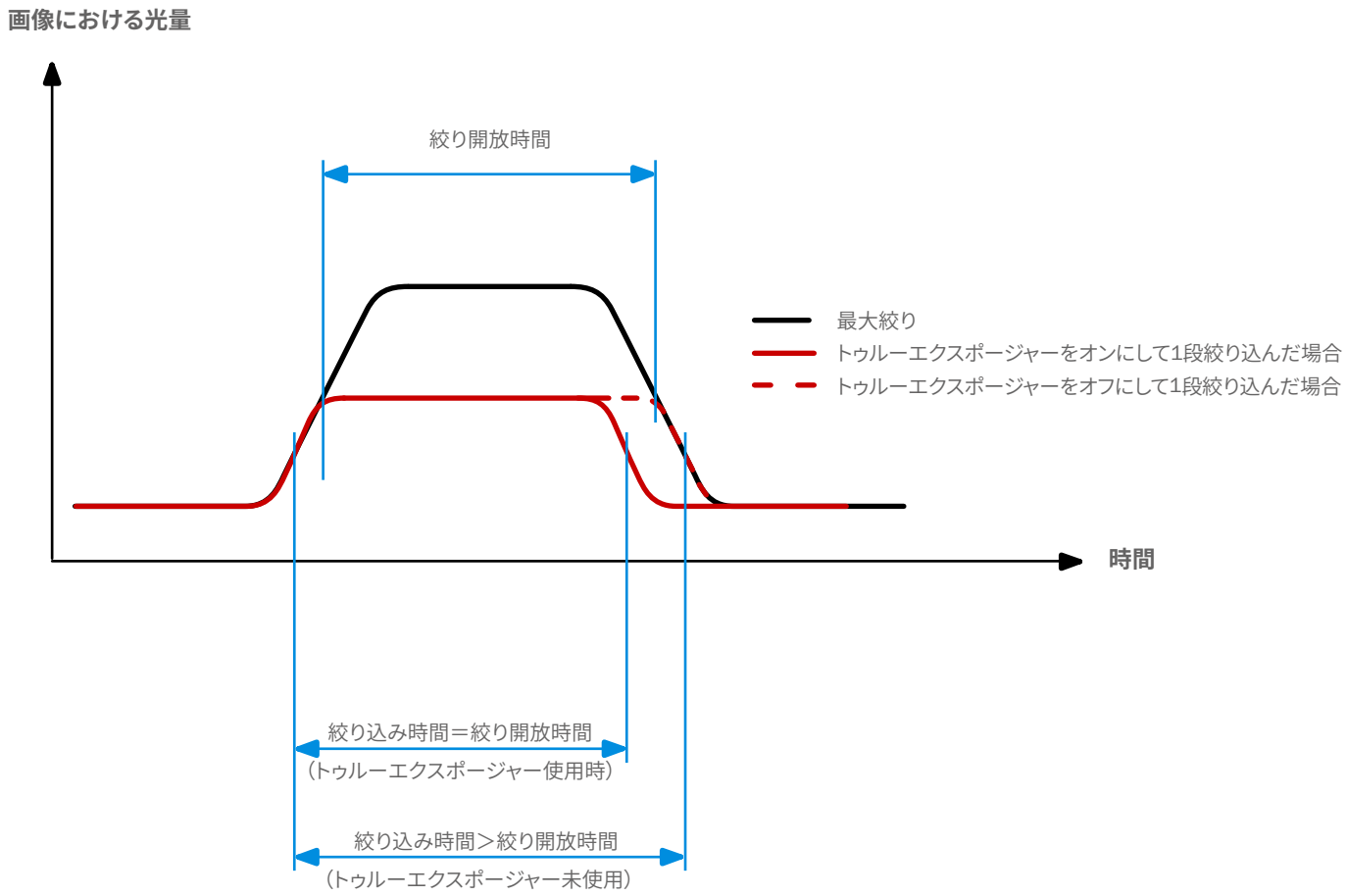
露出設定メニュー



測光方式
背面ディスプレイ。

マーク	測光方式	測光分布
	**中央部重点** 極端に明るいまたは暗いエリアがない光の状態での使用に適しています。ビューファインダーに表示される画面の約25%が測光されます。	
	**センタースポット** 画面の中央約25%に相当する部分が強調されます。これによりバランスのとれた測光がなされ、主となる被写体が中央にある場合での使用に適しています。	
	**スポット** 画面の約2.5%に相当するエリアが感度が高くなります(ビューファインダーの中央スポット)。このエリア外の画像のどの部分も、露出の読取値に影響を与えません。特定のトーンが非常に正確に測光されます。一般的には、最大限のコントロールが求められるゾーンシステムやそれに類似した測光条件で使用されます。また、色調を比較しての測光にも優れています。スポットモードでは、ビューファインダーディスプレイにEVではなくゾーンの値を表示できます。	

5.5 トゥルーエクスポージャーの説明



トゥルーエクスポージャーは、HC/HCDレンズの機能で、絞り込み時にシャッタースピードが影響を受けないようにするためのHC/HCDレンズ機能です。この効果は、フォーカルプレーンシャッターではなく、レンズシャッターに特に限定されるため、おそらくあまりよく理解されていないかもしれません。

レンズが絞り込まれると、有効シャッタースピードが長くなり、したがって設定された露出に影響します。遅いシャッタースピードでは、この影響はわずかなものですが、高速（1/500秒）になると効果がはっきりと確認できるようになります。スピード設定の補正において自動補正による測定が採用されています。

補正は速度を調整できる場合に限られるため、レンズのタイプによっては、1/800秒または1/1000秒の最高速度が調整されることはありません。この場合、設定された露出を保持するために、絞りによって補正が行われます。この補正は必ずしも必要ではなく、フラッシュやストロボを主光源として使用する場合、結果的に補正によって露出アンダーになる場合があるため実際には望ましくありません。そのため、主光源としてフラッシュ/ストロボを使用する場合は、カメラの背面ディスプレイでトゥルーエクスポージャー（メインメニュー→カメラ設定→露出→トゥルーエクスポージャー）をオフにします。

これについての詳細な説明は、www.hasselblad.comからダウンロードできます。

ホワイトバランス設定－プリセットおよびマニュアル

ホワイトバランスは、コントロール画面、カメラのグリップメニュー、ビューファインダーから設定できます。

ホワイトバランスオプション
6つのホワイトバランスプリセットとマニュアル設定から選択できます。

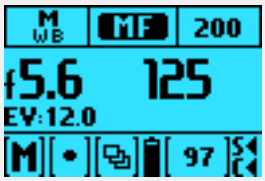
- 曇天
- 日陰
- 昼光
- タングステン
- 蛍光灯
- フラッシュ
- マニュアル（M WB）

	温度［°K］	ティント
曇天	6500	10
日陰	7500	10
昼光	5500	10
タングステン	2850	0
蛍光灯	3800	21
フラッシュ	5500	0
マニュアル	可変	0

注意！
ホワイトバランスツールを使用してホワイトバランスを設定することもできます（106ページ）。

コントロール画面
ホワイトバランス昼光が選択されています。

グリップディスプレイビュー
ホワイトバランスマニュアルモードを選択した状態。



グリップディスプレイビュー
曇天モード選択時のホワイトバランスメニュー。

フラッシュ設定

メインメニュー→カメラ設定→露出→フラッシュ

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出設定メニューを押します。
4 フラッシュを選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

フラッシュ

ローフラッシュ警告
オンまたはオフを選択します。「ローフラッシュ」警告メッセージと三角形の表示を設定します。

Flash Sync
Flash Sync設定を選択します。
－ノーマル シャッターが開いた直後にフラッシュがトリガーされます。
－リア シャッターが閉じる直前にフラッシュがトリガーされます。

この説明は、次ページに続きます。

露出設定メニュー

フラッシュ/ストロボの設定

H6Dは、ほとんどのマニュアルフラッシュユニットが使用できます。ただし、TTLオート機能を利用するには、フラッシュユニットがSCA3002システムに対応している必要があります。接続はPCソケットまたはホットシューのいずれかによります（以下の警告を参照）。

ビューファインダーには、ガイドナンバー12の内蔵フィルフラッシュが搭載され、OTF/TTLフラッシュコントロールが備わっています。このフラッシュは、屋外での多くのケースでのフィルフラッシュ機能のために充分な光量供給すると共に、屋内でのシンプルな近距離撮影にも対応します。

一般情報
AモードまたはSモードでフラッシュを使用するときには、カメラの露出条件が優先され、屋内撮影でシャッタースピードが遅くなり、たとえば三脚の使用が必要となることがあります。代わりにPモードやPvモードを選択すると、手持ち撮影ができるように1/60秒以上のシャッタースピードが自動的に選択されます。

また、近接撮影や絞りを開け気味でフラッシュを使用すると、フラッシュユニットの出力は特定の最小時間であるため、明るすぎて露出が修正できないこともあります。制限事項に関しては、フラッシュの出力仕様をお読みください。

あらゆる種類の外部フラッシュユニットでフラッシュ測光機能を使用することが可能です（TTLフラッシュはマニュアルモードに設定してください）。

後幕シンクロ（リア）は、光の跡を含んだ長時間露光とフラッシュを組み合わせた時の効果を狙ったり、より自然な見映えを生み出したりする目的に使用すると便利な機能です。

適切なフラッシュを使用しているとき（SCA3002対応のフラッシュユニット）、2つの機能、露出補正とシャッター同調がグリップ経由で行われます。フラッシュ測光機能は、SCA 3002未対応のフラッシュユニット、またはマニュアル設定でSCA 3002対応のフラッシュに使用することができます。

フラッシュ出力とカメラの露出条件のバランスを変更して多様な効果を創り出すには、露出補正機能を利用します。さまざまな長時間露光効果を出すには、同調機能を利用してください。

警告！
カメラのホットシューには、H6D用に特別に製作されたフラッシュユニットのみ接続できます。

警告！
他のカメラブランド専用のフラッシュユニットはホットシューに接続しないでください。フラッシュユニットやカメラが損傷する恐れがあります。

注意！
フラッシュまたはストロボを主光源として1/800秒または1/1000秒のシャッタースピードを使用する場合は、トゥルーエクスポージャー機能は必ずオフにしてください。

すべてのストロボやスタジオフラッシュの使用と同様、正しい接続や一般的な取扱い方法を確保することに特に注意を払ってください。こうした危険性は、カメラを電子機器（パソコンやライティングバック）に接続しているときに増すことがあり、赤外線や無線方式の類似のフラッシュレリーズ装置を使用しているときは軽減されます。

Victor Hasselblad ABは、当社の機材が何らかの種類のサードパーティー機器と組み合わせて使用されたときに発生しうる事故やそれを原因とする損害について一切の責任を負いかねます。

内蔵フラッシュ

内蔵フラッシュユニット(A)の仕様は次の通りです。
ガイドナンバー:　12
カバー範囲:　水平56度、垂直44度

側方中央部での最大光量落ち:−1EV(50%)
色温度(フル発光):5,000−5,600 K

フラッシュユニットは、ポップアップすると自動的に起動し、閉じると電源が切れます。

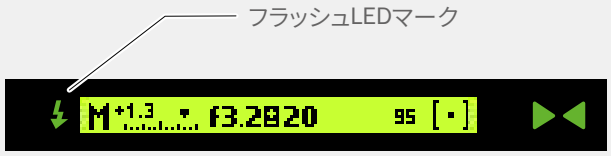
ビューファインダー内の緑色のLEDフラッシュマークは、フラッシュユニットの充電中に点滅し、充電が完了すると点灯します。また、フラッシュ出力は、フィルフラッシュの場合でも最適な光のバランスとなるように調整できます。

A　内蔵フラッシュ
B　内蔵フラッシュレリーズ

内蔵フラッシュの使用方法

1　内蔵フラッシュレリーズ(B)をフラッシュマークの方向に後方へスライドさせます。
2　カメラの背面ディスプレイで、カメラ設定→露出を選択し、フラッシュまで下にスクロールします。
3　ノーマルかリアのどちらかを選択します。
4　ローフラッシュ警告をオンかオフに設定します。
5　メインメニューを終了して保存し、露出を計測します。
6　設定が不正確で、フラッシュユニットの出力に適合しない場合は、ビューファインダーには、赤い三角形と点滅する緑色のフラッシュLEDマークに加えて、「ローフラッシュ」の警報メッセージが表示されます。また、グリップディスプレイにも、「Low Flash」の警告メッセージが表示されます。

この場合、露出を補正するために対策を取る必要があります。主な被写体に近づくように移動するか、絞りを開放側で使うか、あるいは高いISO設定を使用します。



警告!
他の外部TTLフラッシュユニットが接続され、かつTTLやAモードで使用されているときは、内蔵フラッシュ(A)を一緒に使用しないこと。

注意!
内蔵フラッシュで画面全域をカバーするには、80mm以上のレンズを使用します(レンズシェードなしの状態)。

単体のフラッシュユニット接続

単体のフラッシュユニットは、ビューファインダー（A）の上部にあるホットシューアクセサリーホルダー（下記の警告を参照）によって、またはカメラ本体の左側にあるPC接続ポート（B）によって、電気的に接続できます。スレーブユニットスイッチと送信機を、ユニットに接続することもできます（詳細はそれぞれの機器のユーザーガイドを参照）。

使用しないときは、プラスチック製の安全カバーをホットシューに付けておきます。

警告！
カメラのホットシューには、H6D用に特別に採用されたフラッシュユニットのみ接続できます。

警告！
他のカメラブランド専用のフラッシュユニットはホットシューに接続しないでください。フラッシュユニットやカメラが損傷する恐れがあります。

A　ホットシュー
B　PC接続ポート

単体のフラッシュユニットのフラッシュ測光

取り付けたフラッシュユニットの効果を測光できます（PCがフラッシュユニットと接続され、SCA3902対応フラッシュユニットはMモードに設定）。この場合、カメラはフラッシュメーターの働きをします。絞り設定は調整ができ、グリップディスプレイの情報が満足のいく状態となるまで何回も露出を試すことができます。

フラッシュ測光を使用するには：

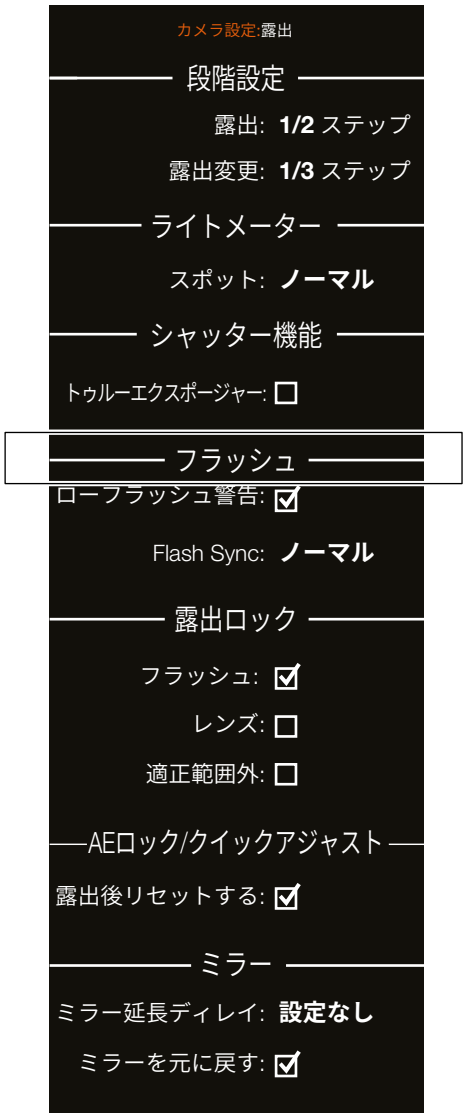
1 カメラの設定→カスタム機能で、フラッシュメジャーを割り当てます。
2 割り当てたボタンを押して、フラッシュオプション画面にアクセスします。
3 フロントホイールを回して、必要な値まで絞りを設定します。
4 AE-Lボタンを押します。カメラは絞りを閉じ、ミラーを上げ、フラッシュを発光します。フラッシュで照らされた被写体から反映した光が補助シャッターの白いスポットに反射してメーターセンサーに届きます。
5 通常の露出からの偏差が、クリップディスプレイとビューファインダーディスプレイにEV値の差として表示されます。「High」あるいは「Low」が表示された場合は、それに従い絞りを変更して、新しくテストをします。
Diff EV: 0が表示されるか、通常の露出からの偏差が目的の値になるまで絞りを変更します。

Diff EV
Low＝2EV以上不足。

Diff EV
High＝2EV以上超過。

注!
「ローフラッシュ」警告は、カメラ設定→露出→フラッシュ→ローフラッシュ警告で無効化できます。

露出設定メニュー



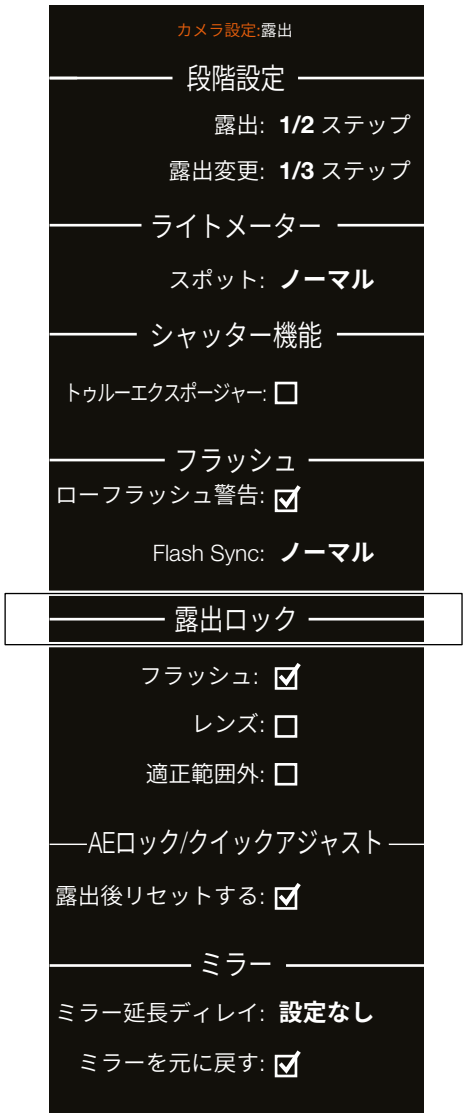
露出ロック

メインメニュー→カメラ設定→露出→露出ロック

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出設定メニューを押します。
4 露出ロックまで下にスクロールします。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

露出設定メニュー



露出ロック

フラッシュ
オンまたはオフを選択します。
オンにすると、フラッシュが準備完了になるまでシャッターが切れなくなります。
オフにすると、フラッシュが準備完了になる前にシャッターを切ることができます。

フラッシュがフルに充電される前に、撮影することができます。内蔵フラッシュユニットや、ホットシューに接続されたその他のTTL対応フラッシュユニットで使用できます。PCコネクターで接続されたフラッシュユニットでは使用できません。

レンズ
オンまたはオフを選択します。
レンズが取り付けられていない場合にオンにすると、カメラ本体の補助シャッターがブロックされます。シャッターを切ろうとすると、グリップディスプレイにメッセージが表示されます。
オフにすると、レンズが取り付けられていないカメラ本体の補助シャッターを切ることができます。

オンにすると、レンズが取り付けられていない状態でのレリーズは不可能です。

適正範囲外
オンまたはオフを選択します。
オンにすると、適正範囲を超える場合にシャッターが切れなくなります。
オフにすると、適正範囲を超えても、シャッターを切ることができます(1/2000秒または1h08m)。

絞りまたはシャッタースピードの設定が適正範囲を超えているときでも、シャッターを切ることができます(ディスプレイでは「–」で表示されます)。

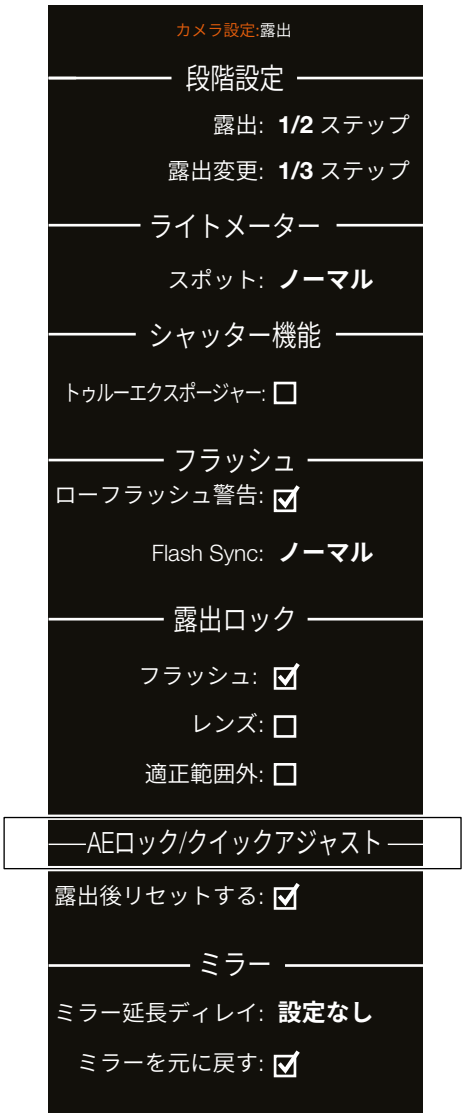
AEロック/クイックアジャスト

メインメニュー→カメラ設定→露出→AEロック/クイックアジャスト

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出メニューを押します。
4 AEロック/クイックアジャストまで下にスクロールします。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

露出設定メニュー



AEロック/クイックアジャスト

露出後リセットする
オンまたはオフを選択します。
オンにすると、リアホイールによって設定された任意のAE-L状態および任意のクイック露出調整が、露出後にクリアされます。
オフにすると、AE-L状態とクイック調整値の両方が露出後でも保持されます。

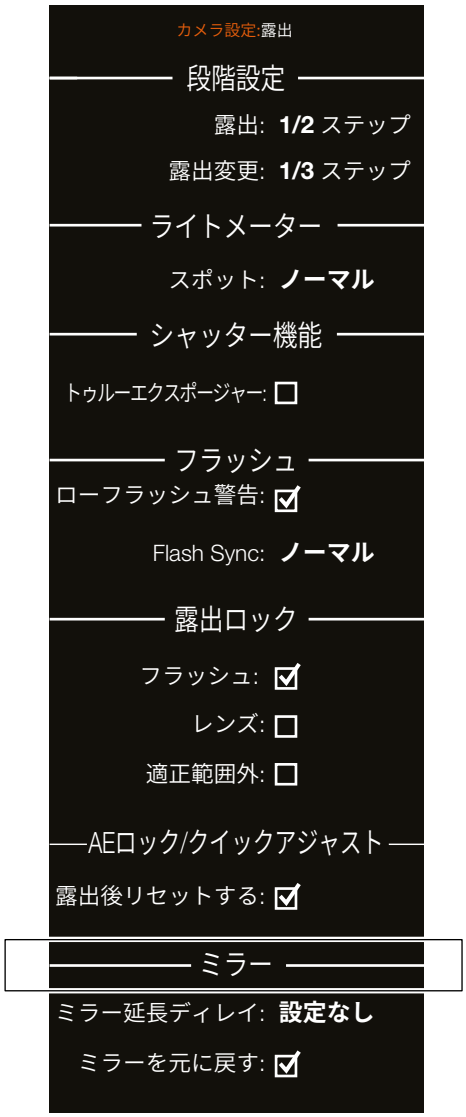
ミラー設定

メインメニュー→カメラ設定→露出→ミラー

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 露出メニューを押します。
4 ミラーまで下にスクロールします。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

露出設定メニュー



ミラー設定

ミラー延長ディレイ
ミラー延長ディレイ設定を選択します。
－設定なし
－25ms
－50ms
－100ms
－200ms

ミラーを元に戻す
オンまたはオフを選択します。
ミラーアップが終了する毎に、自動的にミラー設定を元通りに下げ、像が見えるようにします。

5.6 カメラ画像設定

メインメニュー→カメラ設定→画像

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 画像メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

画像のフォーマット

ライブビューおよびRAWファイルにクロップマスクを追加します。Phocusにインポートされた時点で、クロップマスクは変更または削除が可能です。

クロップモード

645(クロップなし)
1:1 (6×6)
7:6 (6×7)
5:4 (4×5)
11:8.5 (Letter)
297:210 (A4)
3:2 (6×9)
3:2クロップ (24×36)。下記の注を参照してください。
16:9 (Screen)
2:1 (6×12)
65:24 (XPan)

マスクの不透明度

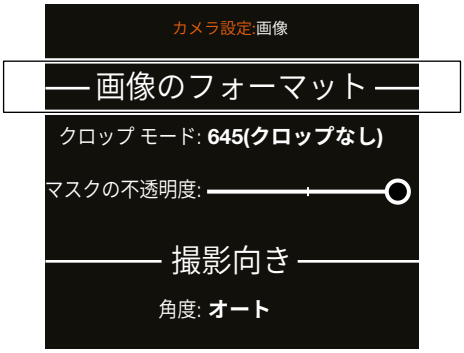
マスクの不透明度を20%〜100%で設定します。

注意:

- JPGファイルはクロップされません。
- クロップモードは、USBテザー接続モードでは無効になります。
- Phocus Mobileでは、クロップモードはサポートされていません。

カメラ設定メニュー

画像設定メニュー



不透明度100%のXPanクロップ

不透明度60%のXPanクロップ

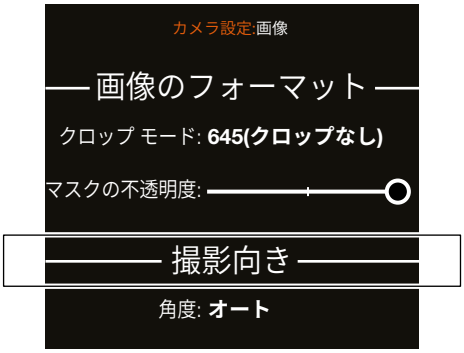
不透明度100%の1:1 (6×6) クロップ

メインメニュー→カメラ設定→画像

1　背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2　カメラの設定メニューが表示されます。
3　画像メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

画像設定メニュー



撮影向き
Phocusで表示された時にキャプチャーを表示する向きを設定します。カメラを真上または真下に向けた時に不用意に変化するの防ぐために、向きの設定をロックできます。

向きの設定
- オート
- 0度でロック
- 90度でロック
- 180度でロック
- 270度でロック

5.7　カメラのクオリティ設定

メインメニュー→カメラ設定→クオリティ

1　背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2　カメラの設定メニューが表示されます。
3　クオリティ設定メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

クオリティ設定

画像のフォーマット
RAW
RAW＋JPG

JPGクオリティ
フル
ノーマル

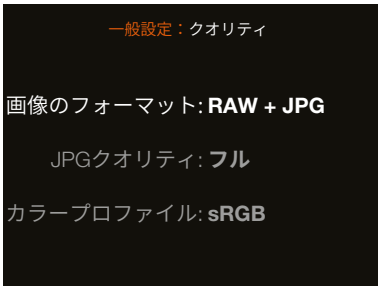
カラープロファイル
sRGB
Adobe RGB

ビット深度H6D（100cのみ）
H6D-100cでは次から選択できます。
14 bit。
16 bit。

カメラ設定メニュー

クオリティ設定メニューRAW + JPG

クオリティ設定メニューRAW



クオリティ設定メニュー H6D-100c

5.8 カメラフォーカス設定

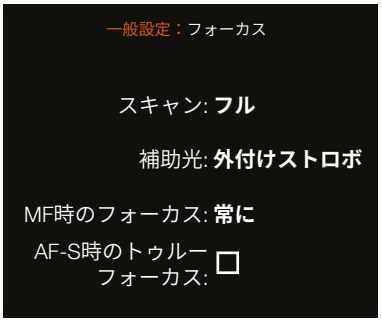
メインメニュー→カメラ設定→フォーカス

1 背面ディスプレイでカメラアイコンを選択します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 フォーカスメニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

フォーカス設定メニュー



フォーカス設定メニューの内容

スキャン
スキャン範囲の設定（マクロレンズのみ）。
－近
－遠
－フル

補助光
オートフォーカス補助光。光量の少ない状況やコントラストの低い状況で、オートフォーカスを補助するために光のパターンを投影します。

－ カメラは、内蔵AF補助照明を常に有効に設定します。

－ 外部 外付けストロボは、適切な外部フラッシュユニットによって投影されるAF補助照明を起動します。取り外すと、自動的に内蔵システムが使用されます。

－ オフにすると、AF補助照明は常に作動しない状態に設定されます。

MF時のフォーカス
これはマニュアルフォーカスモード（MF）でのフォーカスエイドです。マニュアルフォーカスモードで、フォーカスエイドの矢印LEDマークがビューファインダーディスプレイにどのように表示されるかを示します。

－ 常に カメラの作動時にはいつでも表示されるようにします。

－ 半押し シャッターボタンを半押しした時に表示されるようにします。

－オフ 完全に無効にします。

AF-S時のトゥルーフォーカス
AF-Sモードでのトゥルーフォーカスを選択します。オンに設定されている時、シャッターを半押しすると、トゥルーフォーカスが起動します。
－オンまたはオフ。

フォーカシング距離の計算

レンズ鏡胴の上部には、窓を通して見える2つの距離目盛（フィートとメートル）があります。
フォーカシング距離は、選択した目盛で中央レンズ指標（A）から読み取られます。

ストップダウン/被写界深度プレビュー

被写界深度を視覚的に確認するには、ビューファインダー内で画像を見ながら、ストップダウンボタン（B）を押すと絞り込まれて確認できます。

被写界深度は次のとおり計算されます。

1 必要に応じてレンズのピントを合わせます。
2 露出を（オートまたはマニュアル）の読取を行い、絞り設定をメモします。
3 中央指標の両側にある、選択した絞りに相当するマーキングを探します。
4 これら2つのマーキングから、要求されるレンズ距離目盛上で2つの対応する距離を読み取ります。
5 （その特定の絞りとフォーカス設定での）被写界深度は、これら2つの距離の間に含まれるエリアです。

右の例では、フォーカシング距離は、約3メートルに設定されています。絞りf/22では、被写界深度は2mを少し越えたところから約4.5mまでとなります。

注意！
被写界深度は絶対的なものではありません。これについての認識は、いくつかの要素に依存するため、おおまかな指針としてのみ理解してください。

赤外線フォーカス設定

赤外線は、可視光によって形成される平面とは異なる平面に画像を形成するため、通常のフォーカス設定は適用されません。次の通り、マニュアルフォーカスモードで続行してください。

1 レンズのピントをあわせます。
2 中央のレンズ指標の距離設定をメモします。
3 この距離設定を、中央のレンズ指標ではなく赤外線マーク（赤色）に対して合わせなおします。

距離が計算される場合は、距離目盛と赤外線マークを一緒に使用して、手動で距離を設定します。

注意！
「近赤外線」写真撮影専用に適合されたセンサーユニットについては、Hasselblad販売店までお問い合わせください。

フォーカスアシスト

カメラには、LEDフォーカスアシスト機能があります。ビューファインダーディスプレイの右側に2つの矢印が表示されます（絞り開放f/6.7以下のレンズを除く）。矢印によって、精密なフォーカス設定がなされたことを確認でき、目視のみでの設定時に有用な補助機能です。

マニュアルフォーカス設定
左の矢印のみが表示されるとき、フォーカス設定が選択した距離より遠すぎます（ビューファインダーの中央のゾーン内の枠で囲まれたエリア）。右の矢印のみが表示されると、フォーカス設定が近すぎることを意味します。両方の矢印が一緒に表示されると、フォーカスは適正です。フォーカスが確定できない場合には、両方の矢印が点滅します。

オートフォーカス設定
両方の矢印が一緒に表示される場合は、フォーカスは適正です。一方の矢印のみが表示される場合は、フォーカスが適正ではありません。フォーカスが確定できない場合には、両方の矢印が点滅します。

レンズのフォーカス設定が、ビューファインダー中央部の枠内にある被写体の距離よりも遠すぎます。

レンズのフォーカス設定が、ビューファインダー中央部の枠内にある被写体の距離よりも近すぎます。

フォーカス設定は適正です。

注意！
HC 4/120マクロレンズは、近距離、遠距離、フルレンジの設定によってオートフォーカス範囲を制限できます。この情報は、グリップディスプレイ上にその特定のレンズとともに表示され、また背面ディスプレイ、ビューファインダーディスプレイにも表示されます。詳細は、各レンズに付属の小冊子『H-system Lenses & H-system Lens Accessories』に記載されています。この小冊子は、Hasselbladのホームページからダウンロードすることもできます。また、HCDレンズについては、下記の注意も参照してください。

注意！
HCDレンズは、Hシリーズの小型センサー用に設計されており、一部のモデルで使用される大型センサーでは、カバー範囲の減少を招くことがあります。そのため、HCDレンズを使用する場合には、この制限があることにご注意ください（ビネットや画質の低下）。このことから、自動クロップ機能が採用され、HCDレンズが装着されると、ビューファインダーディスプレイの右側にHCDクロップアイコンが表示されます。ただし、Phocusでは、自動クロップ機能は、必要に応じてオフにすることができます。

注意！
レンズ補正はPhocusに画像がインポートされる時点で適用できます。個々の画像に含まれるメタデータの情報によって、DAC（デジタルレンズ補正）ツールは、初期設定でレンズ固有の計算を適用し、色収差、歪み、ビネットを修正します。レンズの仕様だけでなく、画像のパラメーターも分析に考慮されます。ファイルの処理において、画像の質を向上させるこうした優れた機能は非常に有効です。詳細は、Phocusユーザーマニュアルを参照してください。

情報
マニュアルフォーカス制御の方が好みでも、オートフォーカスの利点を活かしたいユーザー向けに、1つの方法として、AE-Lボタン（あるいは任意のカスタマイズ可能なボタン）をAF（シングル）ドライブに設定する方法があります。この方法により、主な被写体を中央にしてAE-Lを押すことで、正確なフォーカスを確保できます。ボタンを離すと、カメラは直ちにマニュアルフォーカス制御に戻ります。そのため、新しく自動的に得られたフォーカス設定を維持するために、シャッターボタンを押したままにすることなく、写真の構図をとりなおすことができます（AF－Tも使用可能）。

情報
また、特定の状況では、トゥルーフォーカス機能を他のオートフォーカスモードと組み合わせることもできます。

注意！
オートフォーカス機能は、一定のレンズとアクセサリーの組み合わせでは機能しません。ただし、警告が表示され、確認すると消えます。

マニュアルフォーカス

マニュアルフォーカスモード設定とマニュアルオーバーライド機能の両方があります。

マニュアルフォーカスモードでは、ピント合わせは、レンズのフォーカスリングを回すことで行われます。このフォーカス設定は、従来型の非オートフォーカスレンズと同様に、変更されるまで変わりません。これは、シャッターボタンを押しても、オートフォーカスの時のようなフォーカス位置が変更されないことを意味します。オートフォーカスに戻すには、AF ボタン(B)を押して、AF-S、AF-C、またはAF-Tを選択します。

A　フロントホイール
B　AFボタン

オートフォーカスモードでのマニュアルオーバーライド

マニュアルオーバーライドは、新しい設定を何もする必要なく、オートフォーカスモードで常に機能します。従来の方法でフォーカスリングを回せばよいだけです。オートフォーカスモードではレンズ鏡胴は回転しないため、フォーカスリングだけで、すぐに手動調整を行うことができます。ただし、新しい手動フォーカス調整を有効にするには、シャッターボタンを押したままにする必要があります。まずシャッターボタンを押すのをやめた後で、シャッターボタンを再び半押しすることで、オートフォーカスモードにすぐに戻ることができます。この簡単なマニュアルオーバーライド機能により、作業の簡便性が高まります。これによって、オートフォーカスを活用しながら、好みに応じてピンポイント精度を確認するために、設定を一切変更することなく、即座に調整可能なマニュアルフォーカスを有効にできます。

オートフォーカスモードでのマニュアルオーバーライドでは、レンズ鏡胴を回すことで、モードを変更することなく、行ったフォーカス設定を手動で変更することができます。シャッターボタンが半押しの状態である限り、新しいフォーカス設定が維持されます。

オートフォーカス機能を再び起動するには、シャッターボタンを放してからもう一度押します。

マニュアルフォーカスモード

オート/マニュアルフォーカス設定

1　AFボタン(B)を押します。
2　フロントホイール(A)を回して、マニュアル、シングルショット、コンティニアス、トゥルーフォーカスを選択します。
3　AFボタンを押して保存します。

注意!
マニュアルフォーカスでは、レンズ目盛上で無限大と最短撮影距離が中央指標を超えた位置にあるように見えることがあります。これは単に見かけ上の効果であり、レンズのフォーカシング範囲を変化させることはありません。

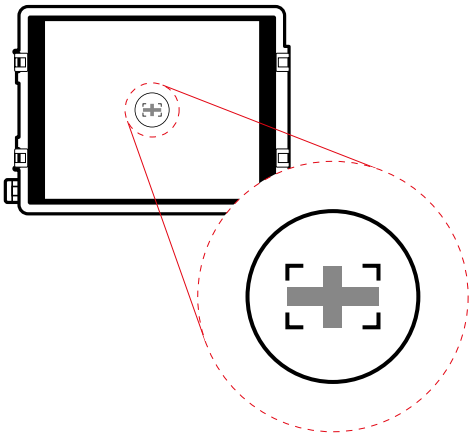
オートフォーカス

オートフォーカスモード（シングルショットまたはコンティニアス）は、シャッターボタンを半押しすることで起動されます。

動作範囲は、ISO 100でEV 1～EV 19です。

フォーカスポイントは、フォーカシングスクリーンの中央にある四角形ゾーン内の縦方向と横方向のエリア（右の図を参照）に応じて決定されます。

トゥルーフォーカスは、オートフォーカス機能として分類され、通常はグリップの専用ボタンで起動します。後の節を参照してください。



AF補助光

光量レベルが低すぎたり、被写体のコントラストが低すぎたりすると、設定がオンの場合にAF補助光が自動的に起動します。作動距離はカメラから最大約6メートルです。

マニュアルモードでのオートフォーカスチェック

マニュアルモードのままでクイックオートフォーカスチェックを活用する方法については、104ページを参照してください。

シングルショットフォーカス

シングルショット設定（AF S）では、最適なフォーカス設定が見つかるまで、シャッターはブロックされて切れません。これにより、正確にピントが合っていない撮影がなされないようにします。ただし、この遅延は、一般的には適切な照明条件で、明瞭なフォーカシングパターンであれば、数分の1秒にすぎません。

このモードでは、レンズは1つの距離にピントを合わせ、シャッターボタンが押されたままになっている間、その距離にピントが合った状態が維持されます。このように、近くの物体を表示画面のフォーカシングゾーン内に一時的に配置してピントを合わせてから、シャッターボタンを半押しのまま、構図をとりなおすことができます。すると近くの物体にピントが合ったままの状態を維持できます（フォーカスロック）。シャッターボタンを放し、再び半押しすると、ピントは再びフォーカシングゾーン内にある物体に合います。

マニュアルとオートフォーカスの設定を組合わせた便利な操作方法については、「オートフォーカスモードでのマニュアルオーバーライド」を参照してください。

AF-S シングルショットモード

コンティニアスフォーカス

コンティニアス設定（AF C）では、1秒の何分の一かのショットを撮影するためにレンズがピント合わせをする前に急速にシャッターを切ることができます（シングルショットでは、ピント合わせされるまではシャッターを切ることができません）。ただし、シャッターボタンが半押しであっても、移動する被写体がフォーカシングゾーン内にある場合や、構図をとりなおす場合、カメラは連続的にピント合わせをします。

急速に変化する状況で撮影する時にこの機能を利用する1つの方法は、シャッターを押したままにすることです。レンズは連続的にピント合わせし、シャッターを押すのを瞬間的にやめてから、すぐに再び押すことで、レンズがフォーカスするのに必要な時間を最小限に抑えるることができ、数分の1秒間隔での最適なフォーカスによる撮影を可能にします。

AF-Cココンティニアスモード

5.9 トゥルーフォーカス

トゥルーフォーカス設定（AF-T）は、一般的にカメラの角度やフォーカス設定の不一致を自動的に修正する特殊な状況で用いられますが、他のオートフォーカス設定と組み合わせることもできます。

トゥルーフォーカスを正しく使用するには、いつ、どのように使用するかについて十分に理解するために、いくつかの重要なポイントを覚えてください。基本的には、注目すべき4つのポイントがあります。
(a) カメラと被写体の近接さ
(b) レンズの焦点距離
(c) 絞り設定
(d) 設定後のカメラや被写体の動き

これらのポイントに関して理想的な状況に近づけることができるようになるほど、トゥルーフォーカスの効果がより顕著なものになります。

- 被写体に接近するほど、フォーカスの問題が悪化します。そのため、トゥルーフォーカスの必要性は大きくなり、よってその適用はより顕著なものとなります。
- 焦点距離の短い（広角）レンズでは、カメラと被写体の距離が必然的に減少するため、(a)のポイントに従い、トゥルーフォーカス調整の必要性が大きくなります。80mm以上のレンズでは、トゥルーフォーカスは通常のAFドライブよりもよい結果を出すことはありません。
- 絞り込むと、被写界深度が深くなり、よってトゥルーフォーカスの必要性が下がることになります。ところが、絞り込むと別の視覚的効果を発生させるため、トゥルーフォーカスであれば、望まないフォーカスの制約を受けることなく、（絞り開放域での）浅い被写界深度を利用することができます。
- トゥルーフォーカスの使用における計算は、数ある中で、カメラから被写体の距離が、調整量を計算するのに必要となります。よって、当初設定された後でカメラや被写体が移動した場合には、その計算値は適用されなくなります。そのため、最適の補正を確保するため、撮影者と被写体の移動はどちらも、できる限り制限されるべきです。一部のレンズ（特に焦点距離の長いレンズ）では、わずか数センチの移動が、実質的に結果を台無しにすることに注意が必要です。

トゥルーフォーカスは、望遠レンズや絞り込んだ状態にも使用できますが、上述した理想的な状況から遠ざかるほど、その効果は小さくなるか、全く効果が見られなくなります。トゥルーフォーカスは、要求の厳しいショットを著しく改善しますが、それが設計された目的に適う特定の状況でのみ効果的に機能することにご留意ください。

AF-T トゥルーフォーカスモード

トゥルーフォーカスと絶対位置ロック

トゥルーフォーカスを活用することで最も大きな恩恵をうける状況は、かなり広角のレンズを絞りを開けて行うファッション撮影であることは明らかであり、この場合、画像の中心エリアは服装でありながらも、モデルの顔へのフォーカスは保持されます。理想的には、かなりコントロールされ、かつ動きの少ない撮影が効果的です。モデルが姿勢を変えるのは、何枚か撮影した後にしてください。また、フォトグラファーも、撮影する前に、しゃがんだり、前かがみになったり、後ろに反りすぎないようにする必要があります。

レンズが絞り開放の場合、通常のオートフォーカス設定は、モデルの顔(A)でなされ、カメラのフォーカスがロックされます。構図には衣服が多くが含まれるようにに変更されますが(B)、このときロックされたフォーカスは、幾何学の法則に従い、(B)ではモデルの顔を越えた位置にあります。これは当然ながら、カメラに最も近い被写体の大部分とモデルの顔がシャープではない画像ができることになります。マニュアルフォーカス、フォーカスロック、マルチポイントセンサーのリセットなどのソリューションでは、ワークフローを見出し、ミスが発生しやすくなります。(A)でトゥルーフォーカスを設定することで、フォーカスは、カメラの角度の変化に伴い自動的に調整されます。

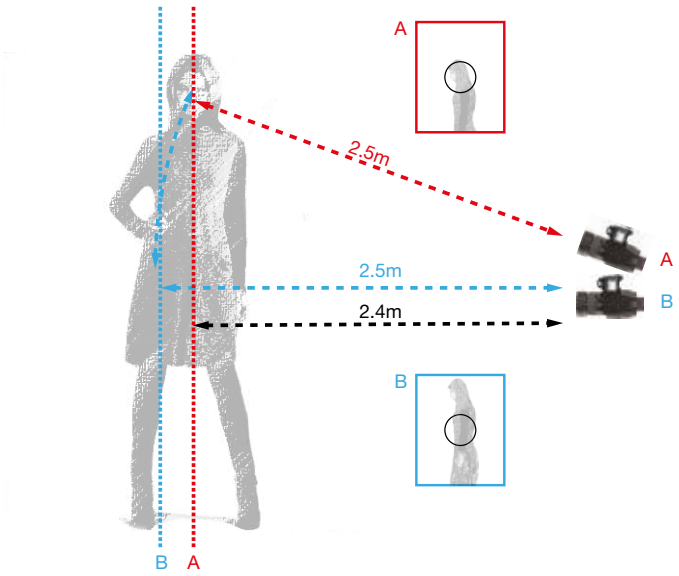
トゥルーフォーカスは、ヨーレート技術を利用しており、絶対位置ロック(APL)プロセッサーにより、カメラの動きを記録します。これはシャッターラグなしで非常に高速な補正済みフォーカスリセットを行うための基盤となります。カメラのファームウェアがさらに、全てのHC/HCDレンズに搭載された正確なデータ取得システムを使用してフォーカスを完璧なものにします。

A
通常のオートフォーカス設定は、モデルの顔にロックされます。

フォーカス設定は約2.5メートルです。

B
カメラを下げて戻すと(B)、ロックされた2.5メートルのフォーカス位置は、幾何学の法則に従い、顔から引かれた垂線を越えた位置になってしまい、シャープさがなくなります。

ここで、オートフォーカス設定の代わりに、Aでトゥルーフォーカス設定をして、構図を再びBに戻すと、カメラは自動的に計算し、2.5メートルのフォーカスを実際の垂直距離である約2.4メートルに調整します。モデルの顔はシャープなままです。



トゥルーフォーカスとカメラの取扱い

トゥルーフォーカスを最大限に活用するには、システムの要件の範囲内で作業します。これは多少の練習が必要かもしれませんが、計測の精度が改善し、練習することでよりよい結果が得られます。

1 最初のトゥルーフォーカス計測をするときは出来る限り動かないようにし、音声信号を待つか、または準備完了ライトが再び緑色になってから、続行してください。こうすることで、処理のスピードアップを図れるだけでなく、精度も向上します。

2 構図をとり直す時は、できるだけ同じ位置になるようにします。すなわち、カメラが測定された位置から離れることになるため、頭や体を前後に動かすことを避けるようにしてください。

右上の例では、撮影者は当初の計測からカメラを振って、通常の撮影の構図にしました。このときカメラは元の位置から移動したことがわかります。

下の例は、カメラを振るのではなく、中心軸のまわりを回転させたことを除き、実質的に同じ状況を描いたものです。練習によって、この方法は元の位置をより正確に保ち、その結果、より正確なフォーカスが得られることが分かります。

元の位置から離れる正しくないカメラの回転。

中心を維持した正しいカメラの回転。

フォーカスチェック

再生画面で、または撮影後に、背面ディスプレイをダブルタップして100%に拡大するか、2本の指でスプレッドしてズームインすることができます。ズームアウトするには、再びダブルタップするか、2本の指でピンチすることができます。

5.10 カメラのトゥルーフォーカス方法

トゥルーフォーカスボタンによる起動

このモードでは、オートフォーカス機能が効果的にトゥルーフォーカス機能に変換されます。

1 カメラを被写体の重要なエリアに向け、トゥルーフォーカスボタン(A)を押します。
2 ビューファインダーにトゥルーフォーカスアイコンが表示され、音声信号が鳴るまで待機します。
3 写真の構図をとりなおします。シャッターボタンを完全に押して、撮影します。トゥルーフォーカスアイコンはビューファインダーに表示されなくなります。
4 カメラは前回のフォーカスモードに戻ります。

注意!
トゥルーフォーカスを起動する前に、カメラがMFに設定されていた場合には、その後のすべての露出についてフォーカス位置が維持されます。この方法は、同じフォーカス設定で、数多くのショットが必要とされるときに有効です。

注意!
プログラム可能なボタンのいずれかがトゥルーフォーカスに設定されている場合、そのボタンはトゥルーフォーカスボタンと全く同様に機能します。

注意!
フォーカスモードがAF-Tに設定されている場合、トゥルーフォーカスボタンは常にトゥルーフォーカス機能を持ちます。

通常のビューファインダーディスプレイ

トゥルーフォーカス実行時のビューファインダーディスプレイ

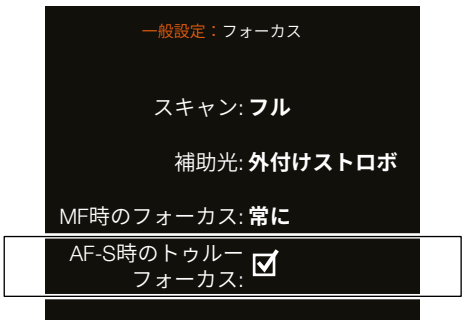
シャッターボタンによる起動

メインメニュー→カメラ設定→フォーカス→AF-S時のトゥルーフォーカス

このモードでは、シャッターボタン(A)を半押してトゥルーフォーカス機能を起動します。

1 カメラフォーカスモードをAF－Sに設定
2 背面ディスプレイで、カメラ設定を選択します。
3 フォーカスを選択します。
4 AF-S時のトゥルーフォーカスを選択してオンにします。
5 カメラを被写体の重要なエリアに向け、シャッターボタン(A)を半押しします。
6 ビューファインダーにトゥルーフォーカスアイコンが表示され、音声信号が鳴るまで待機します。
7 半押し状態(A)を維持し、写真の構図をとりなおします。シャッターを深く押して、撮影します。トゥルーフォーカスアイコンはビューファインダーに表示されなくなります。

フォーカス設定メニュー



通常のビューファインダーディスプレイ

トゥルーフォーカス実行時のビューファインダーディスプレイ

5.11 ホワイトバランスツール

メインメニュー→カメラ設定→ホワイトバランスツール

1 タッチディスプレイでカメラアイコンを選択します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 ホワイトバランスツールメニューを押します。

右にスワイプして、メニュー/EXITボタンを押し、メインメニューに戻ります。

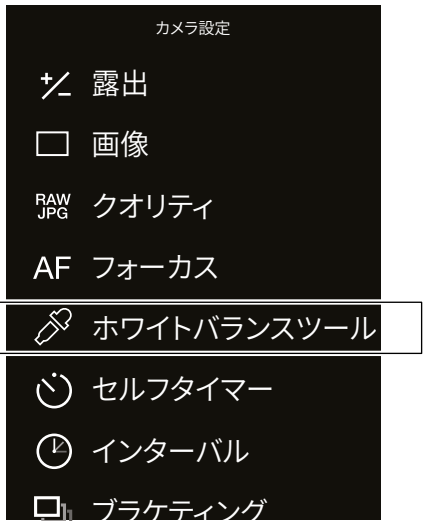
この機能は、適合するプリセット値を見つけることが困難な場合に、そのシーンの色温度およびティントを設定するために使用されます。

1 被写体を撮影します。これには、色のない部分を含めるようにします。例えば、グレイカードなど。
2 ホワイトバランスツールメニューをクリックします。
3 最後に撮影した画像が、オーバーレイ付きで表示されます。別の画像を選択するには、フロントホイールを回すか、表示を左右にスワイプします。
4 上の列には、画像名と、移動可能なカラーピッカーツールの位置での色温度/ティント値が表示されます。下部の2つのボタンは、色温度とティントの現在値を保存するか、または変更せずに終了するために使用されます。
5 画像の中で色がない部分を探します。円の内側をどこかタッチしてスライドさせることにより、カラーピッカーツールを移動させて小さな四角をそのエリアの上に重ねます。
6 指を放すと、上部列の色温度/ティント値が更新されます。
7 適正なエリアを選択したら、「設定」を押します。変更せずに終了するには、「終了」を押します。
8 色温度とティントに設定された値は、その後すべての露出に使用されます。ホワイトバランスモードがマニュアルに変更され、色温度が制御画面に表示されます。

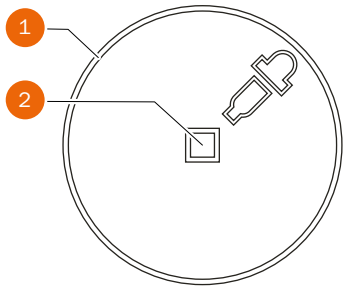
注意!

- 画像の上と下の部分はホワイトバランス設定には使用できません。
- 現在の画像の色温度は変更されません。
- 読取りに使用したエリアが明るすぎるか暗すぎる場合、色温度/ティント値は空白になります。同じことが、そのエリアが無色からほど遠い場合にも適用されます。

カメラ設定メニュー



カラーピッカーツール

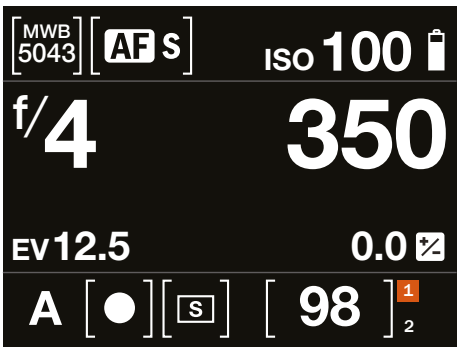


1 タッチでツールを移動させるアクティブなエリア。
2 色温度/ティントを計算するためのアクティブなエリア。

ホワイトバランスツールが有効なときの初期画面。

ピッカーをニュートラルエリアにスライドし、放す。準備ができたら設定を押す。

コントロール画面に新しい値が表示されます。



5.12 セルフタイマー

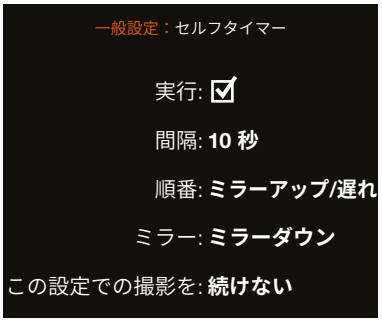
メインメニュー→カメラ設定→セルフタイマー

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 セルフタイマータイマー設定メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

セルフタイマー設定メニュー



セルフタイマー設定メニュー

実行
オンまたはオフ。

間隔
間隔を秒で選択します。2秒～60秒の値を1秒間隔で選択します。

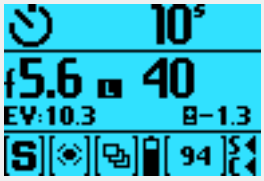
順番
遅れ/ミラーアップ
ミラーアップ/遅れ

ミラー
ミラーダウン
ミラーアップのまま

この設定での撮影を
続けない、続ける。

注意！
セルフタイマーを起動すると、ほとんどの画面でセルフタイマーアイコンが表示されます。

グリップディスプレイビュー
セルフタイマー設定



5.13 インターバル設定

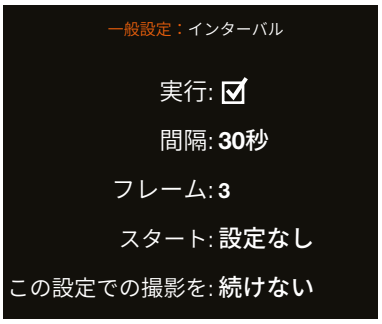
メインメニュー→カメラ設定→インターバル

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 インターバルメニューを選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

インターバル設定メニュー



インターバル設定メニュー

実行
オンまたはオフ。

間隔
露出間の時間を分と秒で選択します。
0m（ゼロ分）2s（2秒）～0m10s、1秒間隔。
0m 10s～1m 0s、5秒間隔。
1m 0s～2m 0s、10秒間隔。
2m 0s～3m 0s、15秒間隔。
3m 0s～4m 0s、30秒間隔
4分以降は、5m、6m、8m、10m、12m、15m、20m、25m、30m、40m、50m、1h 0mの設定が利用できます。

フレーム
2～99の数字または無限を選択します。

スタート
最初のコマを撮影するまでの時間を選択します。設定なし、または間隔と同じ秒数、60s、10s、2s。

この設定での撮影を
終了時動作の設定。
続けない、続ける。

注意！
インターバルタイマーを起動すると、ほとんどの画面でインターバルタイマーアイコンが表示されます。

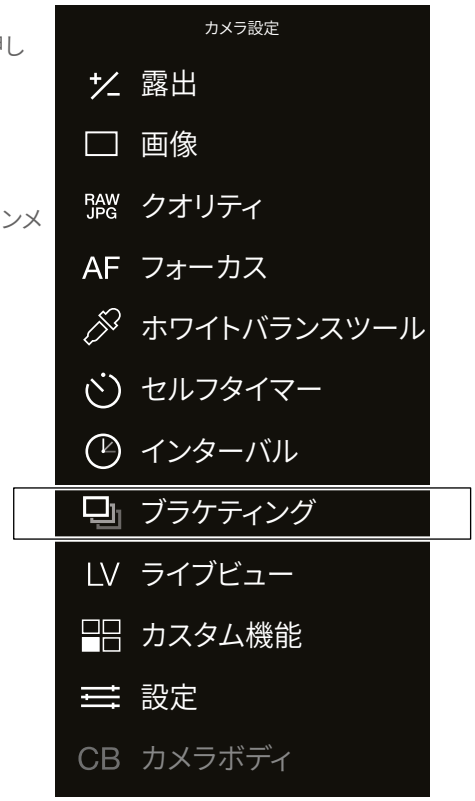
5.14 カメラブラケット設定

メインメニュー→カメラ設定→ブラケティング

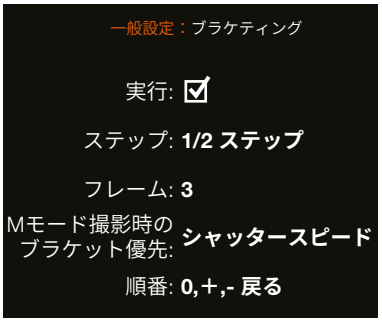
1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 ブラケティングメニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー



ブラケティング設定メニュー



ブラケティング設定メニュー

実行
オンまたはオフ。

ステップ
ブラケットの量を選択します。
1/3、1/2、1、2、または3ステップ。

フレーム
フレーム数を選択します。
2、3、5、7、または9フレーム。

Mモード撮影時のブラケット優先
絞りまたはシャッタースピード
マニュアル露出モードで、ブラケットシーケンスを変化させるパラメーターとして、シャッタースピードまたは絞りのいずれかを選択します。
シャッタースピードは、シャッタースピードの変化を選択します。
絞りは、絞り値の変化を選択します。

順番
露出オーバー（＋）と露出アンダー（－）の順序を選択します。
A：＋0－
B：－0＋
C：0＋－
D：0－＋

例
代わりのB（－0＋）は、ステップ1/3、フレーム数3で、キャプチャー順序は次の通りです。
キャプチャー1は露出アンダー（－1/3 EV）。
キャプチャー2は適正露出（0 EV）。
キャプチャー3は露出オーバー（＋1/3 EV）

ブラケティング機能

ブラケティング機能は、自動的に一連の撮影をするもので、1枚は標準露出設定（マニュアルまたはオート）で、それ以外は標準露出から所定のEV偏差で撮影します。これは、非常に広いトーン範囲を含む画像には特に有用です。まず、必要とされるフレーム数、撮影する順序、EV偏差をどれだけにすべきかなどについて決定し、それに応じて設定をします。初めて測光された露出（マニュアルまたはオート）は、ブラケットシーケンスの計算を決定するEVです。
シングルとコンティニアスのドライブ設定間での動作の違いに注意してください。

- シングル設定では、シーケンスが終了するまでの間、撮影毎についてシャッターボタンを押す必要があります。
- コンティニュアス設定では、ボタンを押したままにして、停止することなくすべてのフレームを撮るか、またはボタンを放した後、再び押して設定したシーケンス内のフレームを失うことなく、シーケンスの最後まで続行することもできます。

注意！
ブラケティングを起動すると、ほとんどの画面でブラケティングアイコンが表示されます。

5.15 ライブビュー設定

メインメニュー→カメラ設定→ライブビュー

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 ライブビューメニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

ライブビュー設定メニュー

スタート
ライブビューモードを開始します。

マニュアルフォーカスアシスト
フォーカスピーキング、設定なし

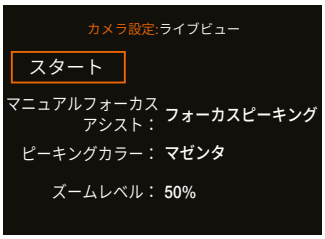
ピーキングカラー
オレンジ、イエロー、シアン、マゼンタ

ズームレベル
50%、100%
画面をダブルタップするか、ディスプレイの下の中央のボタンを押して、ライブビューでのズームレベルを選択します。

この節は次のページに続きます。

カメラ設定メニュー

ライブビュー設定メニュー



マニュアルフォーカスアシストダイアログ

ピーキングカラーダイアログ

ズームレベルダイアログ

ライブビュー

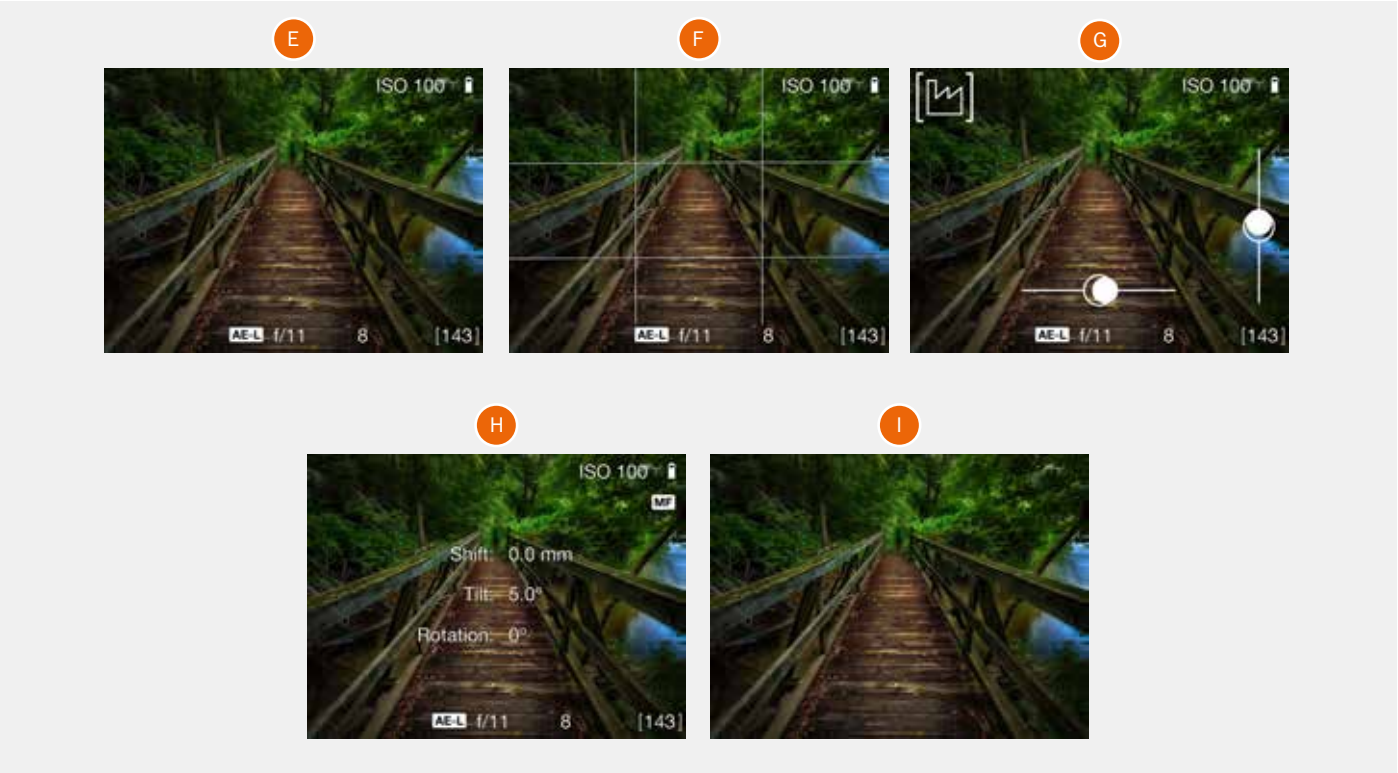
この機能は、正確なフォーカシング、構図、被写界深度のプレビューに有用です。

1 カメラの設定→ライブビューを選択するか、またはメインメニューのライブビューアイコンを選択します（ライブビューがメインメニューでお気に入りに設定されている場合）。
2 スタートを押して、ライブビューを起動します。
3 ソフトボタン（C）を押して、オーバーレイを切り替えます。
4 メニューボタン（A）、プレイボタン（D）を押すか、または右にスワイプしてライブビューを終了します。

ライブビュー設定

オーバーレイ
ライブビュー中に表示されるオーバーレイを選択するには、ソフトボタン（C）のオプション間をスクロールします。これにより、次の通り切り替わります。

－露出情報（E）。
－露出情報とグリッド（F）。
－露出情報と水準器（G）。
－HTS（付属する場合）（H）。
－なし（I）。



ライブビューでのズーム

1 背面ディスプレイをダブルクリックするか、またはボタン(B)を押して、その特定のエリアを実際のピクセルサイズ(100%)に拡大します。
カメラ設定ーライブビューメニューで、ズームの倍率を50%に変更できます。
2 別のエリアを表示するには、指で押して、ホールドし、移動させて画像を移動します。ナビゲーターウィンドウが短時間表示されて、現在の位置を示します。
3 再びダブルクリックすると、ズームアウトしてキャプチャー全体が表示されます。

100%に拡大する前のキャプチャー

ライブビューでのフォーカス

1 背面ディスプレイをダブルクリックして、選択したフォーカスエリアにズームインします。
2 レンズでピントを手動調整します。
3 再びダブルクリックすると、ズームアウトしてキャプチャー全体が表示されます。

フォーカシング前の100%ビュー

注意!
ライブビューの電力消費は、通常の動作よりも大きくなります。バッテリー電源のみの場合、ライブビューを使用すると、カメラの使用時間が短くなります。

注意!
ライブビューではAFは利用できません。

フォーカシング後の100%ビュー

フォーカスピーキングを用いたライブビューでのフォーカス

フォーカスピーキング機能は、ピントが合っているのが被写体のどのエリアかを識別するのに役立つマニュアルフォーカスツールです。オートフォーカスモードではフォーカスピーキングは使えません。

フォーカスピーキングが有効で、フォーカスを手動で調整するとき、フォーカスを移動させると、被写体にピントの合ったエリア（この場合はマゼンタ）の深度が移動します。

フォーカスピーキングが有効な時に被写体にピントが合っていない状態

被写体の部分にピントが合うとフォーカスピーキングが表示されます

HDMI外部モニターを用いたライブビュー

ライブビューをHDMIで接続して利用する方法

1 外部ビデオモニターをHDMIケーブルで接続し、ライブビューを開始します。

2 インターフェイスHDMIライブビュー（A）が、背面ディスプレイ表示されます。

3 100%ズームに入るときは、スターの印付きのソフトボタンを押します。

4 オーバーレイを切り替えるには、四角形のソフトボタンを押します。

注意！
外部HDMIモニターを接続して、画像をズームインすると、背面の画面をタッチパッドとして使用して画像をパンできます。図（B）を参照してください。

注意！
ライブビューの電力消費は、通常の動作よりも大きくなります。バッテリー電源のみの場合、ライブビューを使用すると、カメラの使用時間が短くなります。

HDMIライブビュー

ズームイン時のHDMIライブビュー

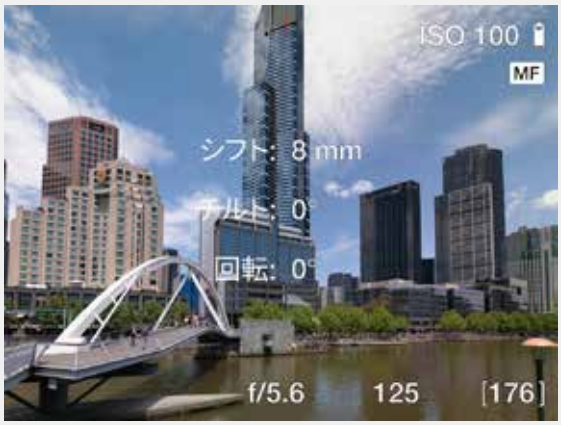
ライブビューをHTS 1.5Xチルト/シフトアダプターと併用

HTS1.5xチルト/シフトアダプターを使用するとき、アダプターの設定をリアルタイムで表示するために、もう1つ別のオーバーレイが利用可能です。

1 HTSアダプターを取り付けます。
2 背面ディスプレイでライブビューを起動します。
3 右のオーバーレイが表示されるまで、ソフトボタン(A)を押します。
4 メニューボタン(B)を押してライブビューを停止します。

HTSチルト/シフトアダプターについての詳細は、www.hasselblad.comからダウンロードできる『HTS User Manual』を参照してください。

HTS 1.5xライブビュー



5.16 カスタム機能

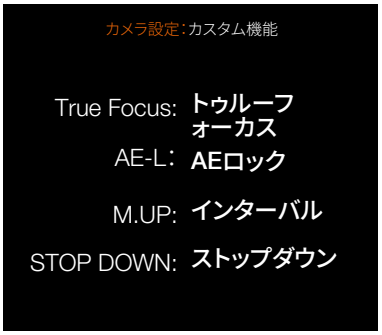
メインメニュー→カメラ設定→カスタム機能

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 カスタム機能の設定メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

カスタム機能設定メニュー



カスタム機能設定メニュー

利用可能な機能の一覧は背面と前面のボタンで多少異なります。下記のリストを参照してください。

トゥルーフォーカス、AE-Lは、これらの任意の設定を機能させるために選択できます。

- ライブビュースタート
- AEロック
- AFドライブ
- ミラーアップ
- トゥルーフォーカス
- ストップダウン
- シャッター
- LMモード
- ヒストグラムを表示する
- 水準器
- セルフタイマー
- インターバル
- ブラケティング
- フラッシュメジャー
- B-モード
- T-モード
- 割り当てなし

ミラーアップとストップダウンは、これらの任意の設定を機能させるために選択できます。

- コントロールスクリーン
- ライブビュースタート
- AEロック
- AFドライブ
- ミラーアップ
- トゥルーフォーカス
- カードを見る
- 画像を消去する
- ストップダウン
- シャッター
- LMモード
- ヒストグラムを表示する
- 水準器
- セルフタイマー
- インターバル
- ブラケティング
- 露出オーバーを表示 オン/オフ
- フラッシュメジャー
- B-モード
- T-モード
- 割り当てなし

5.17 カメラ設定

メインメニュー→カメラ設定→設定

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 設定メニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラ設定メニュー

フロントホイール
ー絞り
ーシャッタースピード

B/Tモードを非表示
オンまたはオフを選択します。BおよびTシャッタースピードへのアクセスを非表示にして、1秒から1.4秒へのシャッタースピードを変更をするときの移行をスムーズにします。

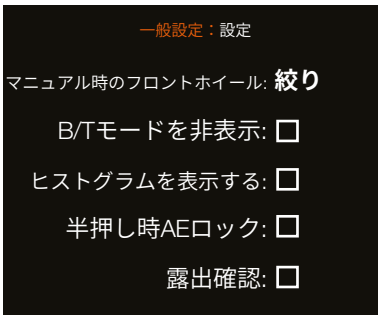
ヒストグラムを表示する
オンまたはオフを選択します。グリップディスプレイのヒストグラム表示のオン/オフを制御します。

半押し時AEロック
オンまたはオフを選択します。他の必要な機能に割り当てられたカスタマイズ可能なボタンを使用することなく、AEロックにアクセスできます。

露出確認
オンまたはオフを選択します。

カメラ設定メニュー

設定 設定メニュー



5.18 カメラ本体設定

メインメニュー→カメラ設定→カメラボディ

この設定は、H6Dカメラ本体からセンサーユニットを取り外して、他のカメラで使用する場合にのみ使用します。
これについては、「カメラビューカメラ」の章（175ページ）に詳しい説明があります。

1 背面ディスプレイでカメラのアイコンを押します。
2 カメラの設定メニューが表示されます。
3 構成設定メニューを押します。

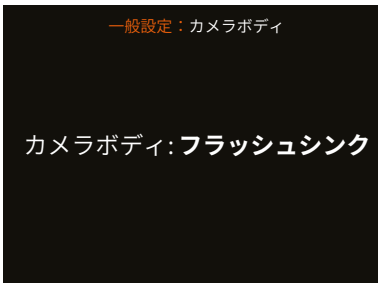
右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カメラボディ設定メニュー

カメラボディ
－ピンホール
－フラッシュシンク

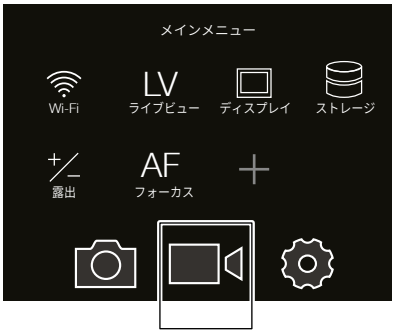
カメラ設定メニュー

カメラ本体設定メニュー



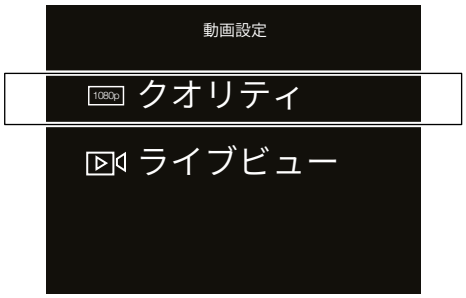
5.19 動画設定メニュー クオリティ

メインメニュー



動画アイコン

ビデオ設定メニュー



動画クオリティ設定

動画クオリティ設定ダイアログ

H.264解像度ダイアログ

メインメニュー→動画設定→動画クオリティ

1　背面ディスプレイの動画アイコンを押します。
2　動画設定メニューが表示されます。
3　動画クオリティアイコンを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

動画クオリティ設定

動画クオリティ設定 H6D-50c

－H.264.（1920×1080または1280×720）。
－RAW FHD（Full HD、1920×1080）。

動画クオリティ設定 H6D-100c

－H.264.（1920×1080または1280×720）。
－RAW UHD（Ultra HD、3840×2160）。

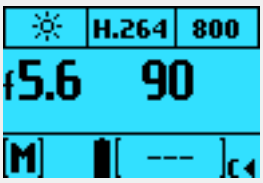
H.264解像度

H.264解像度を選択します。

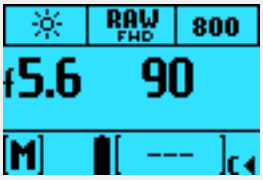
－1080。
－720。

グリップディスプレイ

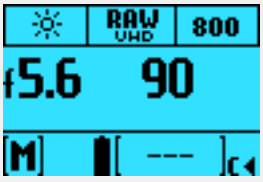
H.264 動画符号化：



RAW Full HD（H6D-50c）：

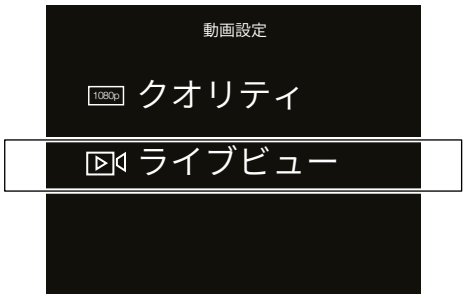


RAW UHD（H6D-100c）：

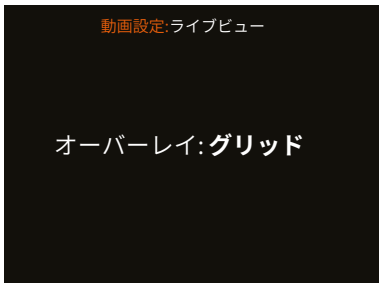


5.20 動画設定メニュー ライブビュー

ビデオ設定メニュー



ライブビュー設定



オーバーレイ設定ダイアログ

メインメニュー→動画設定→ライブビュー
1　背面ディスプレイの動画アイコンを押します。
2　動画設定メニューが表示されます。
3　ライブビューアイコンを押します。

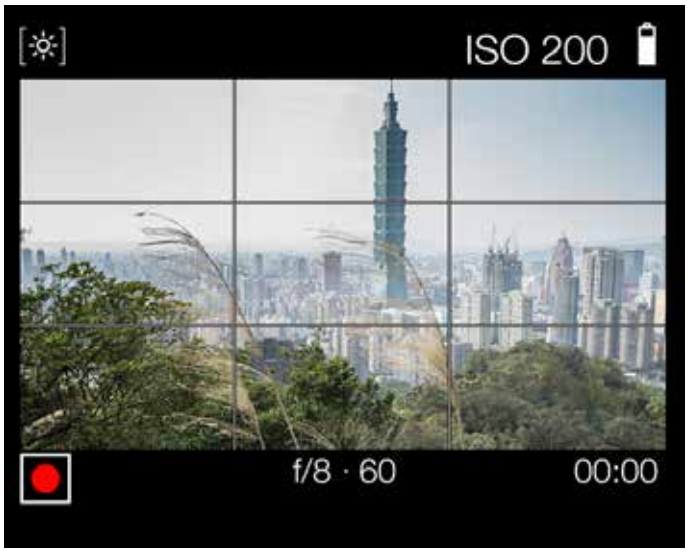
右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

ライブビュー設定

オーバーレイ
次から選択します。
－なし
－グリッド このオプションは1/3グリッドを追加します。

注意!
動画ライブビューの状態で、ディスプレイボタン を押してオンとオフを切り替えることができます。

グリッドが表示された動画ライブビュー画面



5.21 動画記録

動画を記録するには

1 グリップディスプレイの動画ボタン(A)を長押しするか、またはコントロール画面の露出モードとして「V」を選択することにより、動画モードに切り替わります。
2 動画コントロール画面が表示されます。
3 フロント/リアホイールで絞りやシャッタースピードを調整し、最適な露出レベルにします。
4 動画コントロール画面の左下角にあるライブ動画アイコン(C)を押して、動画ライブビューを開始します。
5 動画ライブビューが、背面ディスプレイに表示されます。
6 シャッターボタン(B)を押すか、背面ディスプレイの赤い記録アイコンを押して記録を開始します。
7 シャッターボタン(B)を押すか、背面ディスプレイ左下角にある停止アイコン(グレーの四角アイコン)を押して停止します。
8 記録が完了したら、再生ボタンを押すと、最後に記録された動画が表示されます。これで、動画を再生して結果を確認できます。

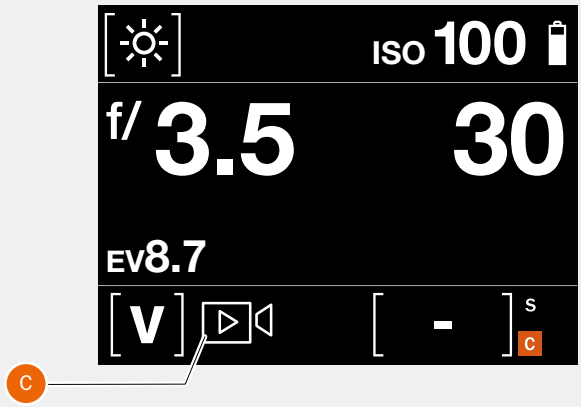
A 動画モードボタン
B シャッターボタン

動画モードでのフォーカス方法

1 録画前の動画ライブビューで、画面をダブルクリックすると、設定に応じて50%または100%に拡大します。
2 ズームインモードでフォーカスを手動調整します。

注意!
動画ライブビュー画面で値をタップしてホワイトバランスおよびISOを変更することができます。

動画コントロール画面

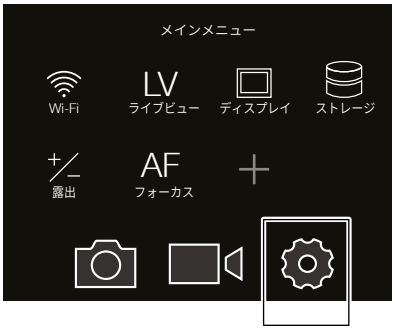


動画を記録する前の動画ライブビュー

動画を記録中の動画ディスプレイ

5.22 一般設定 メニュー

メインメニュー



一般設定アイコン

一般設定メニュー

メインメニュー→一般設定

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

次ページに続きます。

一般設定 WI-FI

Wi-Fiモードにより、カメラがパソコンにテザー接続されているときと同様に、AppleのiPhone、iPadまたはiPod上でもHasselblad Phocus Mobileアプリケーションが機能するようになります。

メインメニュー→一般設定→Wi-Fi

1 背面ディスプレイのメインメニューの一般設定を選択します。
2 Wi-Fiを選択します。
3 設定を選択します。
Wi-Fi: オンまたはオフ。
モード:2.4 Ghz/5 Ghz。

注意!
地域によっては5GhzのWi-Fiは使用できません。

注意!
Wi-Fiが起動すると、ほとんどの画面にWi-Fiアイコンが表示されます。

注意!
画像はiPhone/iPad/iPodには保存されません。写真を電子メールで送信するには、Phocus Mobileのシェア機能を選択するか、iPhone/iPadのスクリーンショット機能を使用します。

Wi-Fiモード

Wi-Fi機能の動作モードの1つにダイレクトアクセスがあります。

ダイレクトアクセスとは、カメラが新しいWi-Fiネットワークを形成して、iPhone/iPad/iPodがそのネットワークに接続している状態を意味します。ネットワークの名称にはカメラのシリアルナンバーが含まれます。例えば:「H6D-50c－SQ34000123」

Wi-Fi設定メニュー

5.23 一般設定 ディスプレイ

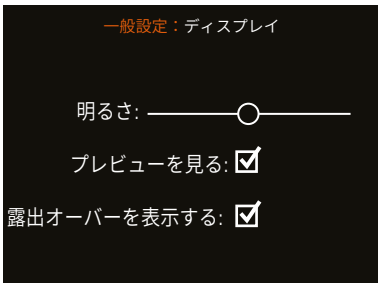
メインメニュー→一般設定→ディスプレイ

背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
一般設定メニューが表示されます。
ディスプレイを選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

ディスプレイメニュー



ディスプレイメニュー設定

明るさ
左右にスライドさせて
明るさを変更します。左は暗くなり、
右は明るくなります。

プレビューを見る
オンまたはオフを選択します。オンにすると、撮影後に毎回、キャプチャーのプレビューが表示されます。オフにすると、撮影後にプレビューは表示されません。

露出オーバーを表示する
オンまたはオフを選択します。オンに設定すると、画像内の露出オーバーのエリアが、白と黒で交互に表示されます。
1ビューと9ビューの両方のプレビューで有効です。

5.24 一般設定 ストレージ

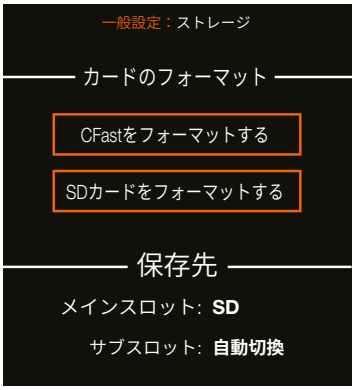
メインメニュー→一般設定→ストレージ

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定 ストレージアイコンを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

ストレージメニュー



ストレージメニュー設定

カードのフォーマット
－CFastをフォーマット
－SDをフォーマット

画像の保存先
－メインスロット：
CFastまたはSD

－サブスロット：
なし、自動切換、またはバックアップ。

詳細は、次ページを参照してください。

CFASTおよびSDカードをフォーマット

メインメニュー→一般設定→ストレージ→カードをフォーマット

カメラは、正しくフォーマットされたストレージメディアにのみ読み書きができます。新しいカードはフォーマットされていない場合があります。また、カメラが読み込めないフォーマットになっているため、読み込めるように変換したい場合があるかもしれません。どちらの場合も、H6D用にセンサーユニット内でCFastカードやSDカードを再フォーマットする必要があります。

カードのフォーマットには2つの方法があります。最も早い方法は、グリップにあるカードをフォーマットボタンを使用することですが、必要に応じて、センサーユニットのメニューも使用できます。

フォーマットボタン

カメラグリップのフォーマットボタン（A）を押します。誤って使用されないように意図的に窪みが設けられているため、ボールペンなどを使用してください。センサーユニットに確認のダイアログが表示されます。また、指先で強く押さえて、フォーマットボタンを押すことも可能です。

背面ディスプレイでメモリーカードをフォーマットする

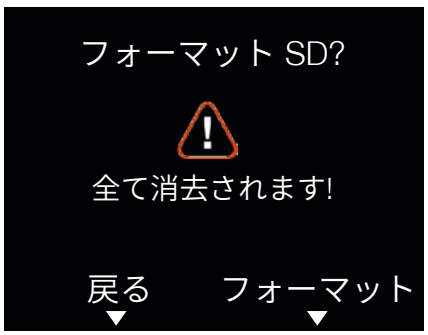
メインメニュー→一般設定→ストレージ→カードのフォーマット

1 MENUを押します。
2 一般設定→ストレージに移動します。
3 「カードのフォーマット」に移動します。
4 CFastまたはSDのボタンをクリックします。この場合はSDです。
5 フォーマットを押して確認します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

カードフォーマットのダイアログ

SDカードのフォーマットの確認ダイアログ



注!
初めて使用する前に、必ず、CFastおよびSDメモリーカードを背面ディスプレイでフォーマットすることをお勧めします。

注!
H6DにはUDMA/タイプ4/60MB（または400x）以降のカードのみが推奨されます。

画像および動画の保存先

メインメニュー→一般設定→ストレージ→保存先

保存先設定

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定 ストレージアイコンを押します。
4 保存先を選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

画像の保存先

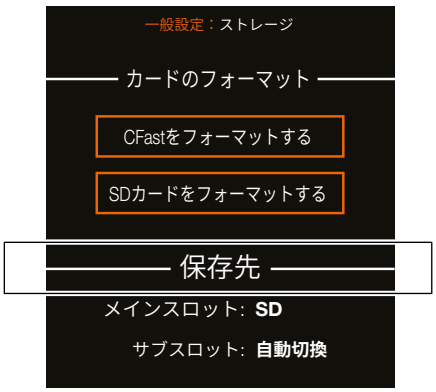
－メインスロット：CFastまたはSD
－サブスロット：
　－なし
　－自動切換
　－バックアップ

自動切換を選択すると、メインのカードがフルになると、自動的にサブのカードに切り換わります。

バックアップを選択すると、画像を両方のカードに保存します（RAWおよびRAW＋JPG）。H.264形式の動画は両方のカードに保存されます。RAW動画はCFastカードにのみ保存できます。

一般設定メニュー

ストレージメニュー



サウンド

メインメニュー→一般設定→サウンド

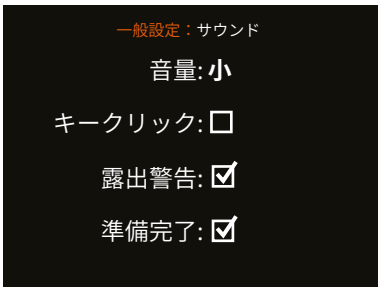
サウンドを設定します。

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定 ストレージアイコンを押します。
4 サウンドを選択します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

サウンドメニュー



サウンド設定

音量
音量をコントロールします。

オフ、小、大。

キークリック
ボタンを押すとクリック音がします。

オンまたはオフを選択します。

露出警告
露出オーバーや露出アンダーを示すサウンドが再生されます。

オンまたはオフを選択します。

準備完了
新しい露出の準備完了時の短いサウンドです。

オンまたはオフを選択します。

注!
音声通知は、内蔵スピーカーを通してのみ再生されます。

注!
音量設定は、音声通知にのみ影響します。

注!
動画ファイル内の音声は、音声出力ジャックを経由してのみ再生されます。

利用可能なサウンドリスト

イベント	サウンド
メディア残量1枚	
メディア残量5枚	
メディアフル	
露出オーバー	
エラー	
バッテリー残量警告	
転送完了	

イベント	サウンド
オフ	
準備完了	
範囲外	
露出アンダー	
セルフタイマーカウント	
テザー接続	
テザー接続切断	

上記の図は正確なものではなく、参考としてのみ使用してください。

5.25 一般設定 日付と時刻

メインメニュー→一般設定→日付と時刻

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 日付と時刻アイコンを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

日付と時刻メニュー

日付と時刻メニュー設定

日付
年、月、日をポップアップメニューを使用して変更し、日付を設定します。

時間
時間と分をポップアップメニューを使用して変更し、時刻を設定します。

5.26 一般設定 電源オフとタイムアウト

メインメニュー→一般設定→電源オフ&タイムアウト

H6Dカメラは、たとえば、バッテリー節約の目的で、所定時間後に背面表示が自動的にオフになるように設定できます。

また、10、30、60分後に電源オフになるように設定することもできます。

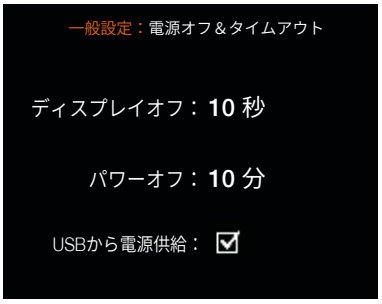
USB電源が確認されると、カメラの電源の一部はUSB接続から供給されるようになります。

電源オフとタイムアウト設定についての詳細は、次ページを参照してください。

注意！
DC電源入力に外部電源が接続されていると、「パワーオフ」項目はグレー表示され、選択できなくなります。

一般設定メニュー

電源オフ&タイムアウトのメニュー



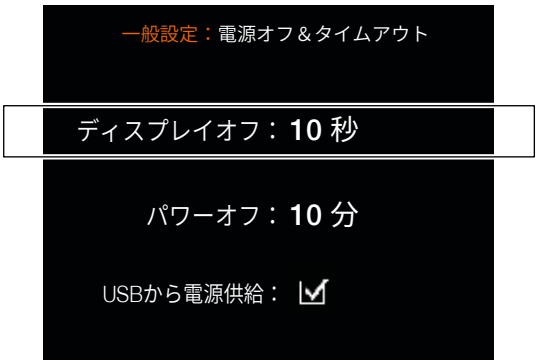
ディスプレイオフモードを設定

メインメニュー→一般設定→ディスプレイ→電源オフ&タイムアウト

1　背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2　一般設定メニューが表示されます。
3　一般設定の電源オフ&タイムアウトアイコンを押します。
4　ディスプレイオフを選択します。

このモードでは、グリップや背面のディスプレイがオフになりますが、すぐにオンモードに復帰する状態が保たれます。

時間：
3秒、5秒、10秒、20秒、30秒、60秒、またはオフにしない。

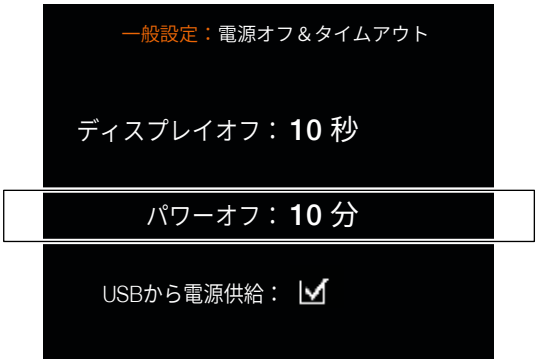


パワーオフ

メインメニュー→一般設定→ディスプレイ→電源オフ&タイムアウト→電源オフ

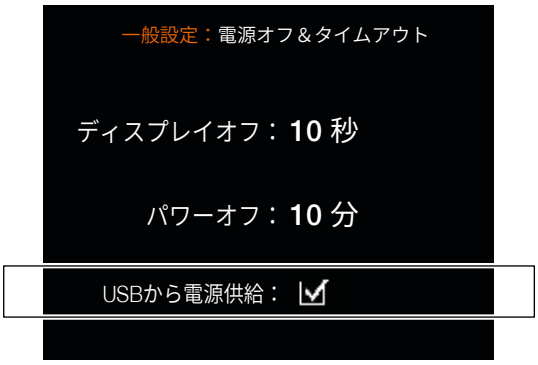
カメラが完全な電源オフモードになるまでの時間を設定します。

パワーオフオプション
5分、10分、30分後に電源オフ、または電源オフにしない。



カメラをディスプレイオフ電源モードから再び起動するには

以下のいずれかの操作を行います。
1　シャッターボタンを半押しします。
2　STOP DOWNボタンを押します。
3　ON/OFFボタンをクリックします。
4　ミラーアップボタン（M.UP）を押します。



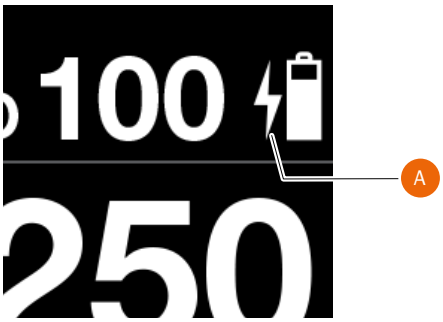
USB電源

メインメニュー→一般設定→ディスプレイ→電源オフ&タイムアウト→USBから電源供給

項目を選択すると、USBデバイスから電源が供給されるようになります。これは、コントロール画面とライブビュー画面のバッテリーの横にあるマーク（A）で表示されます。

注意！
USBからの電源は部分的に供給されるだけです。充電済みのカメラバッテリーは依然として必要です。USBホストデバイスからの電源のみに対応しています。

アクティブなUSB電源の表示



5.27 一般設定 水準器

メインメニュー→一般設定→水準器

カメラには加速度計が搭載されています。加速度計は、水平軸（A）と垂直軸（B）対するカメラの傾きの測定に使用されます。

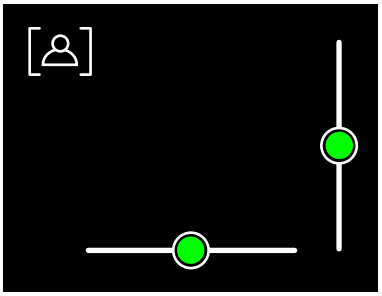
水準器によりカメラを配置する方法

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定水準器アイコンを押します。
4 白塗りの丸が中心に来て緑になるまで、カメラの左右および上下の傾きを調整します。

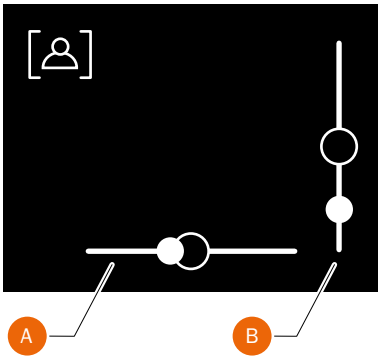
右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

カメラが水平、垂直なときの水準器



カメラが右に少し、下にさらに傾いているときの水準器。



カメラが左に傾いている。

カメラが水平および垂直に適正に配置されている。

カメラが右に傾いている。

カメラが上に傾いている。

カメラが縦方向に適正に配置されている。

カメラは下に傾いている。

水準器のキャリブレート

メインメニュー→一般設定→水準器

水準器は工場モードまたはユーザーモードに設定できます。ユーザーモードでは、水準器はユーザーによって調整できます。工場モードでは、工場でのキャリブレーションが使用されます。

工場設定されている工場モード

ユーザー設定するユーザーモード

水準器のキャリブレート方法

1 メインメニューディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定水準器アイコンを押します。
4 左上のアイコン(A)を押します。
5 水準器ダイアログが表示されます。
6 横方向と縦方向の両方について慎重にカメラの位置を合わせます。
7 キャリブレート(B)を押します。
8 ここで2つの白い丸が中心に移動します。中心位置になると、緑色に変ります。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

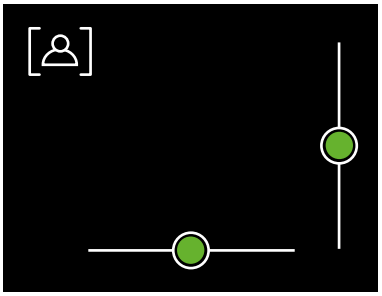
水準器を工場キャリブレーションにリセットする方法

1 メインメニューディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定水準器アイコンを押します。
4 左上のアイコン(A)を押します。
5 水準器ダイアログが表示されます。
6 工場設定アイコン(C)を押します。
7 これで工場設定アイコン(D)が表示され、水準器は工場キャリブレーション設定にリセットされます。

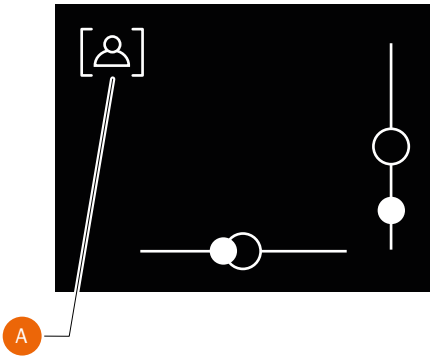
右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

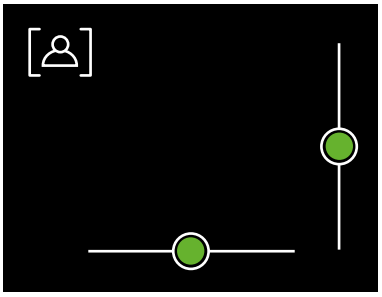
カメラが揃っているときの水準器

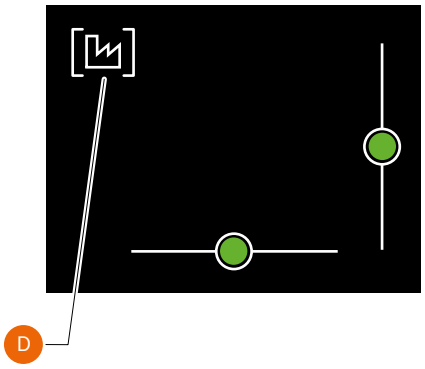


カメラが右に少し、下にさらに傾いているときの水準器。



ユーザーによりキャリブレートされた時の水準器





5.28 一般設定 HTS

メインメニュー→一般設定→HTS

カメラでHTS1.5xチルト/シフトアダプターを使用するとき、このメニュー項目にはHTSの設定：シフト、チルトおよび回転を動的に示すステータス画面が表示されます。

注意！
HTSアダプターを使用していない場合は、このメニュー項目はグレー表示されます。

注意！
また、ライブビュー画面でHTS情報を確認することもできます。115ページを参照してください。

HTSチルト/シフトアダプターについての詳細は、www.hasselblad.comからダウンロードできる『HTS User Manual』を参照してください。

一般設定メニュー

HTSステータス画面

5.29 プロファイル

メインメニュー→一般設定→プロファイル

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 プロファイルメニューを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

プロファイルメニューを押すと、プロファイルメイン画面が表示されます。この画面から、設定を呼び出したり、7つある任意のプロファイルのいずれかに現在の設定を保存したりできます。

標準のプロファイルは、カメラ設定を初期設定に復元するために使用されるもので、カメラ設定をこのプロファイルに保存することはできません。

他の7つのプロファイルを利用して、カメラの設定全体を読み込みまたは保存できます。ロードを押すと、そのプロファイルの設定が現在のカメラ設定を上書きします。保存を押すと、現在の設定がこのプロファイルに保存されます。

注意!
オン/オフおよびプロファイルボタンを短く押しても、プロファイルメイン画面を起動します。

注意!
プロファイルのアイコンの横に星印が付いている場合、そのプロファイルが最後にロードされた後でカメラ設定が変更されたことを意味します。

注!
プロファイルにはカスタム名を付けることはできません。

一般設定メニュー

プロファイルメイン画面

ロードまたはFull Autoプロファイルに保存

基本設定の読み込み

ロードまたはProfile 5に保存

5.30 一般設定 言語

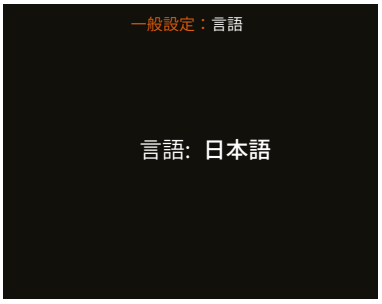
メインメニュー→一般設定→言語

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定言語アイコンを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

言語メニュー



言語メニュー設定

使用可能言語:

英語
スペイン語
フランス語
ドイツ語
イタリア語
スウェーデン語
ロシア語
日本語
中国語
韓国語

言語の変更方法

1 背面ディスプレイでメニューボタンを押します。
2 「一般設定」に移動します。
3 言語に移動します。
4 言語を選択します。
5 ポップアップメニューの外側をタップしてポップアップメニューを閉じます。

注意!
センサーユニットが理解できない言語に設定されている場合（レンタルカメラなど）、解決方法については、「トラブルシューティング」の章を参照してください。

5.31 一般設定 サービス

メインメニュー→一般設定→サービス

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定サービスアイコンを押します。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

サービスメニュー設定

ファームウェアのアップデート
更新をチェックします。

ログデータ
保存を押して、サービス用にデータを記録します。

初期設定
すべての設定を初期設定に戻すには。

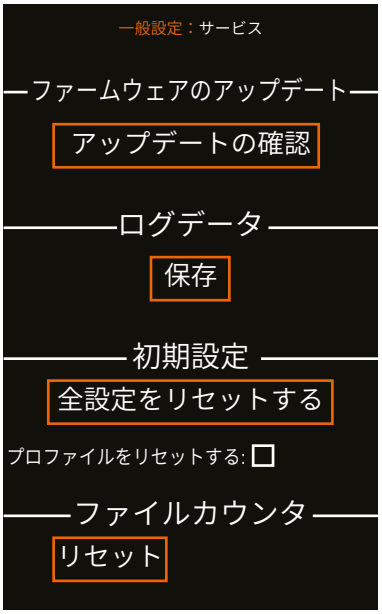
「プロファイルをリセット」のオプションがチェックされている場合、すべてのプロファイルもデフォルトにリセットされます。これは「すべての設定をリセット」を押す前に選択しなければなりません。

ファイルカウンタ
画像シーケンス番号をリセットします。メモリーカードをフォーマットしてから、この機能を使用します。

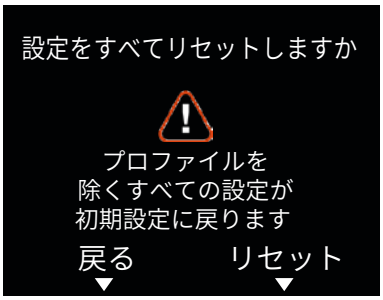
ログデータの保存方法:
1 メニューボタンを押します。
2 一般設定を選択します。
3 サービスを選択します。
4 ログデータを選択します。
5 保存ボタンを押します。
6 「ログデータの保存」により、ログファイルがCFastカードかSDカードに保存されます。

一般設定メニュー

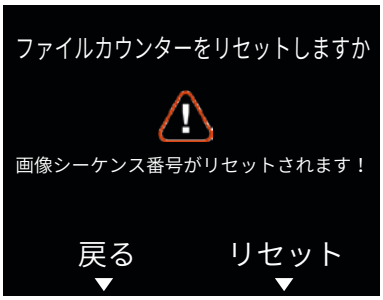
サービスメニュー



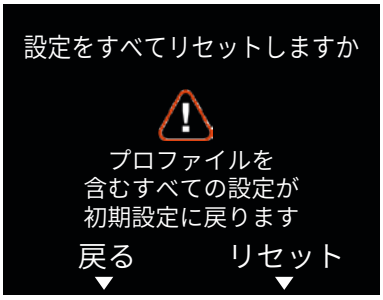
「リセットプロファイル」がチェックされていないときの設定リセットダイアログ。



ファイルカウンタのリセットのダイアログ



「リセットプロファイル」がチェックされているときの設定リセットダイアログ。



5.32 一般設定 更新をチェック

メインメニュー→一般設定→サービスをチェック

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 サービス→アップデートの確認を押します。
4 更新ファイルがないかどうかカードがチェックされるようになります。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

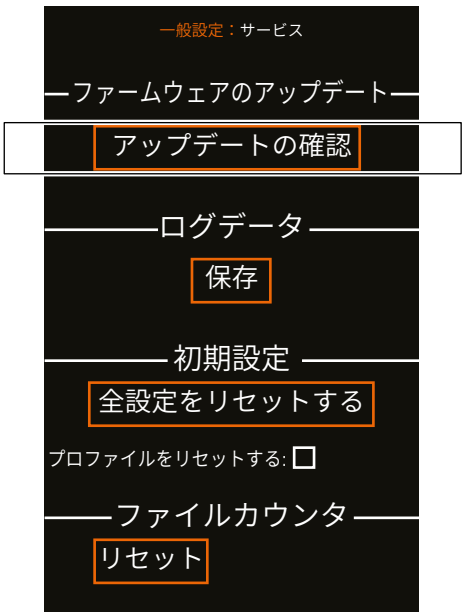
注!
ファームウェアアップデートを確実に実行するには、バッテリーは50%以上充電されている必要があります。

H6Dファームウェアの更新手順

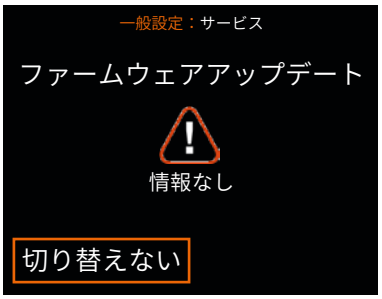
1 最新のH6Dファームウェアをwww.hasselblad.comからダウンロードします。
2 ファームウェアファイルをCFastカードまたはSDカードのルートに保存します。ファームウェアファイルはフォルダー（またはサブフォルダー）内には保存しないでください。
3 H6DカメラにCFastまたはSDカードを差し込みます。
4 メインメニューから一般設定を選択します。
5 サービスを選択します。
6 ファームウェアのアップデートを選択します。
7 アップデートの確認を選択します。
8 ファームウェアファイル名と番号がダウンロードした最新のファイルファイルに対応する事を確認します。
9 更新を選択します。
10 更新中、H6Dカメラディスプレイには、「更新中」と「電源をオフにしないでください!』というテキストが 表示されます。
11 更新中、H6Dカメラの電源をオフにしないでください。
12 更新には数分間かかります。
13 更新が終了すると、このテキストが表示されます。「更新終了。バッテリーを外してから、挿入しなおしてください。」
14 バッテリーを外してから、挿入しなおします。
15 H6Dカメラを起動します。
16 新しいファームウェアがインストールされます。

一般設定メニュー

サービスメニュー



アップデートの確認



ファームウェアアップデートがない場合のファームウェアアップデートダイアログ

ファームウェアのアップデート

ファームウェアアップデートが利用可能な場合のファームウェアアップデートダイアログ

5.33 一般設定 情報

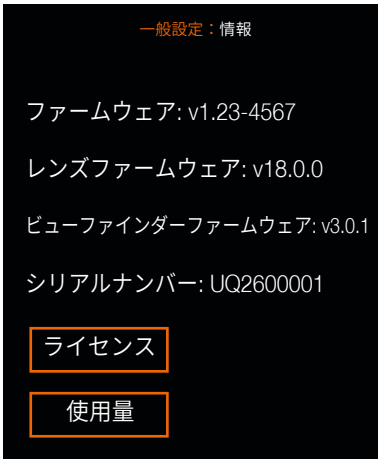
メインメニュー→一般設定→情報

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 一般設定情報アイコンを押してください。

右にスワイプして、メニューボタンを押し、メインメニューに戻ります。

一般設定メニュー

情報メニュー



情報メニュー設定

ファームウェア
情報ボックスには、インストールされているファームウェアバージョンが表示され、最新のファームウェア（Hasselbladのホームページからダウンロードできます）の有無を確認できます。
ファームウェアのバージョンは、カメラ本体、レンズおよびビューファインダー（取り付けられている場合）について示されます。

シリアルナンバー
シリアルナンバーはここに表示されます。問題を解決するためにHasselbladのサポート部門から求められた場合は、このシリアルナンバーを伝えてください。

ライセンス
利用可能なライセンスが表示されます。

使用量
カメラ本体とレンズ（取り付けられている場合）の撮影回数が表示されます。

使用量

5.34 グリップディスプレイナビゲーション

グリップディスプレイのボタンおよびコントロール

グリップの周りのボタンを押し、スクロールホイールを回して、グリップ上でメニューを移動したり、設定にアクセスしたりします。

一部には複数の機能を備えるボタンもあり、その場合は移動を行う際にその特定のボタンのすぐ近くの表示よって示されます。

例えば、メニューボタン（F）は動画ボタンとしても機能します。また、再生ボタン（G）は、グリップディスプレイを明るくする機能もあります。

クイック保存

設定を急いで保存するには、シャッターボタン（A）を半押しします。

A　シャッターボタン
B　フロントホイール
C　WBボタン
D　AFボタン
E　ISO
F　Menu/動画ボタン
G　再生および照明
H　オン/オフおよびプロファイルボタン
I　リアホイール
J　露出補正およびフラッシュ補正ボタン
K　露出モードと測光方式

グリップでシャッターおよび絞りを調整するには

注意!
マニュアルモードでは、シャッターと絞りは電子制御されており、グリップのホイールによって調整されます。

注意!
レンズやカメラ本体には別個のマニュアル設定リングはありません。設定は、グリップディスプレイとビューファインダーディスプレイの両方に表示されます。

シャッターおよび絞りの調整方法

1 フロントホイール(A)を回すと、下記に説明する選択したモードに応じてシャッターや絞りが調整されます。
2 リアホイール(B)を回すと、下記に説明する選択したモードに応じてシャッターや絞りが調整されます。

マニュアルモード(M)では:
フロントホイール　絞り。
リアホイール　シャッタースピード。

絞り優先(A)モードでは:
フロントホイール　絞りとシャッタースピードの組み合わせ。
リアホイール　シャッタースピードのクイック露出調整。

シャッター優先方式(S)モードでは:
フロントホイール　絞りとシャッタースピードの組み合わせ。
リアホイール　絞りのクイック露出調整

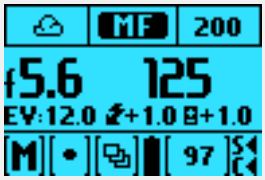
PまたはPvモードでは:
フロントホイール　絞りとシャッタースピードの組み合わせ。
リアホイール　絞りとシャッタースピードの組み合わせ。

詳細は、「測光および露出制御/露出方法」を参照してください。

グリップディスプレイナビゲーション

メイン画面
これは、カメラのグリップディスプレイのメイン画面です。これらは最も重要なカメラの設定です。最上列には、WB、AF、ISOが表示されます。中央には、絞り、シャッタースピード、EV（露出値）、露出補正値が表示されます。画面の下部には、露出モード、測光方式、ドライブモード、バッテリー残量、撮影残量、メモリーカードのステータスが表示されます。

メイン画面
グリップディスプレイメイン画面。



メニュー
通常は、フロントホイールやリアホイールは、絞りやシャッタースピードの値を制御するために使用されます。センサーユニットのメニューを移動するためにホイールを使用する場合、まずメニューボタンを押してください。その後、メニューマークはディスプレイ中央に表示されます。

メニューモードがアクティブになると、ホイールを使用してセンサーユニットのメニューシステム内を移動できます。メニューモードを終了（かつ、絞りとシャッタースピードの設定用にホイールを使用）するには、再びメニューボタンを押すか、またはシャッターボタンを半押しします。

メニュー
画面上のグリップディスプレイメニューマーク。

ホワイトバランス（WB）
1 グリップディスプレイの上のWBボタンを押すと、WBメニューが表示されます。
2 フロントホイールを左右にスクロールして、WBモードを選択します。
3 シャッターボタンを半押しするか、WBボタンをもう一度クリックして、メイン画面に戻ります。

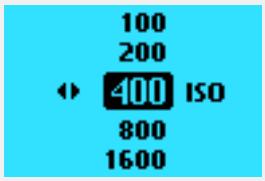
WB
グリップディスプレイホワイトバランス（WB）画面。

ホワイトバランスマニュアル（WB）
1 色温度を手動で設定するには、「M」が表示されるまでフロントホイールをスクロールします。
2 すると、画面の下部に色温度値が表示されます。
3 リアホイールを使用してケルビン（K）値で色温度を選択します。

WBマニュアル
グリップディスプレイホワイトバランス（WB）画面。

ISO
1 ISOボタンを押すと、ISOメニューが表示されます。
2 フロントホイールを使用して、使用可能なISO数値を上下にスクロールします。
3 もう一度ISOボタンを半押しするか、クリックすると、メニューを終了します。

ISO
グリップディスプレイマニュアルISO画面。ISO 400が表示されています。



オートフォーカス（AF）

1 グリップディスプレイの上にあるAFボタンを押すと、AFメニューが表示されます。
2 フロントホイールまたはリアホイールを、望ましいモードが選択されるまで左右/前後にスクロールして、AFモードを選択します。

オートフォーカス（AF）
グリップディスプレイオートフォーカス（AF）画面

マクロレンズ120mmでのオートフォーカス（AF）

120mmマクロレンズ使用時には、AFメニューには追加設定である「フォーカス範囲」が表示されます。マクロレンズの大きなフォーカス範囲を限定することで、AF性能を著しく向上させることができます。フォーカス範囲について下記の3つのモードのどれか1つを選択することが可能です。

最初のモードでは、AFによるスキャンが近接範囲のみ（1メートル未満）に限定されます。

第2のモードでは、スキャンは遠距離のみ（1メートル～無限大）に限定されます。

第3のオプションでは、全範囲がスキャンされます。

近接スキャン

遠距離スキャン

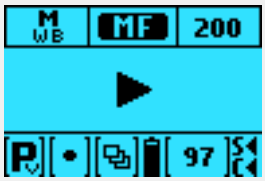
全範囲スキャン

再生

簡単に画像再生モードにするには、グリップディスプレイの右側にある再生ボタンをクリックします。再生モードがアクティブになり、フロントホイールを使用して画像の再生が可能です。再生モードを終了するには、再生ボタンを半押しするか、または押します。

リアホイールを使用して、キャプチャー情報やヒストグラムモード付きの画像オーバーレイを変更します。

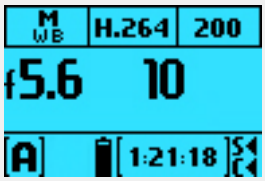
再生
グリップディスプレイ再生画面。



動画ディスプレイ

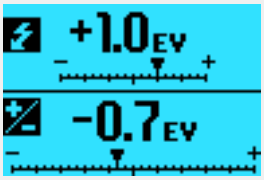
グリップ上の動画モードボタンを押し下げたまま保持します。動画モードでは、グリップには、例えば、ホワイトバランス（WB Mが選択）、H.264が選択、ISO（200）、絞り（f5.6）、シャッタースピード（10）、絞り優先モード（A）、バッテリー残量、時間（1:21:18）、メモリーカードステータス（SDとCFastが装着）など基本的な設定が表示されます。

動画ディスプレイ
動画モード時に表示されます。



ビューファインダーの+/-ボタン
ビューファインダーの+/-ボタンを押して、露出調整メニューに移動します。フロントホイールを使用してフラッシュ用の露出補正を設定し、リアホイールを使用して露出補正を設定します。露出補正は、－5.0～5.0段の間で設定でき、フラッシュ補正は-3.0～3.0段の間で設定できます。シャッターボタンを半押しするか、または＋/－ボタンを再び押してメニューを終了します。

+/-ボタン



ビューファインダーのEXPボタン
ビューファインダーのEXPボタンを押すと、露出モードや測光モードのメニューが表示されます。フロントホイールを使用して露出モードを設定し、リアホイール使用して測光モードを設定します。再びEXPボタンを半押しするか、押してメニューを終了します。

EXPボタン

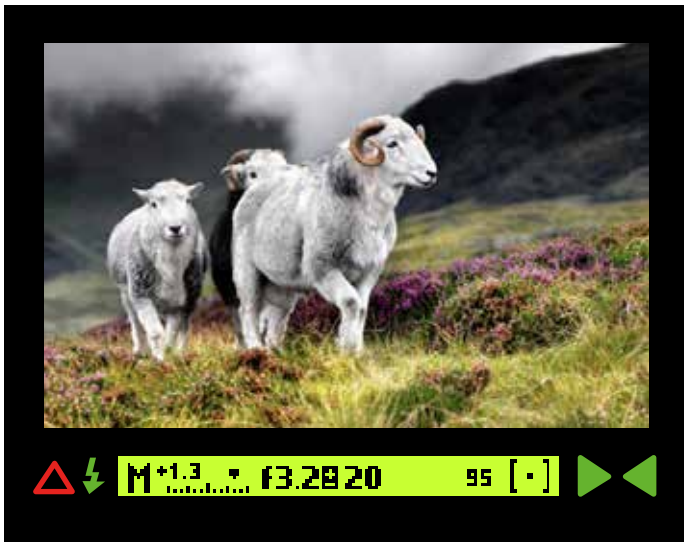
露出モード
M＝ マニュアル
A＝ 絞り優先
S＝ シャッター優先
P＝ プログラム
Pv＝ プログラム（可変）

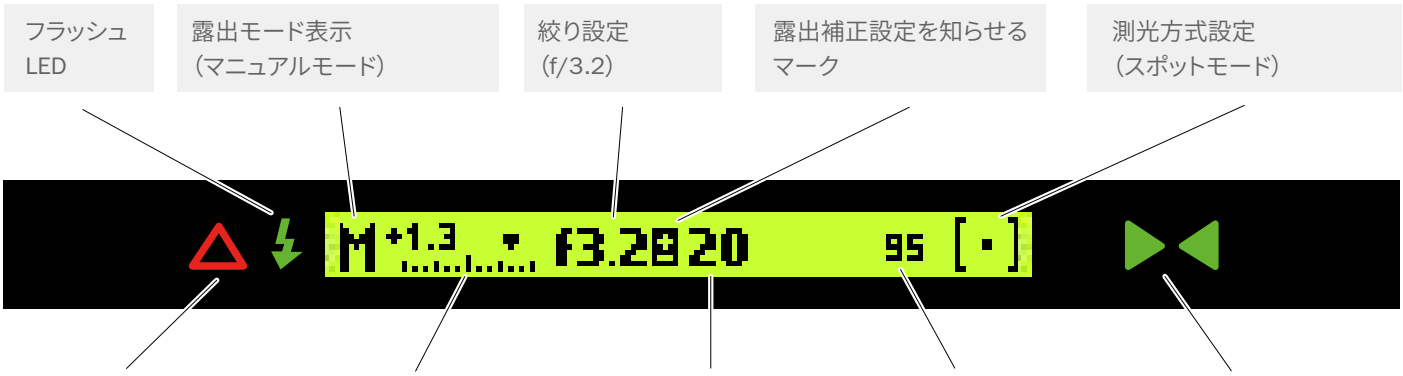
測光モード
中央重点
センタースポット
スポット

5.35 ビューファインダーディスプレイナビゲーション

標準的なビューファインダーディスプレイ

ビューファインダーディスプレイのユーザーインターフェイス





注!
LEDインジケーターマークは、カメラまたは設定によって起動されている場合にのみ表示されます。

写真：Ian Lawson

ビューファインダーディスプレイナビゲーションの概要

ビューファインダーディスプレイ内の移動方法

グリップディスプレイの近くにあるWB、AFまたはISOを選択するか、またはビューファインダーの右側にある露出補正モード、露出およびメーターモードを選択します。

フロントホイール（A）およびリアホイール(B)は、選択したモードに応じて特定の設定を調整します。

ビューファインダーの右側では、以下が選択できます。

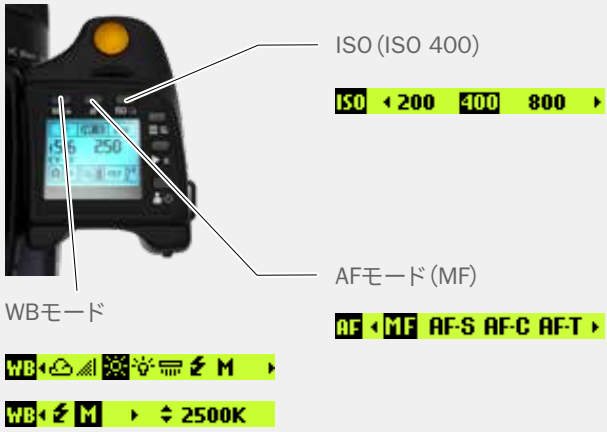
+/-ボタン	露出補正
EXPボタン	露出および計測モード

ISO、WBおよびAFの各モード

ISO
フロントホイール（A）を左右に、またはリアホイール(B)を上下にスクロールして、ISOモードを変更します。

WBモード
フロントホイール（A）を左右にスクロールして、WBモードを変更します。マニュアルWBを選択するとき、リアホイールを使用して、色温度をケルビン（K）で選択します。

AFモード
フロントホイール(A)またはリアホイール(B)を左右にスクロールして、AFモードを変更します。



露出および測光モードの例

M＝ マニュアル
A＝ 絞り優先
S＝ シャッター優先
P＝ プログラム
Pv＝ プログラム（可変）

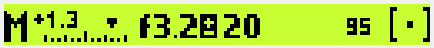
中央重点
センタースポット
スポット

フロントホイール（A）をスクロールして、露出を変更します。リアホイール（B）を上下にスクロールして、計測モードを変更します。

ビューファインダーディスプレイの例

メイン画面
これがビューファインダーディスプレイのメイン画面です。最も重要な露出情報が表示されます。

左には、露出モードが表示され、この場合はマニュアルモードです。矢印のある目盛は、露出補正設定を示します。ディスプレイの中央には、絞りとシャッタースピードが表示されます。露出補正が設定されている場合、絞りとシャッタースピード値の間にプラスとマイナスの符号が表示されます。右から2番目には撮影残数が表示されています。一番右には、測光方式が表示され、この場合は、スポットメーターモードです。



マニュアルモードが選択されています。

メニューモード
通常は、フロントホイールおよびリアホイールは、絞りやシャッタースピードの値を制御するために使用されます。センサーユニットのメニューを移動するためにホイールを使用する場合、まずメニューボタンを押してください。次に、メニューマークがディスプレイの中央に表示され、カメラがメニューモードになっていることを知らせてくれます。

メニューモードがアクティブになると、ホイールを使用してセンサーユニットのメニューシステムを移動できます。メニューモードを終了（かつ、絞りとシャッタースピードの設定用にホイールを使用）する場合、再びメニューボタンを押すか、またはシャッターボタンを半押しします。

メニューシンボル

再生
画像再生モードに移動するには、グリップディスプレイの右のブラウズ（再生）ボタンを押します。再生モードがアクティブになり、ホイールを使用してセンサーユニット上の画像の再生が可能です。再生モードを終了するには、再生ボタンを半押しするか、または押します。

再生モードアイコン

ISO設定
ISOのボタンを押して、ISO設定メニューを表示します。
フロントホイールまたはリアホイールを使用して、使用可能なISOナンバー間を左右にスクロールします。もう一度ISOボタンを半押しするか、または押して、メニューを終了し、新しい値を保存します。

ISO設定、ISO 400が選択されています。

露出の設定
ビューファインダーのEXPボタンを押すと、露出モードや測光方式のメニューが表示されます。
フロントホイールを用いて露出モードを、リアホイールを用いて測光方式を設定します。シャッターボタンを半押しするか、EXPボタンをもう一度押すと、メニューを終了します。

フロントホイール　　リアホイール

露出設定、マニュアルモードが選択。

露出補正、調整画面
左にカメラの露出補正が、右にフラッシュの露出補正が表示されます。

ビューファインダーの+/-ボタンを押して、露出補正メニューに移動します。フロントホイールを使用してフラッシュ用の調光補正を設定し、リアホイールを使用して露出補正を設定します。露出補正は、−5.0〜5.0段の間で設定でき、フラッシュ補正は-3.0〜3.0段の間で設定できます。もう一度+/-ボタンを半押しするか、または押すと、メニューを終了します。

リアホイール　　フロントホイール

調光補正、露出補正。

ホワイトバランスWB設定
グリップディスプレイの上のWBボタンを押すと、WB設定ディスプレイが表示されます。フロントホイールを左右にスクロールして、WBモードを選択します。マニュアルWBでは、リアホイールを使用して、色温度をケルビン（K）で選択します。
シャッターボタンを半押しするか、もう一度WBを押すとメインメニュー画面に戻ります。

ホワイトバランスWB、昼光が選択。

ホワイトバランスWBモード、マニュアル
色温度を手動で設定するには、「M」が表示されるまでフロントホイールをスクロールします。すると、画面の右上部に色温度値が表示されます。リアホイールを上下にスクロールして、値を変更します。2000 K〜10000 Kの値を100 Kのステップで設定できます。
シャッターボタンを半押しするか、もう一度WBボタンを押すと、WBメニューを終了します。

ホワイトバランスWBモード、マニュアルが選択。
温度（K）は、リアホイールで調整できます。

フォーカス設定
グリップディスプレイの上にあるAFボタンを押すと、AFメニューが表示されます。フロントホイールまたはリアホイールを望ましいモードが選択されるまでスクロールして、AFモードを選択します。

フォーカス設定、AF-Sが選択。

マクロ120mmでAF
120mmマクロレンズ使用時には、AFメニューには追加設定である「フォーカス範囲」が表示されます。フォーカス範囲について下記の3つのモードのどれか1つを選択することが可能です。
最初のオプションでは、AFによるスキャンが近接範囲のみ（1メートル未満）に限定されます。

マクロオートフォーカス設定、近接スキャン

第2のオプションでは、スキャンは遠距離のみ（1メートル～無限大）に限定されます。

マクロオートフォーカス設定、遠方スキャン

第3のオプションでは、全範囲がスキャンされます。マクロレンズは広いフォーカス範囲を持ち、スキャン範囲を限定することで、AF性能を著しく向上させることができます。

マクロオートフォーカス設定、全範囲スキャン

情報画面
これは、ストレージメディアが装着されていないことを表示する情報画面です。

情報画面、ストレージメディアが装着されていない。

撮影可能枚数
撮影可能枚数が表示され、1000枚以上撮影可能な状態を示します。1k9＝画像残数1900枚です。

撮影可能枚数、1000を超える。1k9＝1900。

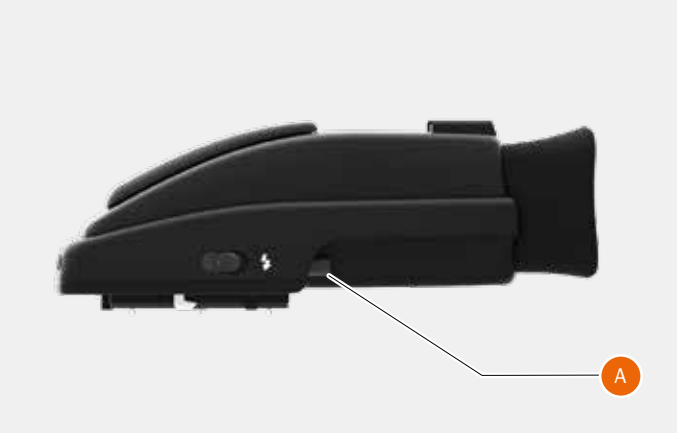
5.36 ビューファインダーの取り外し/取り付け

ビューファインダーを取り外す

注意!
コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
カメラを持ち運びや取り扱いの際は、グリップやストラップを持ってください。カメラの損傷の防止に役立ちます。

1 ビューファインダーを右手に持ちます。
2 ビューファインダー解除ボタン(A)を押し下げたままにします。
3 ビューファインダーの後部をカメラ本体から離れる方向に持ち上げます。



ビューファインダーを取り付ける

注意!
コンポーネントをカメラに取り付けたり、カメラから取り外したりする際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
カメラを持ち運びや取り扱いの際は、グリップやストラップを持ってください。カメラの損傷の防止に役立ちます。

1 ビューファインダーをわずかに傾けて保持し、カメラの上に載せます。
2 前面の位置決めピンがカメラ本体のビューファインダースクリーン開口部(B)の前端にある窪み内の所定位置に収まるまで、ビューファインダーをスライドさせます。
3 ビューファインダーの後部を、クリック音がして所定位置に収まるまでしっかりと下向きに押します。
4 ビューファインダーの両側が正しく配置され、所定位置にしっかりと装着されロックされていることを確認してください。

視度補正

ほとんどの視度に対して、調整するのに視度補正レンズは必要ありません。視度補正範囲は－5～＋3.5Dです。眼鏡着用者は、眼鏡を着用する場合とそうでない場合で、迅速かつ正確に設定を変更できます。

1 カメラを左手で保持します。
2 カメラを空あるいは類似したなだらかなトーンの領域に向けます。
3 ビューファインダー画面のマークができるだけシャープに見えるようになるまで調整ホイール（A）を回します。

注意！
通常時に遠方を見るのに眼鏡を着用していて、カメラ使用時にも着用する場合、眼鏡を外さずに上記手順を行ってください。反対に、カメラ使用時に眼鏡を外す場合には、眼鏡を着用せずに上記手順を繰り返してください。

フォーカシングスクリーンの交換

H6Dには、非常に明るく、透明度、均一な照度のスフェリカルアキュートマットDフォーカシングスクリーンが装着されています。グリッドパターンを備えたオプションのアクセサリースクリーンもあります。

フォーカシングスクリーンを交換するには、ビューファインダーを取り外して、フォーカシングスクリーンにアクセスします。

スクリーンを取り外すには、ボールペンなどの先端をフォーカシングスクリーン取り外しラグに入れて、引き上げます。スクリーンを元どおり取り付けるには、窪みに正しく嵌まるように、スクリーンの正しい側を所定位置に配置します。ボールペンなどの先端をフォーカシングスクリーン交換用の凹みに入れ、スクリーンがパチンと所定位置に嵌まるまで押し下げます。スクリーンの両面は、素手で触らないようにしてください。

注意！
フォーカシングスクリーンは、水に浸して掃除しないでください。

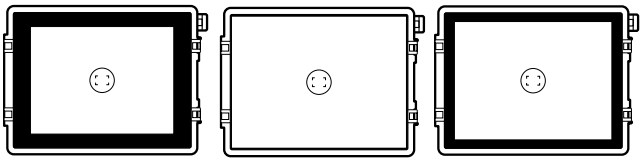
いかなる種類の洗浄液も使用しないでください。

スクリーンが湿った場合に、高温空気を用いた乾燥はしないでください。

上側の表面のみに柔らかい布を使用してください。

スクリーンが特に汚れた場合には、認定Hasselbladサービスセンターまでお問い合わせください。

スクリーン上に粒子や油汚れがあっても、ビューファインダーの像は損なわれるかもしれませんが、記録される画像には影響ありません。



フォーカシングスクリーンには、マスキングや構図のマーキングが異なるものが存在します。種類はセンサーサイズによって異なります。他の種類（グリッドパターンなど）については、「アクセサリー」を参照してください。

5.37 プレビュー、ヒストグラム、再生

プレビューモード

再生モードで、リアホイールか、背面の四角形のマークのあるボタンを使用して、利用可能なプレビューモードをスクロールします。また、画像の下を一回タップすることでも、プレビューモードを変更できます。

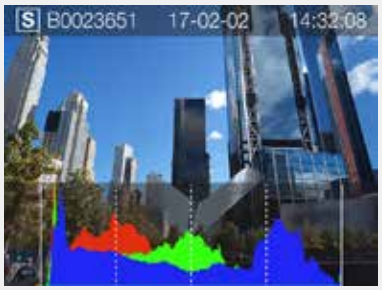
- 標準プレビュー：プレビュー画像を最も重要な設定と共に表示します。なお、情報が画像の一部を覆います。完全な画像エリアを確認するにはフルスクリーンモードに移動します。
- フルスクリーンプレビュー：プレビューのみを表示し、フレームや設定情報は表示されません。
- 詳細モード：プレビュー画像の上に、カメラ設定の詳細情報を表示します。
- 統合ヒストグラム：赤色、緑色、青色の3色のヒストグラムを組み合わせたプレビュー画像を表示します。
- 色別ヒストグラム：赤色、緑色、青色の3つ別個のヒストグラムを表示します。
- 輝度ヒストグラム：プレビュー画像を輝度ヒストグラム付きで表示します。

注意！
メタデータの上をシングルタップすると、オーバーレイ情報のオン/オフが切り替わります。

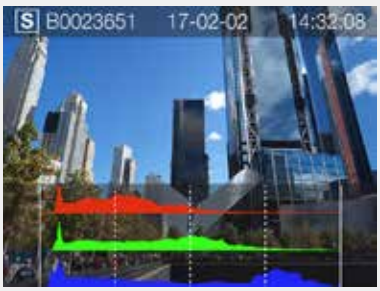
フルスクリーンプレビュー

詳細モード

統合ヒストグラム



色別ヒストグラム



標準プレビュー

輝度ヒストグラム

標準プレビュー

標準プレビューは、初めてカメラの電源をオンにするときに表示され、おそらく最も頻繁に使用するプレビューです。

最後に撮影した画像のプレビューが、設定についての基本情報と共に表示されます。

1 カード（SはSDのこと）
2 撮影日付
3 撮影時刻
4 絞り（f/8）
5 シャッタースピード（60）
6 ISO設定（100）
7 +/-露出補正インジケータ
8 露出補正（0.0 EV）

9分割モード

9分割モードの表示方法

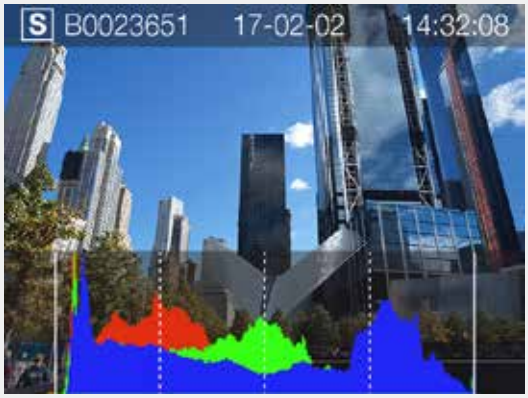
1 9分割モードを表示するには、再生画面でタッチディスプレイで2本指ピンチするか、AE-Lボタンを押します。
2 このモードでは、最大9個の画像を表示できます。
3 画像数が9個を超える場合は、ディスプレイの右側を下にスワイプして、撮影した画像全体を通してスクロールできます。
4 情報やヒストグラムを表示する画像をどれか1つ選択します。

ヒストグラムの種類

異なる種類のヒストグラム表現が利用できます。ヒストグラムモード、詳細モード、統合ヒストグラムモードと色別ヒストグラムRGBモード

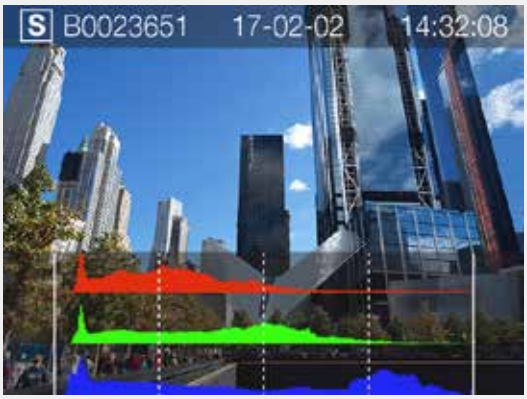
統合ヒストグラムモード

統合ヒストグラムモードでは、RGBヒストグラムが、色別RGBチャネル表示付きで表示されます。RGBの詳細は画像ファイルに保存され、Phocusやその他のアプリケーションで参照できます。



色別ヒストグラムRGBモード

色別ヒストグラムRGBモードでは、個別のRGBチャネルが表示されます。赤色のRチャネルが最初に、緑色のGチャネルが次に、その下に青色のBチャネルが表示されます。



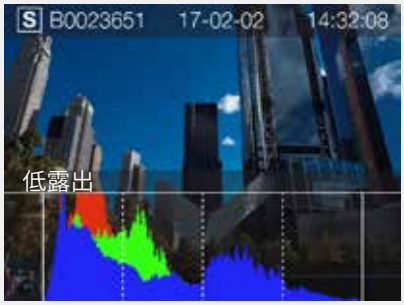
輝度ヒストグラムモード

輝度ヒストグラムモードでは、RGBチャネルが、輝度ヒストグラムを表示します。RGB情報は、白に統合されたRGBグラフフで表現されます。

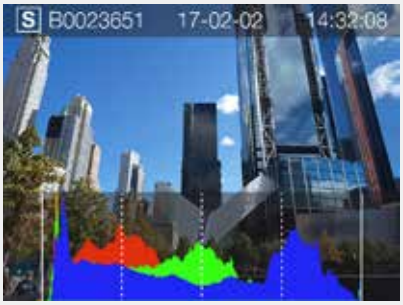
標準モード

このモードでは、SDカード（S）、日付（17-02-02）、時刻（14:32:08）、選択した絞り（f/11）、シャッタースピード（1/250）、ISO（100）、露出調整（+/- 0.0）、露出モード（A）、計測モード（中央重点）、ホワイトバランス（昼光）、レンズ情報（45mm）が表示されます。

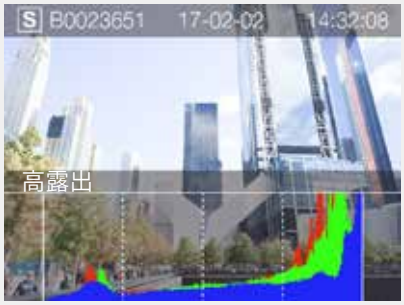
統合ヒストグラムモード－露出



露出アンダー



均一な露出



露出オーバー

ヒストグラム露出
ヒストグラムでは、それぞれの明るさレベルでの合計ピクセル数のグラフを示し、左側の黒から右側の白までの範囲の明るさがあります。画像を評価するための貴重なツールです。

適正露出のショットは全範囲のレベルがあり、露出アンダーや露出オーバーの画像は、目盛の左側か右側の部分にレベルが集中する傾向にあります。

ヒストグラムは、参考値にすぎません。ヒストグラムは良くないのに、意図した効果に最適な露出となる状況もいくつかあります。

以下のヒストグラムの例とその説明を参考にしてください。

露出アンダー
ヒストグラム表示は左に集中し、他の場所にほとんど画素がないのは、露出アンダーの可能性が高いことを示します。多くのディテールがシャドウ部分で失われます。

均一な露出
ヒストグラム表示が全範囲に広がっているのは、適正な露出である可能性が高いことを示します。少数の画素がなおも両極端にある場合があり、これはスペクトルハイライトや飽和したシャドウが多少あることを示していますが、これは適正露出ではよく普通にあることです。

露出オーバー
ヒストグラム表示は右に集中し、他の場所にほとんど画素がないのは、露出オーバーの可能性が高いことを示します。多くのディテールがハイライト部分で失われます。

再生

再生モードでは、最後に撮影した画像が表示されます。画像の確認、閲覧、拡大表示ができます。ズームインすると、フォーカスをチェックするための拡大画像を表示します。ズームアウトすると、複数の画像を一度に表示します。

グリップディスプレイまたはセンサーユニット（D）にある再生ボタン（B）を押します。

再生モードで、センサーユニット上で左右にスワイプして、再生画像を移動します。また、グリップ（A）のフロントホイールを使用することもできます。

画像は、ソフトボタン（C）を用いて削除できます。

ズームインおよびズームアウト

H6D背面のタッチ画面は、タッチセンサー方式の携帯電話やタブレットと似ています。H6Dカメラでの移動や制御には以下のジェスチャーを使用できます。

機能	アクション
ズームイン	カメラのグリップが再生モード（グリップの再生ボタンを押す）のとき、スプレッド（二本の指を遠ざけるように移動）するか、トゥルーフォーカスボタンを押します。
ズームアウト	カメラのグリップが再生モードのとき、ピンチ（二本の指を近づけるように移動）するか、またはAE-Lボタンを押します。
選択	1本指でタップ/プレスします。
戻る	右にスワイプします。

コントロール画面を表示画面の上から下にスワイプします。
コントロール画面を非表示　上にスワイプします。

アクション	機能
ダブルタップ	100%に拡大。もう一度ダブルタップすると、全体表示にズームアウトします。
右にスワイプ	戻る/画像を右に移動します。
左にスワイプ	画像を左に移動します。再生モードのみ。
下にスワイプ	コントロール画面を表示します。
上にスワイプ	コントロール画面を非表示にします。
タップ/プレス（押す）	アクション/ボタン/設定を選択します。
トゥルーフォーカス	ズームイン。
AE-L	ズームアウト。

注!
トゥルーフォーカスボタンまたはAE-Lボタンを1秒間押さえると、自動的に100%に拡大するか、または全体表示に縮小します。

9分割モード
9分割モードは、最大9枚の画像の概要を表示します。下にスクロールして、フォルダー内のすべての画像を表示します。AE-Lボタンを押すか、または二本指でピンチし、画像のブラウジング時に9分割モードを表示します。スターボタンを押すこともできます。

フォルダービュー
フォルダービューは、保存したフォルダーのリストを表示します。ハイライト表示されたフォルダーは現在のフォルダーで、再生中の画像が含まれています。別のフォルダーに移動してから、ズームインし、含まれている内容を表示することもできます。

9分割モードのとき、タッチディスプレイで、左上角にある「上のフォルダー」ボタンを選択するか、再生モードでAE-Lボタンを押します。

拡大表示ビュー

標準プレビュー

9分割モード

フォルダービュー

再生するカードを選ぶ

カードを選択して、画像を再生することができます。

どのカードを確認するかを選択するには、フォルダー構造を、「再生するカードを選択」ダイアログが表示されるまで上に移動します。フォルダー構造は以下のとおりです。

メモリーカード
フォルダー
9枚の画像
1枚の画像

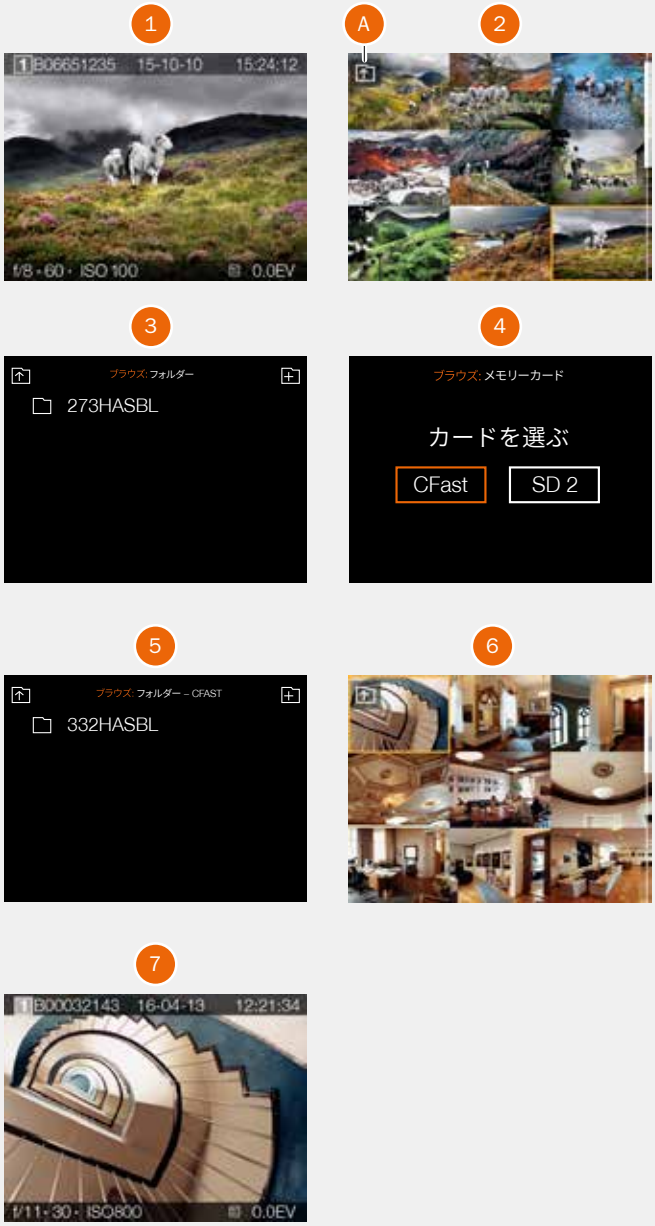
タッチ、またはボタンとスクロールホイールを使用して、カード選択ダイアログまで移動することもできます。

タッチによる方法：

1 1つの画像（1）を表示しているとき、内側にピンチして、9分割モード(2)に移動します。
2 9分割モードでは、左上角にある「上のフォルダー」ボタン（A）を押すと、フォルダーに移動します。
3 フォルダービューでは、左上角にある「上のフォルダー」ボタンを押すと、上のフォルダーレベルに移動します。
4 再生するカードを選択します。
5 フォルダー名（332HABL）をクリックしてフォルダーを選択します。
6 表示する画像を9分割モードから選択します。
7 選定された画像が表示されます。

ボタンを使用する方法：

8 1つの画像（1）を表示しているとき、AE-Lボタンを押すと、9画像ビュー（2）に移動します。
9 AE-Lボタンを繰り返し押し続けると、フォルダー構造を上に移動します。
10 任意のホイールを使用して、再生するカードカードを選択します。
11 AF-Dボタンを使用してカードを選択します。
12 ホイールとAF-Dボタンを繰り返し使用して、確認するフォルダーを選択します。



新しいフォルダーの作成

その時点でアクティブのメモリーカードに新しいフォルダーを作成することが可能です。新しいフォルダーが作成されると、以降撮影するすべての画像がそのフォルダー内に保存されます。フォルダー名は自動生成され、変更はできません。画像を前のフォルダーに保存することはできません。

タッチによる方法：

1 1つの画像（A）を表示しているとき、内側にピンチして、9分割モード（C）に移動します。
2 9分割モードでは、左上角にある「上のフォルダー」ボタン（B）を押すと、フォルダーに移動します。
3 フォルダーでは、右上角にある「フォルダーを追加」ボタン（D）を押して、新しいフォルダーを作成します。
4 フォルダーの作成ダイアログで、**作成**を選択して、新しいフォルダーを作成するか、または**戻る**を選択してスキップします。

ボタンを使用する方法：

1 1つの画像（A）を表示しているとき、AE-Lボタンを押すと、9分割モード（C）に移動します。
2 もう一度AE-Lボタンを押して、フォルダー構造を表示します。
3 任意のホイールを使用して、右上角にある「フォルダーを追加」アイコン（D）を選択します。
4 AF-Dボタンを使用して、フォルダーの作成ダイアログ（E）を表示します。
5 このダイアログで、**作成**を選択して、新しいフォルダーを作成するか、または**戻る**を選択してスキップします。

新しいフォルダーが作成されると、フォルダービュー（F）に新しいフォルダーが表示されます。前のフォルダー（332HASBL）内にある画像を閲覧するには、前のページで説明したとおりに行ってください。新しい画像は新しいフォルダーに自動的に保存されます。

注！
その時点でアクティブなカードに新しいフォルダーを作成することが可能です。他のカードを再生するとき、「フォルダーを追加」アイコンは使用できません。

1ビュー

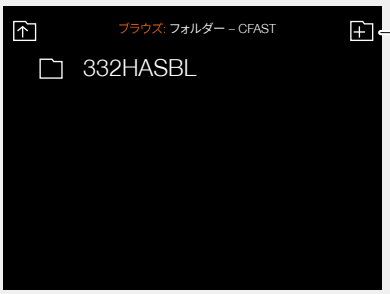
A

9分割モード

B

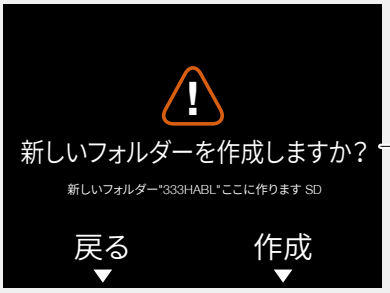
C

フォルダービュー



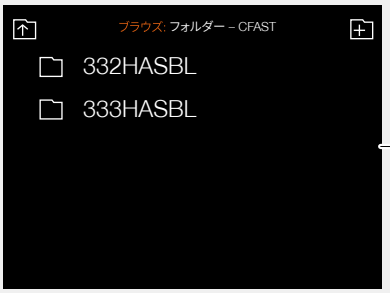
D

フォルダー作成のダイアログ



E

フォルダービュー



F

5.38 マルチショット－4ショット、6ショット

マルチショットはH6D-400cカメラのみで使用可能な機能です。通常の1ショット撮影に加えて、このカメラは4ショットや6ショットの撮影を行い、画像解像度や色忠実度を高めたり、モアレを低減したりすることができます。
マルチショットは、カメラがPhocusにテザー接続されている時にのみ利用できます。

4ショット
このモードでは、カメラは各画像間で1画素分センサーシフトして4回撮影を行い、各画素に完全なカラー情報を取り込みます。次に、画像はPhocus内で自動的に合成されて、高い品質を持つ1億画素の画像が生成され、その完全な1億画素RGBファイルを作成するために補間を必要としません。

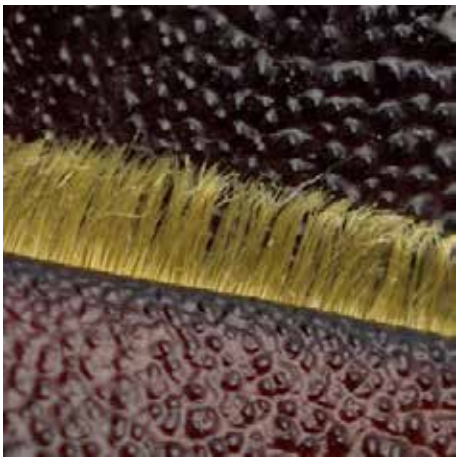
6ショット
このモードでは、カメラは1/2画素をシフトして上述の順序でさらに2回の撮影を行います。これにより、4億画素の解像度を持つ画像を生成し、最高の解像度と滑らかな色の階調を持つ画像が生成されます。

注意!
- マルチショットを使用するには、カメラをPhocusにテザー接続した状態にする必要があります。
- カメラブレによって画像が損なわれないように、カメラの設置は極めて安定した状態にしてください。
- また、使用する照明も、すべての画像で同一の照明であることを確保するために、非常に安定したものでなければなりません。

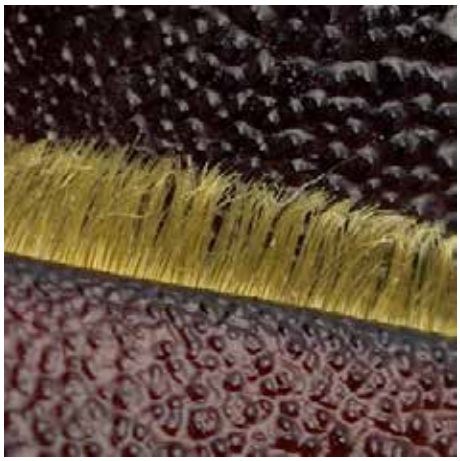
写真：Göran Liljeberg

1ショット 400%

4ショット 400%



6ショット 200%



5.39 PHOCUS

Phocusは、Hasselblad 3Fファイルの取り扱いを主眼においた撮影処理およびファイル管理アプリケーションです。

Phocus Mobileは、テザー接続での撮影時、遠隔表示と遠隔制御を提供します。iPhoneとiPadのどちらも、Phocus MobileはAppleアプリストアから無料でダウンロードできます。

PHOCUSの特長

プロフェッショナルな画像クオリティ

- ハッセルブラッド ナチュラルカラーソリューション（HNCS）
- HシステムとVシステム用レンズのレンズ補正（DAC）

専用ツール

- 高度なテザー接続カメラコントロール
- Phocus Mobile*
- シーンキャリブレーション・リプロダクションツール
- 最先端のモアレ除去
- 白飛び軽減、黒つぶれ軽減、鮮明度、ダスト除去ツール
- キャプチャーシークエンサー
- キーストーン補正
- Hasselblad動画ファイル対応
- 使いやすいインターフェイス
- 個別のワークフローシナリオ用に広範なカスタム化可能なオプション
- 画像調整、キーワード、ワークフロー設定のインポート/エクスポート
- 高品質印刷
- スライドショー
- 150機種を超えるDSLR（一眼レフカメラ）の基本RAWファイルのサポート（Mac OS-Xプラットホームのみ）
- テザー接続されたカメラは、Phocusに画像をインポートするためのカードリーダーとして利用可能

最高の画像クオリティ

PhocusはハッセルブラッドナチュラルカラーソリューションHNCS）をデジタルオート補正（DAC）と組み合わせて、作成する画像に高度なデジタル画像品質を提供します。Phocusを用いると、極端に高い解像度の画像でさえも発生しがちなモアレ効果が自動的かつ直接的にRAWデータ上で事実上除去され、画像のクオリティには影響を与えず、ポストプロダクション作業がはかどります。数多くのリモート機能を提供するPhocus Remoteカメラコントロールを用いると、テザー撮影の効率が向上します。たとえば、リモートフォーカス、ライブビュー、絞り、露出時間のコントロールがあります。

PHOCUS MOBILE

Phocus Mobileは、iPhone® 、iPad® 、iPod Touch® で利用可能です。Phocusを実行しているパソコンにワイヤレス接続が可能となり、高解像度のRAW、JPEGおよびTIFF画像を遠隔から閲覧できるようになります。これにより、スタジオでのクライアントと協働作業を行う際のソリューションが提供され、1台のパソコンの周りに集まるのではなく、各自がそれぞれのiOSデバイスで画像を表示できます。また、Phocus Mobileによって、テザー接続されたカメラの遠隔操作や遠隔トリガーが可能になり、数多くあるパラメータのすべてを1つの仮想カメラディスプレイ上に整理された形で見ながら制御することができます。この機能は、アクセスしにくい場所に設置されたカメラの遠隔操作に非常に便利です。

どこからでもどんなファイルでも

Phocusでは、ファイルがどこから来たものかに関わらず、画像の表示と作業を同じ直観的な作業環境で行うことができます。あらゆる種類のRAW形式や非RAW形式を表示、取扱い、調整、処理できます。

Phocusは、キヤノン、ニコン、ライカ、ソニー、富士フイルム、オリンパスを含む150機種を超えるカメラのRAWファイルに対応しています（Mac OS-Xプラットホームのみ）**。
たとえば、TIFF、JPEG、DNG、PNGなどの最も一般的なファイル形式を処理できます。一部の処理ツールは、ハッセルブラッド以外のファイルには対応していないものもあります。

* Phocus Mobileは、Appleアプリストアで無料でダウンロードできます。
** 使用可能な全リスト http://www.apple.com/aperture/specs/raw.html

注意！

Phocusは、ライセンスフリーのソフトウェアで、無制限にインストールができ、登録は必要ありません。

PHOCUSとHASSELBLADの撮影ファイル

H6Dは撮影し、それをHasselblad RAW形式ファイルとして、またはHasselblad RAW＋JPEG形式で同時に保存できます。

Hasselblad RAWファイルはまず、カメラ内ストレージ用のHasselblad独自の形式である3FR形式で保存されます。3FRファイルには、カメラで撮影された時と全く同一のデジタル化されたRAW画像が含まれています。3FR情報は、完全な現像をするには、さらにパソコンの処理（Phocusによる処理など）を必要とします。Phocusで現像した場合、3FRファイルはHasselblad 3Fファイルとなり、各ファイルには「.fff」の接尾辞がつけられます。他のRAW現像ソフトで現像した場合、3FRファイルは3Fには変換されませんが、要件に応じて、TIFF、PSDに直接エクスポートすることができます。
一方、テザー接続して作業する（この場合、Phocusを使用します）ときには、3FRファイルは自動的に処理されて、パソコンにバックグラウンドで保存され、ハードディスクでは個別に調整やエクスポートが可能な3Fファイルとして表示されます。メモリーカードに保存されている3FRファイルは、以下を用いて処理し完成させることができます。

- Hasselblad Phocus
- Adobe Camera Raw
- Adobe Lightroom
- Apple Aperture

撮影ファイルは、後でPhocusやその他のソフトウェアで処理するために3FRファイル（CFast、SDカードから）として保存できるほか、3Fファイルとしても保存できます（テザー接続した撮影やPhocusで処理/変換された3FRファイルの結果として）。どの場合でも、オリジナルの3FR/3Fファイルを保持する場合、将来的にPhocusやその他のソフトウェアの新しいバージョンで再処理して、改良や開発を利用する可能性もあります。

混合フォーマット
また、Phocusはその他ほとんどのファイル形式（一般形式や各社の独自形式）を処理できます。これは、その他のフォーマットを通常のPhocusワークフローで処理できることを意味します。あるいは必要に応じて、上述のとおり、Adobe/AppleのワークフローでHasselbladのファイルを処理することもできます。

動画ファイル対応
Phocusは、H6D-50cおよびH6D-100cからのRAW動画ファイルを処理して、動画編集ソフトウェアで使用するためにCinema DNGやApple ProRes形式にエクスポートできます。また、MP4形式の動画ファイルも、Phocusでプレビュー表示することができます。

注意！
Phocusを利用することは、最も総合的な方法であり、同時に最高の画像品質が得られます。PhocusおよびAdobeの方式は、RAW変換に関しては、ほぼ同一の結果をもたらす（ほとんどの場合、ただしすべてではありません）ため、どちらの方式が自分のワークフローに合っているかは個人的な選択となります。代わりに、Apple Apertureを利用することもできますが、この場合はDACやHNCSの利点は失われることになります。

5.40 レンズ

レンズの取り外し

注意!
コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
カメラ本体に指を入れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

1 片方の手でレンズを持ち、カメラ本体(A)を動かないように保持します。
2 レンズ取り外しボタン(B)を押します。
3 レンズを反時計回りに回転させます。
4 レンズ(C)をカメラから分離します。
5 カメラ本体に保護キャップ(D)を直に取り付けます。
6 損傷防止のために、取り外したレンズにレンズ保護キャップを取り付けます。
7 レンズは、両方のレンズ保護キャップを取り付け、レンズシェード(E)をレンズの前面ではなく逆向きにレンズに被せるように取り付けて保管します。

レンズの取り付け

注意!
コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
カメラ本体に指を入れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

1 レンズ取り外しボタン(A)を押し、カメラ本体から保護キャップ(B)を取り外します。
2 レンズの赤いマーク(C)がカメラ本体の赤いマーク(D)と揃うように、レンズを回転させます。
3 レンズをカメラ本体(E)に取り付けてから、レンズを時計回りにロック位置まで回転させます。
4 カメラを使用または移動する前に、レンズがカメラ本体にロックされていることを確認します。

レンズキャップの取り外し

1 親指と人差し指を窪み(A)に入れます。
2 窪み(A)をつまみます。
3 正面レンズキャップを取り外します。

レンズキャップの取り付け

1 親指と人差し指を窪み(A)に入れます。
2 レンズに正面レンズキャップを、所定位置にパチンと嵌まるように取り付けます。

レンズシェードの取り外し

すべてのレンズにはレンズシェードが付属されており、これは逆向きに取り付けた時に、運搬や保管時に保護する役割も担っています。

1 レンズシェード（A）を反時計回りに回します。
2 レンズシェード（A）を取り外します。

レンズシェードの取り付け

すべてのレンズにはレンズシェードが付属されており、これは逆向きに取り付けた時に、運搬や保管時に保護する役割も担っています。

1 レンズシェードをレンズの上に置きます。
2 レンズシェードの指標（A）がレンズの前面の指標（B）と揃っていることを確認します。
3 レンズキャップを、所定位置にパチンとはまるまで時計回りに回転させます。

フィルター

フィルターは、ねじ込み式（レンズに応じて67/77/95 mm）で、所定位置まで時計回りに回転させます。

フォーカスが変化してもレンズの前面は回転しないため、取り付けたフィルターも回転しません

これは、向きが重大な意味をもつ偏光フィルターやグラデーションフィルターの使用時に特に有用です。

フォーカス距離を設定するには

1 被写体までの距離を予測します。
2 フォーカス距離目盛（A）を調べ、マニュアルフォーカスリング（B）を回して、フォーカス距離を調整します。

注意！
レンズ鏡胴の上部には、窓を通して見える2つの距離目盛（フィートとメートル）があります。

5.41 バッテリー

バッテリーを充電する

注!
バッテリーは、初めて使用する際、約6時間で完全に充電されます。

1 カメラからバッテリー(A)を取り外します。
2 バッテリー充電器からの充電プラグをバッテリーグリップ(B)のソケットに差し込みます。
3 バッテリー充電器を標準(100-240V/50-60ヘルツ)家庭用コンセントに差し込みます。

充電中は、充電器のランプが以下の以下の通り表示されます。

緑色ライト点灯:スタンバイ(バッテリー未接続)。
黄色ライト点灯:充電中。
緑色ライト点灯:充電完了。

バッテリーステータスをチェック

パッテーリー残量は、ディスプレイとグリップディスプレイに小型バッテリーアイコンと表示できます。充電レベルの視覚的な表示です。残り容量が25〜30%のときは、赤色に変化します。バッテリーは、新しく充電されたものと早めに交換してください。

注意!
これらはあくまで目安です。残りのバッテリー容量に影響を及ぼす要因は数多くあります（例えば周辺温度など）。

注意!
ディスプレイオフ/スリープ/パワーオフの設定や、ディスプレイの明るさ設定を変更することで、バッテリー消費を節約できます。

5.42 ベースプレート

ベースプレートの取り外し

1 ベースプレート(A)をレンズの方に押しつけながら、固定具を持ち上げます。

注意!
一部の大型レンズでは、ベースプレートを取り外す前に、レンズを取り外す必要があります。

ベースプレートの取り付け

1 ベースプレート(A)をカメラ底部でスライドさせ、固定具が所定位置にパチンとはまったら止めます。

5.43 カメラの保管

注意!
長期間にわたりカメラを使用しない場合には、バッテリーを取り外してください。機材の損傷が防止されます。

注意!
カメラや機材は湿度から遠ざけてください。カメラが濡れた場合には、電源から外し、カメラを乾燥させてから使用してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

注意!
機材は、乾燥した環境に保管してください。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

カメラを保管するときは、カメラのグリップからバッテリーを取り外します。

カメラを使用しないときは、保護カバーリッドを取り付けます。

100c

6.1　ビューカメラの操作

H6Dカメラのセンサーユニットは取り外して、Hシステムマガジンインターフェイスを備えたビューカメラなど、別のタイプのカメラでも使用できます。これにより、イメージサークルが大きいレンズを使用してチルト/シフトなどのその他の機能を利用できるようになります。

H6Dカメラの現行のファームウェアでは、次のような操作モードが利用可能です。

1　フラッシュ同調モード
2　ピンホールモード

テクニカルカメラの使用についての詳細は、別書**TCC「テクニカルカメラオプション」**（www.hasselblad.comからダウンロード可能）を参照してください。

電源供給

H6Dカメラボディからセンサーユニットを取り外した場合は、DC入力（A）に外部電源を供給する必要があります。入力電圧範囲は12～24VDCです。

適切な外部電源は、Laptop Powerbankです。通常この電源は出力電圧が調節可能であり、長時間使用するのに十分な容量があります。動作が確認されている1つのモデルに、**XT-20000Q2 Power Bank**（**XTPower**製）があります。「https://www.xtpower.de」を参照してください。

Hasselbladは、リクエストに応じて、Power BankとカメラのDCケーブルを無料で提供しています（品番3054180）。販売業者までご連絡ください。

米国では別の電源として**「GBTIGER 50000mAh Power Bank」（モデル:B01N1B1）**がAmazon.comからお求めいただけます。付属のケーブルを使用する場合は、3.5mm×1.35mmのオス型プラグを5.5mmx2.1mmメス型ソケットに変換するDC電源ケーブルが追加で必要となります。

注意！
XT-20000QC2以外のモバイル用バッテリーを使用する場合は、自動停止する前の最低出力電力が**2.5W**以下であることを確認してください。この値が高いと、カメラをスタンバイモードにしたときに、バッテリーがオフになることがあります。

注意！
また、USBから電源を供給した場合でも、それだけでは十分な電源をカメラに供給できないため、上記のような外部電源が必要です。

電源の接続

外部電源ソリューション

XT-20000QC2

GBTIGER 50000mAh

フラッシュ同調モード

カメラ：機械式シャッターレンズを取り付けた、Hシステムマガジンインターフェイス付きビューカメラ。

手順：

1 H6Dカメラボディからセンサーユニットを取り外します。センサー前部のIRフィルターを損傷しないように注意します。

2 センサーユニットをビューカメラに取り付けます。メーカーからの説明書に従ってください。

3 付属のフラッシュ同調入力ケーブルを使用して、レンズのフラッシュ同調ポートとセンサーユニットのフラッシュ同調入力（A）とを接続します。

4 外部電源をDC入力ソケット（B）に接続します。センサーユニットが自動的に始動します。

5 カメラメニューから、カメラボディを選択します。ポップアップで、「フラッシュ同調」を選択します。メニューボタンを押すか、ポップアップの外側をタップして、保存し閉じます。

6 センサーユニットのLEDが緑色のときは、センサーユニットは撮影の準備が完了しています。オレンジの場合、ディスプレイの下にあるボタンをどれか押して、撮影する前にセンサーユニットを起動します。

7 露出パラメーター（絞りおよびシャッタースピード）はレンズで設定され、センサーユニットでは設定できません。

コントロール画面

フラッシュ同調モードでは、Hカメラで使用する時よりも制御画面の項目が少なくなります。この画面から、次の変更ができます。

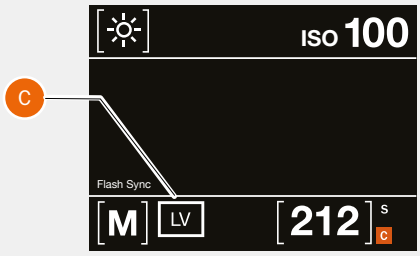
- ホワイトバランス
- ISO
- 露出モード（マニュアルまたは動画）

「LV」アイコン（C）をタップすることで、ライブビューを開始することもできます。なお、ライブビューではレンズの絞りが開放である必要があります。

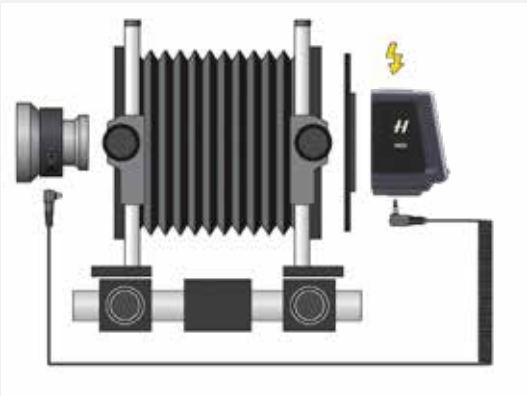
カメラボディ設定メニュー

フラッシュ同調および電源接続

フラッシュ同期モードでの制御画面



フラッシュ同調接続



ピンホールモード

光学系にフラッシュ同調端子がない場合は、ピンホールモードも使用できます。

手順:

1 H6Dカメラボディからセンサーユニットを取り外します。センサー前部のIRフィルターを損傷しないように注意します。

2 センサーユニットをカメラに取り付けます。メーカーからの説明書に従ってください。

3 外部電源をDC入力ソケット(A)に接続します。センサーユニットが自動的に始動します。

4 カメラメニューから、カメラボディを選択します。ポップアップで、「ピンホール」を選択します。メニューボタンを押すか、ポップアップの外側をタップして、保存し閉じます。

5 露出時間は制御画面で設定されます。

コントロール画面

ピンホールモードでは、Hカメラで使用する時よりも制御画面の項目が少なくなります。この画面から、次の変更ができます。

- ホワイトバランス
- ISO
- 露出時間
- 露出モード(マニュアルまたは動画)

オレンジボタン(B)を押すと、露出がトリガーされます。この操作は、制御画面とライブビュー画面のどちらからでも行うことができます。

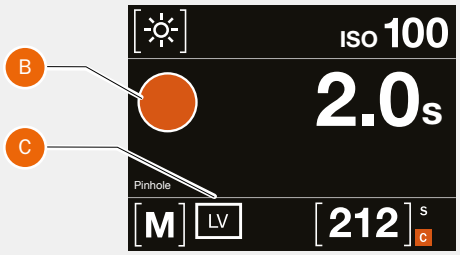
「LV」アイコン(C)をタップすると、ライブビューを起動することもできます。ライブビューがアクティブになると、オレンジの露出ボタンが表示されます。

注!
ライブビューのボタンは、プレスしたままにして、任意の位置にドラッグできます。

カメラボディ設定メニュー

電源の接続

フラッシュ同期モードでの制御画面



ピンホールモードでのライブビュー

動画

ビューカメラに取り付けられているとき、動画は、センサーユニットのストレージメディアに記録できます。以下の手順に従います。

1 メインメニュー画面の上部から下にスワイプして、コントロール画面を開きます。

2 露出モードをタップして「V」アイコンをタップし、動画モードを起動します。

3 制御画面から、以下の変更ができます。
－ホワイトバランス
－ISO
－シャッタースピード（1/30～1/8000）
－露出モード

4 レンズが開放されていることを確認してください。

5 動画ライブビューを始動するには、アイコン（A）をタップします。

6 動画ビデオライブビューでは、「-」と「+」の下の該当するボタンを押してシャッタースピードを設定できます。

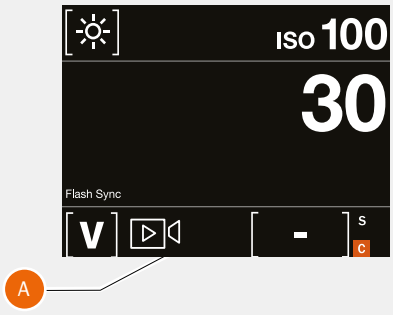
7 精密なフォーカスをするには、画面をダブルタップして、画面を50%または100%（設定による）に拡大します。

8 ボタン（B）をタップして、動画記録を開始します。

9 ボタン（C）をタップして、動画記録を停止します。

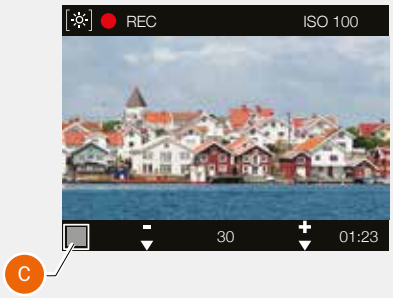
露出モードの選択

ピンホールモードでの制御画面



動画ライブビュー

動画記録



HASSELBLAD
True Focus
AE-L

7.1　アクセサリー接続図

7.2　HCレンズ群

HCD 4.8/24mm

HCD 4/28mm

HC 3.5/35mm

HC 3.5/50-IImm

HC 2.8/80mm

HC 2.2/100mm

HC Macro 4/120-IImm

HC 3.2/150mm

HC 4/210mm

HC 4.5/300mm

HC 3.5–4.5/50–110mm

HCD 4.0–5.6/35–90mm

7.3　オプションのHCレンズアクセサリー

HTS 1.5

（3043400）
HTS 1.5は、HTS24mm、HCD28mm、HC35mm、HC50mm、HC80mm、HC100mmレンズ用に設計されたチルト/シフトアダプターです。技術的な課題を解決するだけでなく、クリエイティブなソリューションの機会も提供します。

H 13、26、52接写リング

（3053513、3053526、3053542）
接写リングは、近接撮影時の最短撮影距離を短くするために、レンズとボディの間に取り付けられます。13mm、26mm、52mmの3通りのサイズが用意されています。
H6DにはTTL測光システムが搭載されているため、露出補正は自動的に行われます。

コンバーターH 1.7X

（3023717）
このコンバーターは、焦点距離を1.7倍に増やすために、レンズとボディの間に取り付けられます。レンズ群を拡張する便利な方法です。コンバーターH 1.7Xは、光学的にも機械的にも、Hasselblad Hシステムの全レンズと同じ優れたクオリティを備えています。光学設計は、4群6枚のレンズで構成されます。

コンバーター1.7xは、以下を除くすべてのレンズと組み合わせることができます。・ HCD 4.8/24mm ・ HCD 4/28mm ・ HC 3.5/35 mm ・ HC 3.5-4.5/50-110 mm ・ HCD 4-5.6/35-90 mm。H1.7XコンバーターをHC Macro 120 mmまたはHC300 mmレンズと使用するとき、オートフォーカス機能は無効化されます。

マクロコンバーターH

（5023720）
マクロコンバーターは、幅広いHシステムレンズ群の近接性能を向上させることを目的としています。HC 50-IIレンズと連携して最高の性能を発揮すること主眼に置いていますが、Hシステムの他の広角レンズでも使用できます。

7.4　オプションのアクセサリー

CFレンズアダプター

（3043500）
CFレンズアダプターは、H6Dカメラでほとんどの Vシステムレンズを使用できるようにします。全ての設定は完全にマニュアルであり、アダプターにはシャッターをチャージするためのレバーが備わっています。ファームウェア1.19.0以降が必要です。CFレンズアダプターについては、ご使用の前に最新のユーザーマニュアルをダウンロードしてください。

HVMウエストレベルビューファインダー

（3053328）
HVMウエストレベルビューファインダーにより、例えば、なんらかの効果を狙ったり、ポートレート撮影で被写体とのアイコンタクトが望ましい場合など、快適なローアングル撮影が可能となります。全てのレンズのオートフォーカス機能は完全に有効です。横長での撮影用で、縦長での使用には適しません。

プロシェードV/H 60 - 95

（3040740）
迷光に対して非常に効率的な保護が得られる調節可能なベローズレンズシェードです。コンパクトで平坦な折り畳み式のデザインで、機材ケース内の空間が節約できます。アダプターを使えば、すべてのHCレンズと実質的にすべてのVシステムレンズに装着できます。ガラスフィルター、ゼラチンフィルター、プラスチックフィルター用のフィルターホルダーも備わっています。

プロシェードアダプター

（3043415、3043417、3043419）
HCレンズ用のバヨネットマウントを備えた67mm、77mm、95mmのアダプターです。確実で安心できる取り付けのためのロックが備わっています。

トライポッドカップリングH

（3043326）
このアクセサリーを三脚に取り付けると、カメラをすばやく取り付け/取り外しできるようになります。カメラは正確かつ再現可能な位置にしっかりと固定されます。内蔵された2個の水準器がカメラの水平位置決めを容易にします。三脚クイックカプリングHは、1/4インチと3/8インチの三脚ネジ穴にフィットし、セーフティーキャッチ付きです。

フラッシュアダプターSCA 3902

(3053393)
SCA 3002システムと互換性のあるフラッシュをHasselblad H6Dに接続にするためのアダプターです。

UVスカイフィルター

紫外線を吸収し、色に影響を与えずに青色のもやを低減します。また、レンズ表面を保護します。強い光線下でカメラを使用する場合に特に推奨されます。
さまざまなレンズに合うよう3通りのサイズがあります。
67mm:3053470、77mm:3053474、95mm:3053478

偏光フィルター

非鏡面反射やグレアを減少させます。全般に色の飽和度を増大します。青空を強調することができます。3つのサイズがあります。
67mm:3053482、77mm:3053486、95mm:3053490

クイックプレート付きサポートストラップH

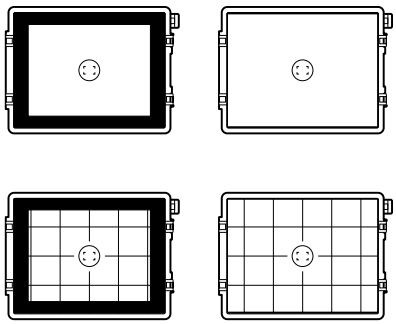
(3045154)
手持ち撮影での快適さと安全性を高めます。クイックプレート付きです。

カメラストラップH

(3053616)
裏面滑り止めグ付きの幅広カメラストップです。カメラに付属されています。

フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンは全て球面アキュートマットDタイプで、グリッド付きとグリッドなしがあり、スポット(Ø 7.5)とAF計測エリア用の中央マーク付きです。グリッドパターンは、テクニカル、建築、文書その他の分野の撮影の際に役立ちます。
H6D-50c(3043336)、H6D-50c(3043338)
H6D-100c(3043332)、H6D-100c(3043334)



レリーズコードH

（3043370）
ケーブル長が0.5 mのリモートレリーズコードです。

HVM補正レンズホルダー

（3053348）
カスタムメイドの視度補正のためのレンズホルダーです（レンズは眼鏡製造販売業者から入手可）。快適な視覚
および精度を得る目的に使用します。

HVD 90X/HV 90X & 90X-IIビューファインダー

（3053330、3053326、3053334）
眼鏡をかけているときでも100%の視野角が得られる90°レフレックスビューファインダーです。内蔵フィルフラッシュおよびマルチモード測光システムが含まれます。

アングルファインダーH

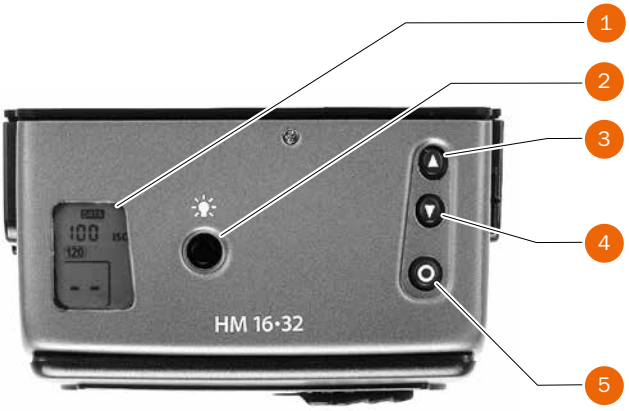
（S100A12359A00）
HV 90xおよびHVD 90xビューファインダー用のアングルファインダーです。カメラの位置にかかわらず、縦のビューイングアングルが可能です。
ビューファインダーアイピースの若干の改造が必要です。

7.5 HM 16-32フィルムマガジン

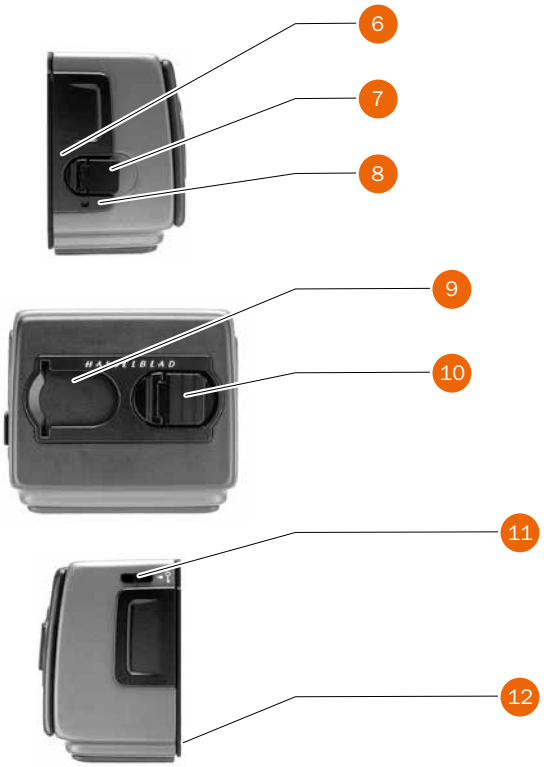
Hasselblad HM 16-32フィルムマガジンは、Hシステム内で洗練された半独立型のユニットです。個々の情報表示には独自の電源、液晶パネル、照明などがあります。120/220自動対応、自動巻上オン/巻上オフ、自動フィルム送り、液晶情報パネル、内蔵ダークスライド、カスタマイズ可能データインプリント、照明付き液晶、バーコード認識、カウントアップ/カウントダウンフィルムフレームリマインダー選択、マルチショットオプションなどの機能があります。

部品とコンポーネント

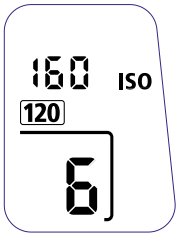
1 液晶パネル
2 液晶照明ボタン
3 上向き変更ボタン
4 下向き変更ボタン
5 機能セレクター
6 フィルム面指標
7 ダークスライドキー
8 ダークスライド指標
9 フィルムタブホルダー
10 フィルムホルダーキー
11 マガジン設定ロック
12 データバスインターフェイス



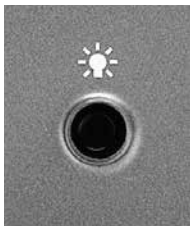
注意!
情報がマガジンとカメラ本体との間で送受信されるため、データバスの接続部を清潔に保ち、ダメージを与えないように注意してください。データバス接続とダークスライドの両方を保護するために、フィルムマガジンを保管するときにはマガジンの保護カバーを取り付けることをお勧めします。



液晶パネル
各種機能は、機能セレクターボタン（ループメニュー）を繰り返し押すことで表示でき、「上向き変更」と「下向き変更」ボタンを使用して変更します。どの設定も自動的に保存されます。極端な低温下では、新しい設定が液晶に表示されるのに数秒かかります。



液晶照明ボタン
ディスプレイ照明ボタンはマガジンがカメラに取り付けられていない時に有効で、押すことで液晶を明るく照らします。液晶は、ボタンを押している間は（最長10秒）、照明されたままになります。10秒経過した後でボタンを押すのをやめて、再び押すと、さらに10秒間照明できます。照明機能を頻繁に使用すると、マガジンのバッテリー寿命が著しく短くなりますので、注意してください。マガジンがカメラに取り付けられているとき、マガジンのボタンにはアクセスできませんが、代わりにグリップの照明ボタンを押して液晶の照明をオンにできます。

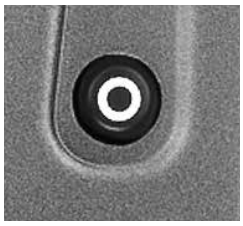


上向き変更/下向き変更ボタン

設定を「上向き」に変更します。たとえば、フィルム感度設定を増加させます。トグル操作。

設定を「下向き」に変更します。たとえば、フィルム感度設定を減少させます。トグル操作。

機能セレクター



マガジンで変更できる4つの機能を選択します。その機能はメニューループにあり、セレクターボタンを繰り返し押すと、全ての機能に順にアクセスします。非アクティブな状態が5秒間経過すると、ディスプレイはメイン画面に戻ります。

注意!
設定ロックスイッチがロックされていない場合のみ変更できます。

フィルム面指標

マガジンのフィルム面の実際の位置のための測定ポイントを提供します。重要な用途での計算に使用します。

ダークスライドキー

ダークスライドの引き出しや取り付けをします。折り畳まれたキーを開き、反時計回りに(開マークに向けて)360°回して引き出し、時計方向に(閉マークに向けて)360°回してを取り付けます。

注意!
ダークスライドは、マガジンがカメラに取り付けられている場合にのみ引き出すことができます。

ダークスライド指標

ダークスライドが所定位置にあるか、引き出されているかを示します。

赤=ストップ!=露出不可
(カメラからマガジンを取り外せる)

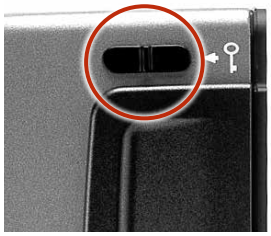
白=OK!=露出可
(カメラからマガジンを取り外せない)

ダークスライドが閉じているときに露出を試みると、ビューファインダーとグリップの液晶に「ダークスライドが閉じています」のメッセージが表示されます。

フィルムタブホルダー
どのタイプのフィルムが装填されているかを忘れないようにするために、フィルムロールパックにあるIDタブを保持するホルダーです。フィルムタイプを変更したら、忘れずに変更してください。

フィルムホルダーキー
フィルムホルダーをマガジン内に固定します。折り畳まれているキーを開き、反時計回りに90°回してフィルムホルダーを取り外し、時計回りに90°回してフィルムホルダーを取り付けます。

マガジン設定ロック
誤って変化するのを避けるために、全ての設定をロック可能です。設定を変更するには、設定ロック（図を参照）を停まるまで右にスライドさせます。変更した後で、設定ロックを左にスライドさせて（マガジンのマークを参照）、新しい設定を固定します。



データバスインターフェイス
マガジンとカメラのデータインターフェイスです。接点を清潔に保ち、ダメージを与えないようにしてください。マガジンの保管や輸送中は、保護カバーをしたままにします。

バッテリー
マガジンは、カメラから外された時に情報や設定を保持するためにバッテリーを使用します。カメラ本体に取り付けられているとき、マガジンはカメラのバッテリーから電源を供給を受けます。マガジンのバッテリー寿命は、使い方にもよりますが1～2年です（例えば、オフカメラでの照明など）。バッテリーが非常に低い状態（残量が約1ヶ月分）になると、マガジンの液晶にローバッテリーマークが表示されます。カメラ本体に取り付けられている限り、バッテリーがなくてもマガジンは機能し続けます。ただし、取り外すと、設定は保存されません。

バッテリー交換
折り畳まれたフィルムホルダーキーを開いて、フィルムホルダーを反時計回りに90°回して解除します。フィルムホルダーを完全に引き出します。フィルムマガジンハウジング内部の下のプレートに、スロット付きの丸いバッテリーカバーがあります。スロットに小さなコインなどを差し込み、反時計回りに約20°回します。カバーが解放されて、バッテリーを取り出すことができます。新しいCR2032/3Vリチウム（または同等なもの）と交換します。極性をよく見て（+）面を上に向け、カバーを元どおり取り付け（保持用ラグがバッテリー室のスロットに挿入されていることを確認）、時計回りに止まるまで回転させて、所定位置にロックします。バッテリーを正しく挿入しなかった場合、フィルムマガジンは損傷しませんが、機能しません。バッテリーの表面は素手で触れないようにしてください。汗が残ってバッテリーケースの電気伝導率を低下させ、腐食を生じさせるおそれがあります。バッテリーの交換後、マガジンのパラメーターは初期設定に戻ります（バーコード、120、データオン、カウントアップ）。

マガジンの取り付けと取り外し
ダークスライドが所定位置にない場合はカメラ本体からマガジンを取り外すことはできません（マガジンのダークスライドインジケーターが白のとき）。また、マガジンがカメラに取り付けられていないときは、マガジンのダークスライドを引き出すこともできません。これらの制限があることで、かぶりによる偶発的なフィルムの損失が防止されます。

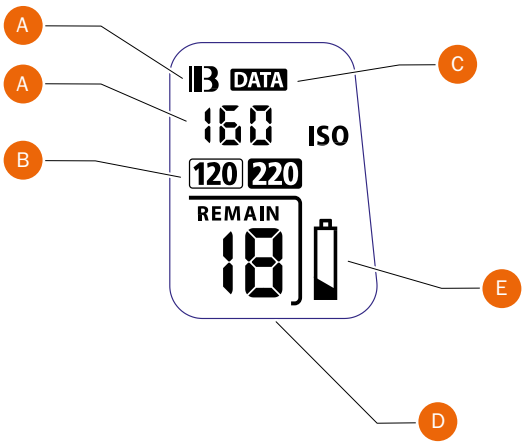
取り付け
所定の位置に収まるよう、カメラ本体のマガジンサポートにマガジン保持溝を合わせます。マガジンをカメラ本体の方に振り、クリック音が所定位置になるまでしっかりと押します。抵抗がある場合は、カメラのマガジン留め具が解除されていることが考えられます。その場合、解除ボタンを再び押して留め具を取り付け直します。マガジンは、フィルムホルダーが所定位置にあるなしにかかわらず、取り付けや取り外しができます。新しいフィルムに変更するだけであれば、マガジン全体を外さなくても、フィルムホルダーを取り外して装填しなおすことができます。

取り外し
マガジンのダークスライドインジケーターが赤色であることを確認します（ダークスライドが閉じていることを示す）。まず、マガジン解除ボタンのレバーを右（図4/1）に押し、その位置を維持しながら、ボタンの中心をカメラ本体（図4/2）に向けて内側に押し、最終的にマガジンを外します。

- レバーではなく、ボタンの中央を押すようにしてください。
- ダークスライドが閉じていない場合は、マガジンを取り外すことはできません。
- フィルムホルダーが、フィルムの途中で不用意に取り外された場合、光のかぶりにより当然ながら露出したコマの情報は失われます。ただし、フィルムを再び挿入した場合、フィルムは自動的に3フレーム分だけ送られて、露出されていない新しいフィルムに位置合わせされます。また、それに従い、フィルムカウンターは、フィルムホルダーが取り外される前に記録された元の数に3フレーム分を加算します。

機能セレクターボタンを繰り返し押すと ◉、次の順序で機能にアクセスできます。

A フィルム感度（ISO/バーコード）
B フィルム長（120/220/フレーム数）
B データ（オン/オフ）
D フレームカウンター（カウントダウン/カウントアップ）
E バッテリー残量警告マーク



フィルム感度設定/バーコード

フィルム感度（ISO/ASA）は自動的に、または手動で設定できます。自動設定では、バーコードが使用されます（この機能は一部のフィルムのみ、特にフジフィルムに備わっています）。これは初期設定です。

マガジンが「バーコード自動」に設定されている場合にのみ、フィルム設定（ISO/フィルム長）が自動的に設定されます。すなわち、バーコード付きフィルムではフィルム感度設定を上書きできませんが、マニュアル設定では、バーコード付きフィルムのフィルム感度を上書きできます。

バーコードのないフィルムは、その感度を手動で設定する必要があります。バーコード付きフィルムの感度設定を上書きする場合も、手動設定する必要があります。

例

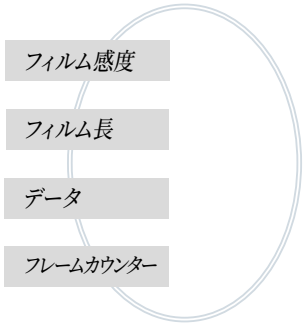
マニュアル設定にするには

1 マガジン設定ロックがロック解除位置にあることを確認します。
2 数値（またはバーコードマーク）がISOとともに表示されるまで、◉ボタンを押します。
3 必要な設定に達するまで▲または▼ボタンのどちらかを押します。
4 新しい設定は、5秒間のタイムアウト後に自動的に保存されます。
5 液晶設定ロックをロック位置に戻します。

注意！
標準フィルムとバーコード付きフィルムの両方を使用する（すなわち、バーコード付きフィルムを上書きする）場合、それに従い設定を変更したことをチェックしてください。

フィルム長/コマ数

120フィルムと220フィルムの両方を使用することができます。120フィルムでは8フレーム（「半分の長さ」の120フィルムを使用した場合のみ）もしくは16フレーム、220フィルムでは32フレームです。バーコード付きの場合は、フィルム長設定（およびフィルム感度セット）は自動的になります。液晶にはバーコードのマークと適切なフィルムの長さが自動的に表示されます。（バーコード付きフィルムでは、フィルム感度は上書きできますが、フィルムの長さは上書きできません）。



ただし、バーコードがない場合は、以下の手順に従ってください。

フィルムタイプ設定にアクセスするには：

1 マガジン設定ロックがロック解除位置にあることを確認します。
2 120または220のマークが表示されるまで、◉ボタンを押します。
3 必要な設定に変更されるまで▲または▼ボタンのどちらかを押します。
4 新しい設定は、タイムアウト後に自動的に保存されます。
5 マガジン設定ロックをロック位置に戻します。

データ写し込み設定

データ写し込みはマガジンメニューによって起動/停止ができます。

データ設定へのアクセス：

1 マガジン設定ロックがロック解除位置にあることを確認します。
2 データマークが表示されるまで、◉ボタンを押します。
3 オンまたはオフになるまで、▲または▼のいずれかを押します。
4 新しい設定は、5秒間のタイムアウト後に自動的に保存されます。
5 マガジン設定ロックをロック位置に戻します。

フィルム感度の手動設定。

220フィルム長の設定。

データインプリント設定。

「残りフレーム数」カウンター設定。

注意！
データ写し込み機能の操作や変更は、カメラメニューからアクセスできます。詳細は、別の節を参照してください。

フレームカウンター設定

フィルムに未露出のフレームが何枚分残っているか、何枚のフレームが露出済であるかのいずれかを示すためにフレームカウンターを設定できます。液晶には、選択した設定に加えて、残りのフレーム数を知らせる「Remain（山数）」が表示されます（「カウントダウン」）。この表示がなければ、反対の「カウントアップ」であり、 次に使用されるフレームの番号（例えば、4であれば既に3枚のフレームが露出されたことを意味する）が表示されます。この情報は、グリップの液晶やビューファインダーの液晶にも自動的に表示されますが、マークの上に数値が表示されます。

アクセスフレームカウンター設定：

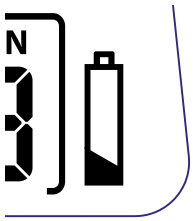
1 マガジン設定ロックがロック解除位置にあることを確認します。
2 「Remain」が表示されるまで◉ボタンを押します。
3 望ましい設定になるまで▲または▼ボタンのどちらかを押します（トグル機能）。
「オン」は、ロールに残っているフレーム数を示します。
「オフ」は、次のフレームが何番目かを示します。
4 新しい設定は、5秒間のタイムアウト後に自動的に保存されます。
5 マガジン設定ロックをロック位置に戻します。

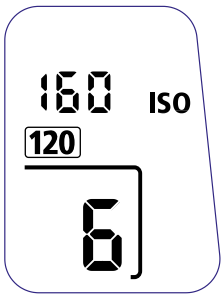
バッテリー残量マーク

バッテリーマークは、マガジンの液晶にバッテリーの充電が必要なときにのみ表示されます。

例

- 120フィルム長を手動設定。
- フィルム感度（ISO160）を手動設定
- 5フレーム露出済み（正規の120フィルムでは、11フレーム残）
- バッテリーは機能している





フィルム装填

フィルムマガジンは、カメラに取り付けているかどうかにかかわらず、装填が可能です。マガジン内部は定期的に点検し、前回のフィルムロールによる埃、粒子、紙切れを除去してください。フィルムマガジンの着脱の際は、直接光が当たらないようにしてください。

1. 折り畳まれたフィルムホルダーキーを開いて、フィルムホルダーを反時計回りに90°回して解除します（A）。フィルムホルダーを完全に引き出します。
2. 一方の端をホルダー内の固定スタッドに被せ、もう一方の端をばね入りの保持アームの下に入れて、上側のスプールホルダーに空の巻き取りスプールを配置します。所定位置でクリック音がするまで、スプールを少し回転させます。
3. 新しいフィルムロールから保持用の紙帯を外し、下側のスプールホルダーに配置します。正しい向きについては図を参照してください。フィルムスプールの向きが間違えていないか確認してください。
4. フィルムロールから裏紙を8〜10 cm引き出し、裏紙の舌部を巻き取りスプールのスロットに差し込みます。スプールを完全に一回転させて、重なり合った裏紙によって舌部が所定位置にしっかりと保持されていることを確認します。
5. 正しい向きを確保しながら、フィルムホルダーをフィルムマガジン本体に元どおり挿入します。マガジンに向けて内側にしっかりと押し、特に注意を払って、両側がマガジン本体と水平が保たれていることを確認してから、フィルムホルダーキーを時計回りに90°回してフィルムホルダーを所定位置にロックし、キーを折り畳んで格納位置（B）に戻します。ホルダーの左側を強めに押すことにより、確実かつ正確なマガジンの位置付けが簡単になることもあります。カメラがアクティブになるか、スタンバイモードになっている場合、フィルムは最初のフレームまで自動的に巻き上げられます。

音声信号

最後の1フレームが撮影されると、ビープ音が鳴ります。この機能は、オプションでオフにすることができます。

フィルム取り出し

フィルムの装填時と同様に、フィルムホルダーを取り外します。撮影済みのフィルムロールをしっかりと掴んで取り出します。裏紙がしっかりと巻かれていること、また紙帯によって適切にシールされていることを確認します（型式によってはバンドを湿らせて接着剤を活性化する必要がある場合もある）。露出済みフィルムは強い光源や尖った物との接触を避けて保管してください。残った空のスプールを、巻き取りスプールの区画に移動します。

HASSELBLAD
H6D
HASSELBLAD

問題	考えらえる原因	対策
エラーメッセージ	-	「8.1 エラーメッセージ」(196ページ)を参照してください。
カメラの電源が切れる	カメラが放電の影響を受けている可能性があります。これは、グリップの制御ボタンの周囲が、偶発的に導電性のコードや接地された材料に接触した場合に発生することがあります。 これによってカメラの電源は切れますが、損傷は何も起こりません。	グリップ上のオン/オフボタンを押して、カメラを起動します。
言語設定が間違っている	センサーユニットが理解できない言語に設定されている場合(例えば、レンタルカメラなど)には、本書にある手順や図に従い、お好みの言語に移動できます。	8.3 (197ページ)を参照してください。
画像に暗い、色付きのスポットやラインがある	カメラレンズの表面にごみや粒子があります。	「8.4 レンズガラスの清掃」(198ページ)を参照してください。
	センサーユニットの赤外線(IR)フィルターの表面にごみや粒子があります。	「8.5 センサーユニットフィルターの清掃」(199ページ)を参照してください。
温度警告アイコンが表示される	極端な連写を行うと、センサーユニットのプロセッサーの駆動が大きくなり、熱が発生します。これは、周囲温度が高い場合に発生することがあり、画像ファイルにノイズが発生します。 約60°Cになると、センサーユニットを一時的に機能停止して、センサーユニットを冷却することを知らせるダイアログが表示されます。	センサー単位を少なくとも20分間冷まします。
センサーユニットの日付と時刻の設定が機能しない	センサーユニットの日付と時刻の設定(ファイルやフォルダーラベルも含まれる)は、USB3/Phocus接続時に自動的に更新されます。これらの設定は、メインバッテリーやUSB3を定期的に使用すると自動的に充電される小型の充電式電池によって約2週間保存されます。	センサーユニットを12時間にわたりオンのまま放置します。
バッテリー残量は十分なのに、カメラの電源が切れる	バッテリーの充電カウンターの同期がとれておらず、リセットする必要があります。	「バッテリーリセットの説明」(196ページ)。

8.1　エラーメッセージ

背面ディスプレイやカメラのグリップディスプレイに何らかのエラーメッセージが表示された場合は、これらの指示に従います。

注意!
コンポーネントをカメラに取り付けたり、カメラから取り外したりする際は注意してください。これにより、データバス接続部の損傷を防止できます。

1　カメラからコンポーネントを取り外します。
2　コンポーネントをカメラに再び取り付けます。

それでもエラーメッセージが表示される場合、以下の手順に従います。

1　バッテリーグリップを取り外します。
2　10秒間待機します。
3　バッテリーグリップを再び取り付けます。
　　これで、カメラのプロセッサーがリセットされます。

それでもエラーメッセージが表示される場合、以下の手順に従います。

1　エラーメッセージをメモします。
2　現地のHasselblad販売店までお問い合わせください。

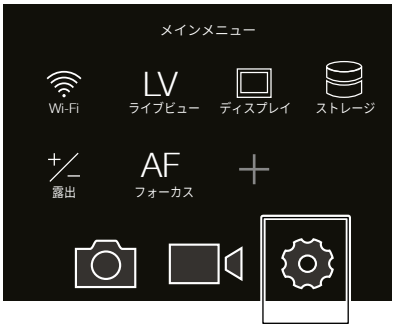
8.2　バッテリーのリセット

バッテリーステータスがOKの場合でも、カメラの電源が突然切れる場合、考えられる原因の1つとして、バッテリーの充電カウンターが同期していない可能性があります。次の手順に従って同期させてください。

1　バッテリーをフル充電します（4〜12時間）。まず充電器をバッテリーに差し込んでから、充電器をコンセントに差し込みます。
2　充電が終わったら、バッテリーを充電器から外します。バッテリーをカメラに取り付けないでください。
3　バッテリーが取り付けられていない状態で、グリップのメニューボタンとWBボタンの両方を押し続けます。メニューボタンは、グリップの上部のボタンで、動画アイコンと白い三本の線があります。
4　これら2つのボタンを押したまま、バッテリーをカメラに取り付けます。ビープ音が聞こえたら、バッテリーの再プログラムは完了です。そうでない場合、音が聞こえるまでステップ2と3を繰り返します。
5　カメラをオンにして、バッテリー残量が100%にリセットされたことを確認します。
6　これでカメラとバッテリーを使用する準備が完了します。

8.3 センサーユニットの言語を不明の言語から変更する

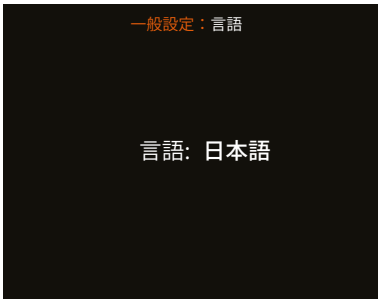
メインメニュー



一般設定アイコン

一般設定メニュー

言語メニュー



メインメニュー→一般設定→言語

1 背面ディスプレイの一般設定アイコンを押します。
2 一般設定メニューが表示されます。
3 地球儀アイコンのあるメニュー項目（上から10番目の「言語」）に移動します。
4 下にスクロールして言語を選択します。

右にスワイプして、メニュー/終了ボタンを押し、メインメニューに戻ります。

8.4 レンズガラスの清掃

埃を除去する

注意!
ガラス表面に指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

レンズガラスに埃がある場合、以下の手順に従います。

1 ブロワーブラシや柔らかいレンズ用ブラシで埃を除去します。

染みを除去する

注意!
ガラス表面に指で触れないでください。機材の損傷が生じることがあります。

レンズガラスに染みがある場合、以下の手順に従います。

1 染みを除去する方法が定かでない場合には、現地のHasselblad認定サービスセンターまでお問い合わせください。
2 レンズガラスを高品質のレンズ洗浄液で洗浄します。

8.5 センサーユニットフィルターの清掃

注意!
コンポーネントをカメラから着脱する際は注意してください。データバス接続部の損傷を防止できます。

注意!
センサーユニットを取り外す際には、カメラ開口部に異物が入らないようにしてください。カメラ開口部は非常に精密です。機材の損傷を防ぐのに役立ちます。

1 USB 3ケーブルが接続されている場合、取り外します。
2 センサーユニット解除ボタンを右に回します。
3 その位置を維持しながら、ボタンの中心をカメラ本体の内側に向かって押し、最終的にマガジンを解除します。
4 清浄な圧縮空気を用いて、IRフィルターの外面を慎重に掃除します。

注意!
IRフィルターのガラスを清掃するため缶入り圧縮空気を使用する場合、使用する前に説明書を注意深くお読みください。フィルターの損傷を防ぐのに役立ちます。

圧縮空気によって、フィルターのすべての問題が解消されなかった場合は、Eワイプを使用します。以下の手順に従ってください。

1 切り欠き部分で破って開封します。
2 パッケージからEワイプを取り出し、IRフィルターの幅に合わせてEワイプを折り畳みます。
3 ワイプの端部を2本か3本の指でしっかりと押さえ、フィルター面に均等にしっかりと接するようにします。
4 途切れのない一動作で表面を拭きます。

注意!
初回に除去した粒子を再び付着させる可能性があるため、Eワイプの同じ側は使用しないでください。

1 掃除し終えたら、すぐにカメラにセンサーユニットを再び取り付けます。
2 何枚か画像を撮影します。
3 画像を点検します。

注意!
センサーの前部にあるガラスIRフィルターは取り外さないでください（埃などの理由で）。機材の損傷が生じることがあります。必ず現地のHasselblad認定サービスセンターにお問い合わせください。

現地のHasselblad認定サービスセンターにお問い合わせください。

Hasselblad H6Dユーザーガイド

このガイドの記載内容は、情報提供を目的とし、予告なく変更されることがあり、またVictor Hasselblad ABの責務であるとは解釈されるべきではありません。

このユーザーガイドのH6D製品画像は、Hasselblad H6Dで撮影されたものではありません。見やすいよう3Dで作成されています。これらの画像は図解することのみを目的とし、Hasselblad H6Dによる画像品質を表現することを意図するものではありません。

このマニュアルのテキストは、Victor Hasselblad ABの明示的な許可なく転載や再利用することはできません。

このマニュアルの画像は、それを撮影した写真家の明示的な許可なく、転載や再利用はできません。

このユーザーガイドの全テキストの著作権：© Victor Hasselblad AB.
このユーザーガイドにある特定の写真家の出典のない画像の著作権：© Victor Hasselblad AB.

Victor Hasselblad ABは、このマニュアルに記載されている誤りや不正確さについていっさいの義務および法的責任を負いません。
Victor Hasselblad ABは、Hasselbladのソフトウェアや製品の使用中、あるいは使用の結果として発生した損失や損害については義務および法的責任を負いません。

Hasselblad、Phocus、Phocus Mobileは、Victor Hasselblad ABの商標です。

AdobeおよびAdobe Photoshopは、Adobe Systems, Inc.の商標であり、Macintosh、Mac OS、iPhone® 、iPad® 、iPod Touch® の商標です。

Canon、Nikon、Leica、Sony、Fuji、Olympusは、各社の商標です。E-Wipeは、Photosol Inc.の商標です。

写真出典：
Ian Lawson

Copyright © 2018

Victor Hasselblad AB

All Rights Reserved.